鐵道省文書

部門	類別	細別	結了年	收藏所
第一門 監督	四、軌道 イ、特許	佐賀電気軌道（元川上軌道 佐賀軌道）	大正五年 大正七年	營業廢止

保存種別	滿期年	書庫棚番號	
第一種	永年		二巻

国立公文書館
分類 運輸省 49
排架番号 3A 22-2 261
国立公文書館 National Archives of Japan

七年四月二八日製本済
件数
二〇件
係印

国立公文書館
National Archives of Japan

第一門 監督

四、軌道

佐賀電気軌道（元、川上軌道 佐賀軌道）ノ特許

自大正五年 至大正七年

巻二

倉庫	書棚	棚號

順號	年月日	番號	件名	備考
一	一、一五	監一七	待避線敷設ノ件	
二	五、三一	監一〇〇四	石油瓦期發動機関車一時使用並其構造ノ件	
三	八、一四	監一五二三	延長線敷設特許ノ件	
四	九、二		同請書進達ノ件	
五	一〇、一七	監一八一五	特許線路変更ノ件	
六	一〇、二一	監一八八三	延長線工事施行ノ件	
七	一〇、二七		延長線工事着手ノ件	
八	一〇、二三		工事施行認可状交付ノ件	
九	三、五		認可申請書訂正ニ関スル件	
一〇	大六、一、九	監二三五九	工事方法変更ノ件	
一一	一、九	監二三六〇	延長線一部工事施行ノ件	
一二	一、二七		踏切張板工施行ニ関スル件	
一三	一、二九	監五二	工事方法変更ノ件	
一四	二、八		運輸開始報告ノ件	
一五	四、二四	監五五八	機関車構造ノ件	
一六	四、二八		機関車焚切検査ノ件	
一七	五、二八	監七五二	貨車引込線敷設ノ件	

鐵道省

順號	番號	年月日	件名	備考
一八		五、二三	佐賀駅構内引込線敷設ノ件	
一九	監一〇七八	六、一九	車輌聯結延長ノ件	
二〇	監三三五	七、三、一六	側線敷設ノ件	

鐵道省

(大二…)

第七號 大正五年一月七日受領
大正 月十二日達濟
第三三二號 大正四年十二月二十一日立案
月 日受領
淨書 校合

副總裁
總裁
監督局長
監理課長
庶務課長
内閣總理大臣
内閣書記官長
内務大臣
次官
技術課長
土木局長
道路課長

川上軌道待避線敷設ノ件

回議用紙
案
鐵道院

番號

佐賀縣知事
大正四年十二月七日附土第六七二號川上軌道株式會社待避線敷設ノ件稟伺ノ通
年 月 日
内閣總理大臣
内務大臣

大正十二月二十一日内協議

670

可

四十四　印　課長

一　川上軌道

一　工事方法変更ノ件（待避線敷設）

右審査スルニ支障ナシト認ム

17/12

裏面白紙

国立公文書館
National Archives of Japan

乾 1332
4. 12. 14

5374

土第六〇七一號

大正四年十二月十日

佐賀縣知事 石橋 和

内閣総理大臣伯爵大隈重信殿
内務大臣法學博士一木喜徳郎殿

待避線敷設ノ件ニ付稟伺

川上軌道株式會社ヨリ別紙ノ通待避ノ線敷設ノ義願出候ニ付調査候處營業上不得止モノニシテ其ノ復線ハ路幅ヲ擴築シテ敷設スルモノナレハ道路交通上支障ナキモノト被認候ニ付許可致度候条此段及稟伺候也

佐賀縣

裏面白紙

690

国立公文書館 National Archives of Japan

發第二四五號

停留場待避線敷設許可願

弊社軌道中福田停留場ハ佐賀縣佐賀郡春日村大字尼寺字福田佐賀起點参哩拾八鎖ノ個所ニ於テ単線停留場設置致居候處運輸上不便ヲ感シ候ニ付待避線敷設仕度候間御許可被成下度別紙設計書及圖面相添ヘ此段奉願候也

大正四年十一月十三日

佐賀縣佐賀郡神野村大字神野千百貳拾八番ノ六
川上軌道株式會社
取締役社長 真崎辰五郎

佐賀縣知事石橋和殿

(甲)

福田停留場待避線敷設工事設計書

一金五百八圓拾錢貳厘

是レハ待避線長参鎖六拾節敷設工費

内訳

種目	材料	長	巾/厚	徑	員數	單價	代價	摘要
用地	田				三一坪二	一五〇〇	四六八〇〇	
仝	宅地				一〇	二〇〇〇	二〇〇〇	
盛土	土砂	別紙計算ノ通リ			一四立坪四四	一〇〇〇	一四四四〇	單價表ノ通リ
土羽	切芝	別紙計算ノ通リ			一七面坪六四	二七〇	四七六二	單價表ノ通リ
電柱移轉					壱本	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	
計							七八〇〇二	

種目	材料	長	巾/厚	徑	員數	單價	代價	摘要
							軌條敷設ノ部	
参拾封度軌條	丁字形鋼鉄	三〇呎			一六本	一四〇七〇	二二五一二〇	
轉轍器					貳組	三二〇〇〇	六四〇〇〇	轍叉六番形
轉轍器用枕木	檜材	自五呎六吋 至九呎六吋	六吋 / 四吋四分一		貳組分	一七五二〇	三五〇四〇	
枕木	栗材	五呎	〃 / 〃		九〇挺	三五〇	三一五〇〇	
道床	砂利	三鎖六〇	二間 / 二		四立坪六八	八〇〇〇	三七四四〇	長壱鎖ニ付壱坪参合敷込ミ
上敷砂利		四〇間			一六〇	一〇〇〇	一六〇〇〇	径八分以下ノモノ
敷設手間	工夫				二〇人	五五〇	一一〇〇〇	軌條敷設撓坦ハ轉轍器取付共一切
手傳	人夫				二〇人	五〇〇	一〇〇〇〇	路面堀取材料運搬敷設手傳路面均仕上一式
計							四三〇一〇〇	
合計							五〇八一〇二	

川上軌道株式會社

本工事ハ大正二年九月十六日付御認可ヲ得タル工事方法ニ依リ施工スルモノトス

(乙)

盛土立壱坪當リ單價表

種目材料		長	巾厚	徑	員數	單價	代價	摘要
盛土	土砂				一〇立坪	一〇〇	一〇〇	
運搬	人夫				一〇人	五〇〇	五〇〇	
鋤取	人夫				四人	五〇〇	二〇〇	
地均坐	人夫				四人	五〇〇	二〇〇	
計							一〇〇〇	

土羽面壱坪當リ單價表

種目材料		長	巾厚	徑	員數	單價	代價	摘要
筋芝	野芝	一〇尺	二尺五		四八枚	〇二五	一二〇	草根ノ能ク擱ミ付キタルモノ
土羽打	人夫				三	五〇	一五〇	土羽打仕
計							二七〇	

種目材料	長	巾厚	徑	員數	單價	代價	摘要

筋芝ハ法高壱間ニ付八通リトシ延長壱間ニ六枚使用ノコト

六ノ一

内務省 四佐土第47號 5.25

監 第一〇〇四號 大正五年 五月廿六日受領 五月三十日達濟

淨書 校合

監軌 第二一七二號 大正五年 五月 日受領 五月二十日立案

總裁

副總裁

監督局長 監理課長 庶務課長

内閣總理大臣

内閣書記官長

内務大臣

次官

土木局長 道路課長 技術課長

川上軌道石油瓦斯發動機關車一時使用竝其構造ノ件

回議用紙 鐵道院

案ノ一

佐賀縣

番號

大正四年十月二十九日附出願川上軌道株式會社石油瓦斯發動機關車一時使用ノ件許可ス

年 月 日

内閣總理大臣

内務大臣

案ノ二

指令

佐賀縣知事

大正四年十一月一日附保第五〇九二號川上軌道株式會社石油瓦斯發動機関車構造ノ件稟伺ノ通

年　月　日

内閣總理大臣
内務大臣

案三　六八一

年五月三十一日

監督局長
土木局長

番號

佐賀縣知事宛

通牒

客年十一月一日附保第五〇九二號ヲ以テ川上軌道石油瓦斯發動機関車一時使用ノ件副申進達相成候處右副申ノ書ハ便宜稟伺書ヲ兼子タルモノト看做シ別紙ノ通夫々指令相成候條其ノ構造ニ付テハ貴官ニ於テ認可有之度

五八九八 二 還

一 川上軌道ニ石油發動車使用ノ件

本件上陳中止ト認ム

本件ハ命令書ヲ変更スルモノニアラ
サルヲ以テ役使用ニ対シ許可ヲ与ヘ
其ノ工事方法ハ知事ニ於テ認可
スヘキモノナリ然レトモ詳細ナル図書ヲ
添附シアレハ便宜許可ノ申請ト工事
方法ノ稟伺ヲ兼ルモノト看做シ處
分ノ際許可及稟伺ニ対スル指令ノ二
案ト為シ其ノ旨知事ニ通牒シ
可然ト認ム

鐵道院

五〇九二

大正四年十一月一日

佐賀縣知事石橋和

内閣總理大臣伯爵大隈重信殿
内務大臣法学博士一木喜徳郎殿

川上軌道株式會社ヨリ石油瓦斯發動車使用ノ儀別紙ノ通申請ニ付調査候処右ハ鉄道横過ノ高架橋竣工ノ日(大正五年九月十五日)迄管下佐賀郡神野村大字神野字一本松四百十九ノ十番地先ヨリ仝郡仝村大字仝字一本松八百二十四ノ一番地先ニ至ル軌道線路哩程二十六鎖十七節間ノ運輸原動力ニ石油瓦斯發動車ヲ使用スルモノニシテ事情止ムヲ得サルモノト被認候条御許可相成度此段及副申候也

(了)

佐賀縣

發第二三四號

石油瓦斯發動車使用許可願

佐賀縣佐賀郡神野村
川上軌道株式會社

16

国立公文書館
National Archives of Japan

石油瓦斯發動車使用許可願

當會社軌道佐賀縣佐賀郡神野村大字神野字一本柗四百拾九ノ十番地先ヨリ仝縣仝郡仝村大字仝字二本柗八百六拾参ノ一番地先ニ至ル特許線路哩程拾四鎖拾七節及仝上終点ヨリ仝縣仝郡仝村大字仝字仝八百貳拾四ノ一番地先ニ至ル假軌道線路哩程拾貳鎖合計貳拾六鎖拾七節間運輸開始仕度候處本線路ハ院線九州鐵道ヲ高架橋ニテ横過シ現在營業線路ニ接續スル事ニ相成居候得共未タ高架橋竣成セサル為メ連絡シテ運轉スル事ヲ不得候ニ付該區間ニハ特別ニ原動力車ノ設備ヲ要スル次第ニ御座候然ルニ當會社ノ原動力車ハ獨逸國アーサーコッペル會社製無煙炭及骸炭燃料ノ蒸汽機關車ヲ使用スルコトニ御許可ヲ得居候處目下戰時ノ為メ右機關車ヲ購入スルコト到底出来難候間鐵道横過高架橋竣成ノ日（大正五年九月十五日）迄右區間ニ石油瓦斯發動車使用ノ義特別ノ御詮議ヲ以テ御許可被成下度別紙構造仕様書及圖面相添ヘ此段奉願候也

大正四年十月廿九日

佐賀縣佐賀郡神野村大字神野千百貳拾八番ノ六
川上軌道株式會社
取締役社長　眞崎辰五郎

内閣総理大臣伯爵大隈重信殿
内務大臣法學博士一木喜徳郎殿

石油瓦斯發動車構造仕様書

型式大坂市難波新川福岡鉄工所設計製造專賣特許第六九九九號七馬力無點火横置旱汽箭石油瓦斯發動車

燃料石油 壹時間ノ消費量平均九合

重要寸法

車体長 七呎参吋

全最大幅 五呎六吋

全高（軌條面上ヨリ） 七呎六吋

全運轉上ノ重量貳噸貳分

全一車軸上ノ負担荷重壹噸壹分

汽箭ノ直径八吋貳分ノ一

吸鍔ノ衝程拾貳吋

車軸ノ直径貳吋貳分一

車輪ノ直径拾八吋

車臺ハコ形鋼鐵高四吋巾貳吋ノモノヲ用ヒ其接合部ニハL形鋼又ハ鋼板ヲ當テ臺枠ヲ構成ス

石油發動機ハ車臺Bノ中央上部ニ据付ケ其運動ハ「クランクシヤフト」Cヨリ歯車DD'及D'D'ニ依リ歯車軸EE'ニ移リ夫レヨリ該軸ニ取付ケタル聯動歯車FF'ヨリ働軸Kニ附屬セル歯車GG'ニ運動ヲ移シ以テ働車Hヲ運轉スルモノトス

働軸Kノ中央ニ「クラッチ」Jヲ設ケ其位置中間ニ在テ歯車GG'孰レノ方ヘモ嚙合サルトキハ發動機ハ常ニ運轉ヲナシツヽアルモ働軸ニ運動ヲ與ヘスシテ發動機ハ常ニ全一方向ノ回轉ヲナスヲ以テ歯車軸EE'トハ反對ノ回轉ヲナシ隨テ歯車G及G'モ常ニ反對ニ回轉シ居ルナリ

然レモ働軸Kニ對シテハ遊車ニシテ「クラッチ」Jニ齧合ヒ例ヘハGト齧合ヒ初メテ前進ノ運動ヲ起ストセバ又他ノ歯車G'ト齧合ヒ後進ノ運動ヲ起スモノトス

石油發動機ノ回轉ハ常ニ略全一ナルヲ以テ進行ノ遲速ヲ加減スル為メニハ曲拐車軸ノ両側ニ「摩擦クラッチ」LL'ヲ備ヘ之レニ附属スル歯車ハ其歯數Lニ付属ノ歯車歯數少クシテL'ニ付属ノ歯車ノ歯數多シテ各異ニセルヲ以テ歯車DD及D'D'ニ依リ歯車軸EE'ヲ運轉セシムル回轉數ニ相違アリ依テ一方Lナル「摩擦クラッチ」ヲ外シL'ナル「クラッチ」ヲ用ユル片ハ進行速度急ニシテLヲ外シL'ヲ用ユル片ハ其進行緩ナリ

歯車ハ總テ鑄鉄及鑄鋼製ニシテDD D'D'ハ平形歯車ニシテFF' GG'ハ擂鉢形歯車ナリ

石油瓦斯發動機ノ構造ハ汽筩Aノ一端aナル焼熱部内ニ煉鐵製ノ焼球ヲ備ヘ其後方汽筩ニ接シタル部ニ受油器ヲ取付注油管bヲ通過シ纎微ナル小孔ヨリ注射シ来ル ——

石油ヲ受ケ既ニ灼熱シタル受油器及焼球ハ直ケニ之ヲ石油瓦斯變セシメ全時ニ汽筩内ニ吸入セル空氣ト混和シ爆發性瓦斯トナリ其爆発力ニ依リ汽筩中ノ「ピストン」ニ運動ヲ與ユルモノナリ石油ハ油溜oニ貯藏シ嘴子dヲ流下シセニ至リ吸入瓣ヲ経テfナル小喞筒ニ入リ更ニgナル輪出瓣ヲ通過シbヲ経テ汽筩内ニ注入スルモノトス

石油注入ノ小喞筒ハ曲拐軸eニ取付ケタル二重偏心輪ニ由リ衝動ヲ受クルモノニシテ此ノ衝行ハ曲拐軸ノ回轉數ニ従ヒ鋭敏ナル調整ヲ受ケテ伸縮ヲナスベシ小喞筒ノ伸縮ハ二重偏心輪ノ自動的調整

ヲ受クルノミナラスんナル把手ニ依リ連杆装置ヲ以テ随意ニ石油ノ注入ヲ加減シ得ルモノニシテ本機ハ石油ノ注入空氣ノ吸込混合瓦斯ノ壓搾燃焼排氣皆十一回轉毎ニナス装置トス

本機ハ最初運轉ヲ初ムルキ人力ヲ以テ三四回運動ヲ與フルヲ要シ之ヲ為スニ當リ汽箭内ノ空氣非常ノ壓縮ヲ受クルヲ以テ汽箭ノ中腹ヘナル排氣辦ヲ設ク

車体ノ両側ニハ長五呎九吋巾八吋二分ノ一高三呎二吋ノ鋼鉄板製ノ水槽ヲ備ヘ其水ハ汽箭ニ連續スル水管ヲ通シ常ニ循環シテ汽箭ヲ冷却スル用ニ備ユルモノトス

汽箭内ニ爆發シタル瓦斯ハ汽箭ノ底部ニ廻リ排氣管ヨヨリ大氣中ニ排出スルモノトス

車輪ハ鑄鉄製ニシテ車軸ハ径二吋二分ノ一鋼鉄ヲ用フ

本機ハ別紙圖面ノ如ク外部ハ鉄板ニテ張リ体裁ヨリ運轉室ヲ設ケ内外共ニ美麗ニペンキ塗トス本機ノ取扱ハ前記ノ如ク總テ運轉室内ニ於テ自由ニ運轉動作シ得ルモノトス

製動機ハ手動螺旋式ニシテ鑄鉄製ノ制輪子ハ全車輪ニ装置シ取扱ハ運轉室内ニアルナル手柄ニテ迅速ニ動作シ得ル装置トス

前燈ハ凸レンスヲ嵌メタル洋燈ニシテ軌道上ヲ明カニ照スベキハ勿論遠方ヨリ明視シ得ヘキモノトス

救命器ハ径一吋ノ鐵桿ニテ枠ヲ造リ十六番鉄線ニテ金網ヲ張リ安全ニ救助シ得ル設備トス

緩衝器ハ車体前後中央部ニ備ヘ「スプリンク」ハ彈力アル上等ノ鋼鉄製トス

担彈機車軸箱受等適當ノ鋼鉄材ヲ以テ製作スルモノトス
相圖信号器ハ汽笛ヲ具ヘ運轉室ニ於テ取扱ヒ得ル装置トス

軌 7172 5.5.3

保第五の九二號

大正五年五月三日

佐賀縣知事 石橋和

鐵道院監督局長大園榮三郎殿
内務省土木局長小橋一太殿

本年三月二十日付監軌第二七二號ヲ以テ川上軌道石油瓦斯發動機関車使用ノ件ニ関シ御照會ノ趣了承右ハ別紙構造圖面訂正届ヲ徴シ此段及御回送候也

（了）

佐賀縣

議第一〇六號

石油瓦斯發動車構造圖訂正ニ付御届

大正四年拾月貳拾九日付石油瓦斯發動車使用許可申請書ヘ添付ノ發動車構造圖面中左記圖面追加訂正仕度此段及御届候也

大正五年五月貳拾八日

佐賀縣佐賀郡神野村大字神野
千百貳拾八番地ノ六
川上軌道株式會社
取締役社長眞崎辰五郎

内閣総理大臣伯爵大隈重信殿
内務大臣法學博士一木喜德郎殿

記

一制動機装置圖
一臺框ノ構造及擔彈機装置圖
一車輛車軸圖

五五一
二八三二

五〇九二

受 監軌 1172-2 5.2.25

大正五年二月廿二日

佐賀縣知事 石橋和

鐵道院監督局長大園榮三郎殿

客年十二月七日付監軌第一一七二號ヲ以テ川上軌道石油瓦斯發動機關車使用ニ關シ再調方御照會ノ趣了承右ハ別紙追申書ノ通ニ有之候條此段及回答候也

佐賀縣

638

發第三〇號

石油瓦斯發動車使用許可願ニ付追申

石油瓦斯發動車構造仕様書中左ノ一項ヲ追加ス

一使用輛數　　参輛

同構造仕様書中車軸ノ直径貳吋二分ノ一トアルヲ参吋ニ訂正ス

左記圖面ヲ追加添付ス

一石油瓦斯發動車圖

二制動機装置圖

三臺枠ノ構造及擔撑機装置圖

四車輪車軸圖

五緩衝聯結器ノ構造及取付圖

以上

大正五年二月十七日

佐賀縣佐賀郡神野村大字神野
千百貳拾八番地ノ六
川上軌道株式會社
取締役社長　真崎辰五郎

内閣総理大臣伯爵大隈重信殿

内務大臣法學博士一木喜徳郎殿

五年二ノ一八
五ノ九二

三月十七日帳簿済（目録外）

監第一一七二號

大正五年三月　日受領

二十日達済

淨書

校合

第　號

大正五年　月　日受領

三月十七日立案

監督局長

□務課長

案

番號

年　月　日

局長

佐賀県知事　宛

主任

鉄道名 川上軌道

受領大正五年二月廿六日　調了大正　年　月廿八日　日数三日

回附先 課長　擔任　取扱

件名 石油発動車仮使用ノ件

土木ニ関シ支障ナシト認ム

27

照会

客月二十三日附保第五〇九二号ヲ以テ川上軌道石油瓦斯発動機関車使用ノ件ニ関シ回答相成候処右ハ左記事項ニ付再応御回示相成度

参考

照会事項 二、

鉄道院

六　　　六

主任

軌道名　川上軌道

件名　調第二次　石油瓦斯発動車使用ノ件

受領大正五年二月二十五日
調了大正　年二月二十六日
調査ニ要シタル日数　二日

廻附先　土木課長

擔任

取扱

右審査之左記照会ヲ要ス

一、制動機ノ制動力強キニ失スルヲ以テ其ノ力ヲ発動車ノ重量ニ対シ六〇乃至九〇「パーセント」ニ改ムルコト但シ人ノ手力ヲ三十封度トス

二、車軸ノ総長ガ其部分ノ寸法ノ和ト一致セズ右ハ後図ニ車輪ノ「バックゲージ」ヲ記入スルコト而シテ

車輪車軸図中車輪ノ「バックゲージ」ヨリ台枠ノ構造及担弾機装置図中ニ記入ノ車輪ノ「バックゲージ」ト全ク見做スニ付テハ車輪車軸図ト関聯シテ再調スルコト

28

第一一七二號　大正四年十一月　日受領　七日達濟

第　號　大正四年十二月　日受領　三日立案

淨書　校合

監督局長

庶務課長

管理課長

案

番號

年　月　日

局長

佐賀縣知事　宛

回議用紙

638

29

国立公文書館
National Archives of Japan

回議用紙

鐵道院

照会

客月一日附保第五九二號ヲ以テ川上軌道石油瓦斯発動機関車使用ノ件ニ進達相成候処左記事項再調セシメラレ度

参考

照會事項 三、

△

未局調査事項

一、手用制動機把手ノ半径ヲ図面ニ記入スルコト

照会事項々々之義了承シ

照會事項[illegible]

主任

受領大正四年十一月八日

調了大正 年 月九日 日數二

調査ヲ要シタル日

廻附先 課長

擔任

取扱

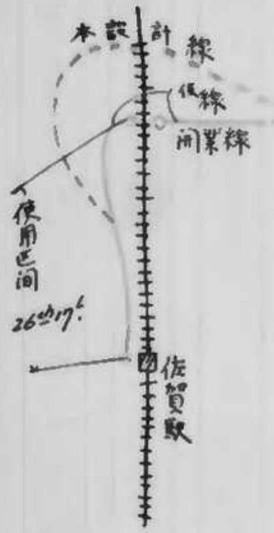
鐵道名 軌道名 一 川上軌道

件名 一 石油発動車仮使用ノ件

調第 号 査次

車輌照會事項第一項整理ノ上本件再調ヲ要ス

使用期限大正五年九月十五日迄



31

主任 [印]

受付 大正四年十一月十五日　調了 大正　年　月六日　調査ノ要…　二日　回附先 土木　担任 [印]　取扱 [印]

鉄道部 線路名 川上軌道

件名 石油瓦斯発動車仮使用ノ件

一、本認可申請ニ付提出スルコト
制動装置図・台枠ノ構造図・車輪及車軸図・
相弾機装置図・緩衝聯結器ノ構造及其ノ取付図

二、緩衝聯結器ノ取付図ニ依レハ大体ニ於テ従来ノモノト
構造異ニシ聯結不具合ナルカ如キモ再調ノ事

三、軌数ヲ示スコト

内務省 土第 号 5. 8. 3 佐

八月十六

第一五六三號 大正五年八月二日受領

第五一九號 大正五年 八月十日達済 月 日受領 七月廿九日立案

淨書 校合

庶務課長

副總裁 監督局長 監理課長

總裁

内閣總理大臣

内閣書記官長

内務大臣

次官 技術課長

土木局長 道路課長

川上軌道延長線敷設特許ノ件

回議用紙

鐵道院

225

番號

案ノ一

特許状

川上軌道株式會社

右會社ニ對シ軌道ヲ敷設スルコトヲ
特許シ一般運輸ノ業ヲ營ムコト
ヲ許可ス仍テ別紙命令書ノ條項
ヲ遵守スヘシ

五年八月十四日

内閣總理大臣
内務大臣

案ニ

佐賀縣
國立公文書館 National Archives of Japan

指令白書
二月迄入

命令書

第一條 今般川上軌道株式會社ニ對シ軌道ヲ敷設スルコトヲ特許シ一般運輸ノ業ヲ營ムコトヲ許可ス

一 シタル延長線路ハ左ノ如シ

佐賀縣佐賀郡神野村大字神野字二本松八百二十四ノ一番地先ヨリ同縣佐賀市松原町字中ノ小路八十四番地先ニ至ル里道

第二條 會社ハ大正六年二月十三日迄ニ線路實測圖、工事方法書圖面及工費豫算書ヲ調製シ佐賀縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第三條 會社ハ前條ノ認可ヲ得タル日ヨリ六箇月内ニ工事ニ着手シ着手ノ日ヨリ一箇年内ニ竣功スヘシ但シ天災其ノ他正當ノ事由ニ因リテ本條ノ期間内ニ工事ニ着手シ又ハ竣功スルコト能ハサルトキハ相當ノ延期ヲ與フルコトアルヘシ

第四條 前三條ニ規定シタルモノノ外明治四十五年七月二十五日監第一〇七二號ヲ以テ下付シタル命令書ノ規定ヲ準用ス

五年　八月十四日

内閣總理大臣
内務大臣

案ノ三

訓第　號

佐賀縣知事

本年五月十五日附土第二七七九號ヲ以テ進達セル川上軌道延長線敷設願ニ對シ別紙特許狀並命令書ヲ下付候條交付ノ上該命令書ニ掲クル條項ノ實施及監視ノ責ニ任スヘシ但シ其ノ處分ニ關シ稟伺スルト報告スルトノ區別ハ明治四十三年五月二日訓第五二七號及明治四十五年七月二十五日訓第一〇七二號訓令ノ通心得ヘシ

五年八月十四日

内閣總理大臣
内務大臣

案ノ四（官報掲載）

軌道特許狀下付

大正五年八月十四日川上軌道株式會社ニ對シ佐賀縣佐賀郡神野村、同縣佐賀市松原町間ニ蒸氣軌道敷設特許狀ヲ下付セリ

（内務省鐵道院）

八月十七日官報掲載

甞第　號　案ノ五

年八月十四日　八月十七日

監督局長
土木局長

佐賀縣知事宛

通牒

本年五月十五日附土第二七七九號ヲ以テ川上軌道延長線敷設ノ件進達相成且ツ佐賀市ノ意見ニ基キ命令書案中ノ特種條項及既特許線トノ関係ニ付別途御申越ノ次第モ有之候處佐賀市ノ希望ニ関シテハ御申越ノ通會社ニ於テモ之ヲ承諾シ既ニ協議済ナラハ両者間ニ契約書又ハ覺書等ヲ作成シ置カハ其レニテ事足ルヘク之カ為メ特ニ一般ノ特許命令書ト異ハル條項ヲ規定スル必要無之ト被認候又本延長線ハ使用期限本年九月十五日迄ナル假線ヲ起點トシアリ妥當ナラサルノミナラス線路ノ系統徒ニ複雑ヲ来スモノニ付工事施行認可済ノ二本松八百六十三ノ一番地、同八百八ノ三番地間工事ハ竣功期限本年九月十五日迄ニ完成スヘキヤ若シ覺束ナシトセハ寧ロ假線ヲ特許線ト為スカ如キモ一方法ナルヘク孰レニシテモ現在特許線及假線ハ整理ノ必要アルヲ以テ可及的速ニ之カ整理ヲ為スモノトシテ別紙ノ通指令相成候條其ノ旨篤ト会社ニ示達ノ上御取運ノ結果何分ノ回報有之度

大正四年十二月二十七日出願	
佐賀縣經由	大正五年五月十五日
大正五年五月十八日受付	

川上軌道株式會社 延長線

起終點及經過地名	自佐賀縣佐賀郡神野村大字神野字乙本松八百乙十四ノ一番地先（假定縣道三ツ瀬線九州鐵道踏切）至仝縣佐賀市松原町字中ノ小路八十四番地先（招魂社前）、里道
動力	蒸氣
距離	五十鎖
軌間	三呎
新設軌道	
道路上	
鐵道ト ノ關係	
知事ノ副申要旨	特許相成度
發起人及重ナル人名	既設會社
資本金又ハ建設費金	金貳萬圓
一株ノ金額	（増資）
備考	

37

一、院線
二、仮線
三、本線

主任

受領大正五年五月二九日

調了大正　年　月三一日　日数　三

廻附先　課長

擔任

取扱

件名　一　川上軌道

延長線敷設特許ノ件

一　院線祭畤構外線ノ一部ヲ変更スルニ就テハ会社中ニ於テ鉄道院管理局長ノ承認ヲ受クル要アルヲ以テ其際既特許線ノ変更ヲ出願セシメ修正ノ文又ハ隣接線路ニ紹介スルヲ要ス

~~本件大体支障ナシト認ム~~

（本延長線ノ起点ハ大正四年四月九日監第七〇七号ヲ以テ許可セラレタル仮設軌道ノ終点ニシテ其ノ使用期限ヲ大正四年九月十五日迄デトシ更ニ第一回ノ延期ヲ重ネ大正五年九月十五日迄デトシ許可セラレタルモノナリ依テ當直スルニ仮軌道使用期限経過後ハ本出願線ハ既成線トノ連絡ヲ欠ク（工事施行認可線ト交叉スルモ線路勾配関係上勾配変更セザレバ連絡不可能ナリ）ニ至ルモノナルヲ以テ線路接續ノ関係上該仮軌道ニ對シ特許ノ申請ヲ此際施行セシムルヲ至当ト認ム）

~~ト知事副申書並ニ願書添附ノ説明書ニ陳述スルカ如キ事情アリ事實止ムヲ得ザルモノト認ム~~

追テ本線竣功期限ハ大正五年九月十五日迄デトス

（院線構外線路ノ）

38

印
1974
朝515
5. 5. 18

土第三七九號

大正五年五月十五日 佐賀縣知事石橋和

内閣總理大臣伯爵大隈重信殿
内務大臣法學博士一木喜德郎殿

軌道敷設特許願ノ件副申

縣下川上軌道株式會社ヨリ左記區間ノ里道ニ軌道敷設ノ義別紙ノ通願出候處右ハ交通機關ノ施設トシテ必要ノ計畫ニ有之且起業ハ成業ノ見込確實ニ候條完成ノ暁ハ地方ノ交通及産業ノ發展ニ資スル所尠少ナラサル義ト被存候而シテ既成鐵道ニ對スル影響其ノ他支障ノ点ハ無之相認ノ候條至急特許相成度願書命令書案佐賀市會及佐賀郡參事會ノ意見書寫添付此段副申候也

記

佐賀縣佐賀郡神野村大字神野字二本松八百貳拾四番ノ壹番地先ヨリ仝縣佐賀市松原町字中ノ小路八拾四番地先ニ至ル里道

土第二七七九號
大正五年五月十五日

佐賀縣知事石橋　和

内務省土木局長小橋一太殿
鐵道院監督局長大園榮三郎殿

縣下川上軌道株式會社出願軌道特許願本日別途副申進達致候處今命令書案第三条第三項及第五項ハ従來ノ例ト相違致居候得共右ハ佐賀市ノ意見ヲ参酌シタル儀ニ有之會社側ニ於テモ承諾致シ既ニ協議済ノモノニ有之候條御了知相成度又橋梁暗渠ニ對スル費用負担率ニ付テハ前特許命令書ノ例ニ依リ之ヲ定メ佐賀市會ノ意見ト異リ居候モ右ハ曩ニ大正三年十二月一日發佐土第八四二号命令条件変更ノ件稟申ノ際具状致候通リ今日ノ會社經濟狀態ニ於テハ困難ノ事情有之橋梁暗渠ニ對スル會社ノ負担ヲ軽減シ以テ諸般ノ改良ヲ加ヘシムルヲ時宜ニ適スルモノト認メタルニ外ナラズ候ノミナラズ本里道中橋梁暗渠等作工物ノ多クハ郡費支辨ノ里道ニ係リ市費支辨ニ属スルモノハ極メテ僅少ナルニ拘ラス殊更ニ郡市ノ各部分ニ對シ彼是負担率ヲ異ニスルハ取扱上妥當ナラサル点モ有リ旁々前特許線ノ命令條件ト仝一ニ定メタル次第ニ候尚本出願線ハ九州鐵道高架橋以南ニ於ケル既設特許線ト交叉スルヲ以テ仝時ニ既設特許線ノ変更

No.575 5.5.18

ヲ出願スヘキ筋合ト被認候テ願書添付ノ説明書
ニ陳述スルカ如キ事情モ有之止ムヲ得サル次第ト被
存候条右御了知ノ上至急御詮議相成候様御
取計相成度為念申進候也

国立公文書館
National Archives of Japan

命令書案

第一條　今般川上軌道株式會社ニ對シ軌道ヲ敷設スルコトヲ特許シ一般運輸ノ業ヲ營ムコトヲ許可シタル軌道ノ線路ハ左ノ如シ
自佐賀縣佐賀郡神野村大字神野字二本松八百貳拾四ノ壹番地先（假定縣道三ツ瀬線九州鉄道踏切）
至仝縣佐賀市松原町字中ノ小路八拾四番地先（招魂社前）、里道

第二條　國又ハ公共團体ニ於テ公益ノ為メ軌道其ノ他營業上必要ナル物件ノ全部若クハ一部ノ專用又ハ買収ヲ為サムトスルトキハ特許ヲ受ケタル者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス但シ之ニ對シ補償ヲ求ムルコトヲ得
前項ノ物件ノ範圍ニ付争ヒアルトキハ内閣總理大臣及内務大臣之ヲ定ム

第三條　前條全部專用ノ場合ニ於テ月ヲ以テ專用期間ヲ算スルトキハ前年ニ於ケル平均収入月額又ハ前年ノ相當月ノ収入額ヲ標準トシ補償金額ヲ定メ日ヲ以テ專用期間ヲ算スルトキハ前月ニ於ケル平均収入日額又ハ前年若クハ前月ノ相當日ノ収入額ヲ標準トシ補償金額ヲ定ム但シ其ノ選擇ハ特許ヲ受ケタル者ニ於テ之ヲ為スコトヲ得
前條一部專用ノ場合ニ於テハ特許ヲ受ケタル者ノ選擇スル所ニ從ヒ全部ノ延長ニ對スル專用部分ノ延長ノ比例ヲ以テ全部專用ノ場合ニ於ケル補償金額ニ乘シ又ハ前項ト同一ノ方法ニ依リ其ノ專用部分ニ對スル補償金額ヲ定ム

佐賀縣

国立公文書館 National Archives of Japan

前條全部買収ノ場合ニ於テハ買収者ノ選擇スル所ニ従
ヒ建設當時ノ實費額又ハ年率七分ヲ前五ヶ年ノ純益平
均年額ヲ除シタル額ヲ以テ補償金額ヲ定ム但シ其ノ地方
ニ於ケル金利年率ニ著シキ変更ヲ来シタルトキハ内閣総理
大臣及内務大臣ハ本項ノ年率ヲ変更スルコトアルヘシ
役員賞與ノ性質ヲ有スル支出ハ前項純益金ノ内ニ算
入ス
前條一部買収ノ場合ニ於テハ前三項ノ規定ヲ準用シテ
補償金額ヲ定ム
前各項ノ場合ニ於テ本特許線ノ収入額又ハ純益額カ
既設特許線ノ収入額又ハ純益額ト區分シ得サルトキハ
両線全部ノ延長ニ對スル本特許線ノ延長ノ比例ヲ以テ
算定シタル金額ヲ本特許線ノ収入額又ハ純益額ト
看做ス
開業ノ後本條ノ規定シタル時日ヲ経過セサルトキハ既往營
業時日ヲ標準トシ平均額ヲ算出ス
第四條　前各條ニ掲クルモノヽ外明治四拾五年七月弐拾五日
監第一〇七二号ノ及大正四年三月三日監第三一三号ノ
ヲ以テ下付シタル命令書ヲ準用ス

大正五年　月　日

内閣総理大臣

内務大臣

佐賀縣

国立公文書館
National Archives of Japan

写

市坤一第一五二號

答申書

川上軌道株式會社取締役社長眞崎衣五郎ヨリ軌道敷設特許願出タルヲ以テ公益上支障ノ有無ニ付市會ノ意見ヲ答申スヘキ旨大正五年一月十九日附達第五號ヲ以テ達相成候處右ハ本月二十二日本市會ニ於テ左記ノ條件ヲ附スルニ於テハ支障無之旨決議致候ニ付此段答申候也

大正五年二月二十五日

佐賀市長 野口能毅

佐賀縣知事 石橋和殿

左記

一、市ニ於テ將來電車ノ設備ヲ必要ト認ムルトキハ會社ハ佐賀市北方九州鉄道線路以南ニ於ケル軌道全部ヲ市若クハ市ガ指定スル私設電車會社ニ對シ建設當時ノ實費額ヲ以テ其ノ買收ニ應スルコト

二、市内線ニ於テハ燃料トシテ無煙炭若クハ「コークス」ヲ使用スルコト

三、軌道ヲ敷設スル市内里道ノ橋梁ヲ改修築スヘキ場合ニ於テハ會社ハ其ノ費用ノ九分ノ一ヲ負擔スルコト

右

佐賀縣

發佐郡参第壹号

答申書

大正五年一月十九日達第五号ヲ以テ諮問ニ係ル左記区間ノ里道ニ軌道敷設特許願出ノ件ハ公益上支障無之ト認候此段答申候也

大正五年一月二十五日

佐賀郡参事会

佐賀郡長 佐藤七太郎

佐賀県知事 石橋和殿

左記

佐賀郡神野村大字神野字二本松八百弐拾四ノ壱番地先

一 仮定県道三ノ瀬線九州鉄道踏切ヨリ佐賀市松原町字中ノ小路八拾四番地先（招魂社前）ニ至ル里道但本郡区域内ノ分（延

工事竣功ノ上

特許期限ハ特許ノ日ヨリ満五拾ヶ年ノ見込

佐賀県

佐賀縣 12
土2779
第二八五號

軌道敷設特許願

佐賀縣佐賀郡神野村
川上軌道株式會社

国立公文書館
National Archives of Japan

軌道敷設特許願

明治四拾五年七月貳拾五日付軌道敷設特許ヲ得候川上軌道株式會社ハ運輸交通ノ便利ヲ計ル為メ左記ノ通リ里道ニ軌道敷設仕度候間御許可被成下度別紙起業目論見書工事方法概略書工費概算書營業上收支概算書及圖面相添ヘ此段奉願候也

大正四年拾貳月貳拾七日

佐賀縣佐賀郡神野村大字神野
千百貳拾八番地ノ六
川上軌道株式會社
取締役社長 眞崎辰五郎

内閣總理大臣伯爵大隈重信殿
内務大臣法學博士一木喜徳郎殿

特許出願線路

自佐賀縣佐賀郡神野村大字神野字二本松八百貳拾四ノ壹番地先(假定縣道三ツ瀬線九州鐵道踏切)至仝縣佐賀市松原町字中ノ小路八拾四番地先(招魂社前)

里道 五拾鎖

起業目論見書

一、資本金五萬圓ヲ増加シ新株式壹千株トシ壹株ノ金額五拾圓トス壹株ニ對シ金貳拾圓拂込ミヲ以テ本軌道ニ要スル工費金貳萬圓ニ當ツルモノトス

二、軌道條例ニ依リ軌道ヲ敷設シ旅客及貨物ノ運輸ヲ營ムヲ以テ目的トス

三、軌道ノ起終兩點並ニ経過地左ノ如シ

起點　佐賀縣佐賀郡神野村大字神野字二本松八百貳拾四ノ壹番地先（假定縣道三ツ瀬線九州鉄道踏切）

終點　仝縣佐賀市松原町字中ノ小路八拾四番地先（招魂社前）

経過地　佐賀郡神野村

佐賀市中町

佐賀市松原町

四、本軌道ハ既成線同様軌間参呎ノ單線ニシテ哩程五拾鎖待避線貨車線車庫線ヲ合セ総延長七拾鎖トス

五、本軌道ノ敷地ハ平面圖ニ示ス如ク里道ニ敷設スルモノトス

六、本軌道ニ左ノ停留場ヲ置クモノトス

佐賀郡神野村大字神野字二本松	神野停留場
仝　郡仝　村大字多布施字多布施	多布施停留場
佐賀市中町字中町	中町停留場
仝　市松原町字中ノ小路	招魂社前停留場

七、原動車ハ既成線同様ノ無煙炭及骸炭燃料ノ蒸汽機關車ヲ使用シ客車貨車モ既成線同様ノモノヲ使用スルモノトス

八、営業年限ハ既成線同様トス

九、本軌道ニ係ル工費及営業上ノ収支概算左ノ如シ

軌道敷設工費概算

一金貳萬圓

内訳

金参百圓	測量設計及工事監督費
金参百圓	用地費
金貳百拾圓	土工費
金壱千参百五拾圓	橋梁費
金七千貳百七拾九圓	軌道費
金壱千百五拾圓	停留場費
金七千六百五拾圓	車輌費
金壱百圓	器具及機械費
金貳百圓	運送費
金参百圓	総係費
金壱千百六拾壱圓	豫備費

壱ヶ年間運輸営業上ノ収支概算

一金四千八百四拾五圓　収入

内訳

金四千四百参拾圓	客車収入
金参百六拾五圓	貨車収入
金五拾圓	雑収入

一金貳千八百拾四圓　支出

内訳

金壹千貳拾貳圓　給料
金貳拾圓　旅費
金六拾圓　保線費
金壹百圓　車輌保存費
金貳拾圓　建物其他修繕費
金参拾圓　備品補充費
金貳拾圓　雑品費
金壹百圓　消耗品費
金九百拾貳圓　車輌用品費
金壹百貳拾圓　被服費
金貳百圓　諸税
金拾圓　通信費
金貳百圓　豫備費

差引益金貳千参拾壹圓

利益配當

一金貳千〇参拾壹圓

内
金百貳圓　法定積立金
金壹千八百圓（年九分ノ割）　株主配當金
金壹百貳拾九圓　繰越金

工事方法概略書

一、本軌道ハ哩程五拾鎖ニシテ待避線貨車線車庫線ヲ加ヘ総延長七拾鎖トス

二、軌間ノ内法ハ参呎ニシテ單線トシ待避線ノ箇所ニ於テハ中心距離九呎トシ道路ノ幅員ハ土工定規圖ノ通リトス

三、軌條ハ長壱碼ニ付重量参拾封度以上ノ鋼鉄製工字形ノモノヲ使用シ枕木ハ長五呎巾六吋厚四吋四分ノ一ノ栗又ハ檜材ヲ使用シ中心間隔二呎置ニ配布スルモノトス

四、轉轍器ハ八組ヲ取付ク

五、本軌道ハ里道ノ一部ヲ使用シ敷設スルモノニシテ其道路面ニ準シ別紙圖面ノ通リ敷設スルモノニシテ軌道敷設ナシ難キ場所アルトキハ路面ヲ補修シ又ハ道幅ヲ擴築スルモノトス

六、軌道敷設方法ハ作工圖ニ示ス如ク路面ヲ堀鑿シ枕木ヲ配置シ軌條ヲ打付ケ砂利ヲ敷キ堅メ軌條上面ノミ地表上ニ現ハル、様埋没セシメ軌條内側ニハ土留木ヲ打付ケ凹形トナシ軌條面ト道路面ト高低ナク人車馬ノ通行ニ差支ナキ様敷設スルモノトス

七、軌道ノ道路ヲ横断スル箇所又ハ道路ノ一方ヨリ他ノ一方ニ軌道線ヲ移ス箇所ニハ複軌條ヲ取付ケ軌條両外側各一呎六吋及軌條間全部ニハ石材又ハ木材ヲ以テ軌條ト同高ニ踏切道ヲ設ケ通行ニ差支ナカラシムルモノトス

八、橋梁又ハ暗渠ニシテ適當ノ耐力ヲ備ヘザルモノハ補強工事ヲ施スモノトス

九、水道其他地下ニ埋設シアル工作物ト交叉若クハ接近シテ軌道ヲ敷設スル時ハ其工作物ヲ毀損シ又ハ障害ヲ與ヘサル樣相當ノ工事ヲ施スモノトス

十、勾配ハ貳拾五分ノ一ヲ以テ最急トス

十一、曲線ノ半経ハ參拾六呎ヲ以テ最小トス

十二、車輛進行速度ハ壹時間ニ八哩以内トス

十三、車輛運轉ハ機關車ヲ合セテ參車連結ヲナスモノトス

十四、原動車ハ無煙炭又ハ骸炭燃料蒸汽機關車トシ現在營業ニ使用ノモノト其構造同一ノモノヲ使用スルモノトス

十五、客車貨車ハ現在營業線ニ使用ノモノト其構造同一ノモノヲ使用スルモノトス

本特許出願線路ト既特許線路ト交叉ニ付説明書

本軌道ハ今回新設セラルベキ佐賀郡神野村大字神野字二本松假定縣道三ツ瀬線ヨリ佐賀市松原町字中ノ小路ニ至ル里道ヲ使用シテ敷設スル計畫ニ御座候處該里道ハ縣社既特許線路中ノ九州鉄道高架橋以南ニ於テ新設軌道敷ヲ横断スル事ニ相成候、然ルニ新設軌道敷ハ大正貳年九月十六日工事施行御認可ヲ得候通リ九州鉄道横過高架橋ニ接續スル為メニ高築堤トスル設計ニ御座候間其踏切交叉ハ地勢上道路ノ築造ニ困難ナルノミナラス交通上不便ヲ感セラルル事ト存候ニ付九州鐵道佐賀停車場前(當會社軌道起點)ヨリ假定縣道三ツ瀬線鉄道踏切ニ至ル間(特許線路哩程[illegible] 假設軌道哩程[illegible])ヲ全部特許線路トナシ本特許出願線路ニ接續セシメ九州鉄道横過高架橋ニ連續線路ハ本特許出願線路中ヨリ分岐シ別紙平面圖ニ朱點線ヲ以テ示ス如ク線路位置変更致度計畫ニ有之就テハ本特許出願ト仝時ニ之カ全部ノ変更出願ヲ為スベキ筋合ニ有之候モ該接續線路ノ変更出願ニ付テハ院線鉄道横過ノ関係上九州鉄道管理局ノ承認書ヲ添附スルコトニ相成居候處目下仝局ニ於テ佐賀停車場擴張セラルヽコトニ相成側線敷設ノ為メ高架橋ノ位置ヲ変更シ仝橋梁ノ径間ヲ擴大ニスベキ必要有之趣キニ付橋梁ノ位置ヲ撰定シ構造設計変更ヲナシ其承認ヲ受クルコトハ急速ニ成難候間先ツ以テ本特許線ノ御許可ヲ得度線路変更願ハ仝局ヨリ高架橋位置変更ノ承認書下附アリ次第ニ提出可仕候

軌道延長敷設出願ニ関スル議案

特許出願線路

一、佐賀縣佐賀郡神野村大字神野字貳本松八百貳拾四ノ壱番地先（仮定縣道三ヶ樋線九州鉄道踏切）ヨリ同縣佐賀市松原町字中ノ小路八拾四番地先（招魂社前）ニ至ル里道敷五拾鎖

二、前項特許ヲ受ケタルトキハ該特許ノ附属命令書ヲ遵守スル事

右特許ヲ出願シ軌道ヲ敷設セントス

大正五年五月十二日

川上軌道株式會社

取締役社長　眞崎辰五郎

右可決ス

大正五年五月十二日

臨時株主總會々長　眞崎辰五郎 ㊞

株主　原田禎造 ㊞

株主　横尾源太郎 ㊞

株主　鬼崎雅市 ㊞

右原本ニ依リ謄寫ス

書記　村岡道盛 ㊞

川上軌道株式會社定款

大正五年五月十二日変更定款

第一章　總則

第一條　當會社ハ川上軌道株式會社ト稱ス

第二條　當會社營業ノ目的ハ軌道ヲ敷設シ一般運輸ノ業ヲ營ムニアリ但シ斯業繁榮上必要ナル場合ニ於テハ土地家屋ノ賣買賃貸借ヲ爲シ並ニ公衆娯樂機關ヲ設置スルコトヲ得

第三條　當會社ノ資本金ハ拾五萬圓トス

第四條　本店ヲ佐賀縣佐賀郡神野村ニ置ク

第五條　公告ハ所轄裁判所カ登記事項ヲ公告スル新聞紙ヲ以テス

第六條 存立期間ハ會社設立ノ日ヨリ大正五十一年七月二十四日迄トス

第二章 株式

第七條 株式ノ總數ヲ参千株トシ壹株ノ金額ヲ金五拾圓トス

第八條 株券ノ種類ハ壹株券拾株券ノ貳種トシ總テ記名式トス

第九條 株式ノ讓渡シニ依リ名義書換ヲ請求スルモノハ當會社所定ノ書式ニ依リ双方連署ノ書面ニ其ノ株券ヲ添ヘテ本會社ニ差出シ株主名簿ニ其ノ登錄ヲ請ヒ且ツ其ノ株券ニ取締役ノ證印ヲ受クルコトヲ要ス

相續遺贈又ハ法律上ノ手續ニ依リ株式取得ノ名義書換ヲ請求スルモノハ當會社所定書式ノ書面ニ其ノ取得ヲ証明スヘキ書類及ヒ其株券ヲ添ヘテ差出シ株主名簿ニ其ノ登錄ヲ請ヒ其ノ株券ニ取締役ノ證印ヲ受クルコトヲ要ス

第十條 株券ヲ紛失滅失シタル株主カ新ニ株券ノ交付ヲ請フトキハ事實ヲ詳記シ且本會社ノ相當ト認ムル保証人二名以上連署シタル請求書ヲ差出スヘシ

本會社ハ請求者ノ費用ヲ以テ三日間其ノ旨ヲ公告シ最後ノ公告ノ日ヨリ九十日ヲ經ルモ故障ヲ申出ツルモノナキトキニ限リ新株券ヲ交付スヘシ

第十一條 株券ノ毀損又ハ分合ノ爲メ新株券ノ交付ヲ請フモノハ其ノ株券及請求書ヲ差出スヘシ但シ毀損ノ場合ニ於

国立公文書館 National Archives of Japan

テ株券ノ要部ヲ鑑識スルヲ得サルトキハ前條ニ依ル

第十二條　株券ノ名義書換ヲ請フモノハ手数料トシテ株券一枚ニ付金五銭ヲ本會社ニ納付スヘシ

株券ノ紛失滅失毀損又ハ分合ノ為メ新株券ノ交付ヲ請フモノハ新券一枚ニ付金貳拾銭ヲ本會社ニ納付スヘシ

第十三條　株主又ハ其ノ法定代理人ハ其ノ氏名住所並ニ印鑑ヲ本會社ニ届ケ置クヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第十四條　外國居住ノ株主ハ日本國内ニ假住所又ハ日本國内ニ居住スル代理人ヲ定メ本會社ニ届出置クヘシ其變更アリタルトキ亦同シ

第十五條　株券ノ名義書換ハ定時總會前三十日以内相當期間ヲ定メ之ヲ停止スルコトアルヘシ

第三章　株金拂込

第十六條　株金第一回拂込ハ一株ニ付金拾貳円五拾銭トシ其以後拂込ノ時日金額等ハ取締役會ノ決議ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條　株金ノ拂込ヲ怠リタルモノハ其ノ拂込期日ノ翌日ヨリ金百圓ニ付一日金四銭ノ割合ノ延滞利息及為メニ生シタル費用ヲ賠償スヘシ

第四章　役員

第十八條　取締役ハ七名以内監査役ハ三名以内トス

第十九條　取締役ハ五拾株監査役ハ参拾株以上ヲ有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選任ス但シ投票ヲ以テスル場合ニ

国立公文書館
National Archives of Japan

於テ其ノ得票同數ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條　取締役ノ互選ヲ以テ社長一名ヲ置ク

第二十一條　任期ハ取締役三年監査役二年トシ滿期再選スルコトヲ得但シ取締役ハ任期中ノ最終ノ配當期ニ関スル定時總會ノ終結ニ至ルマテ其任期ヲ伸長ス

第二十二條　取締役監査役ニ缺員ヲ生シタルトキハ臨時株主總會ヲ開キ補缺選擧ヲ為スヘシ其ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス但シ法定ノ人員ヲ缺カス且ツ事務ニ差支ナキトキハ定時總會迄選擧ヲ延期スルコトアルヘシ

第二十三條　取締役カ監査役ニ供託スヘキ株式ハ各五拾株トス

第二十四條　社長ハ本會社ヲ代表シ株主總會及取締役會ノ決議ニ基キ業務執行ノ責ニ任ス

第二十五條　取締役ハ取締役會ヲ開キ定款及株主総會ノ決議ニ基キ社務ニ関スル重要ノ事項ヲ決議ス

第二十六條　取締役及監査役ノ報酬ハ株主総會ノ決議ヲ以テ之ヲ定ム

第五章　株主総會

第二十七條　株主総會ハ定時総會及臨時総會ノ貳種トシ定時総會ハ毎年一月及七月ノ両度ニ之ヲ招集ス

第二十八條　株主総會ノ會長ハ社長之ニ當ル社長事故アルトキハ他ノ取締役之ヲ代理ス取締役總テ事故アルトキハ出席株主中ヨリ之ヲ選任ス

第二十九條　株主ノ議決權ハ一株ニ付壹個トス

第三十條　株主ノ委任ニヨリテ議決權ヲ行フ代理人ハ本會社ノ株主ニ限ル

第三十一條　総會ニ於テ決議シタル事項ハ決議録ニ記載シ之ニ會長及出席株主貳名以上署名捺印ス

第六章　計算

第三十二條　毎年六月及十二月ノ末日ヲ以テ決算期トス

第三十三條　総收入金ヨリ総支出金ヲ控除シタル残額ヲ純益金トシ左ノ順序ニ依リ分配ス但シ別途積立金及後期繰越金ヲ為スコトアルヘシ

一、法定準備積立金　純益金ノ百分ノ五以上

二、役員賞與金　純益金ノ百分ノ十以内

三、株主配當金

第三十四條　株主配當金ハ各計算期末現在ノ株主ニ配當ス

国立公文書館
National Archives of Japan

回覧

監督局
監第5151號
5.7.17

監督局長
庶務課長

土第二七七九號

大正五年七月十三日

佐賀縣知事石橋和

内務省土木局長小橋一太殿
鐵道院監督局長大園榮三郎殿

縣下川上軌道株式會社軌道敷設特許出願ニ関シ去ル四月十五日付土第二七七九號ヲ以テ副申及進達候處仝會社ニ於テハ増資其他ノ関係有之差急キ特許相成候様屡々申出候ニ付右ハ特急御詮議相成候様御取計相成度此段及照會候也

回覧

監督局長

庶務課長

土第二七七九號

大正五年七月十三日

佐賀縣知事石橋和

内務省土木局長小橋一太殿
鐵道院監督局長大園榮三郎殿

縣下川上軌道株式會社軌道敷設特許出願ニ関シ去ル四月十五日付土第二七七九號ヲ以テ副申及進達候處仝會社ニ於テハ增資其他ノ関係有之差急キ特許相成候樣屡々申出候ニ付右ハ特急御詮議相成候樣御取計相成度此段及照會候也

監査局 5.7.17

佐賀縣

国立公文書館 National Archives of Japan

廃案

監第五一五號 大正　年　月　日受領
　　　　　　大正　年　月　日達濟
淨書　校合

第　號 大正五年六月　日受領
　　　大正五年六月九日立案

庶務課長

監督局長

監理課長

土木局長

道路課長

番號

案

年　月　日

佐賀縣知事

西局長 宛

回議用紙

鐵道院

225

61

照会

本年五月十五日附土第一二七七九号ヲ以テ川上軌道延長線敷設ノ件進達相成候処特許線ト関係ニ付別途御申越ノ次第モ有之候処右延長線ハ使用期限本年九月十五日迄ナル仮線ヲ起点トシアリ妥当ナラサルノミナラス線路ノ系統徒ニ複雑ヲ来タスモノニ付工事施行認可済ノ二本松八百七十三ノ一番地同八百八ノ三番地間工事ハ竣功期限本年九月十五日迄ニ完成スヘキヤ若シ覚束ナシトセハ寧ロ仮線ヲ特許線ト為スカ如キモ一方法ナルヘク何レニシテモ現在特許線及仮線ノ整理ト同時ニ又ハ其ノ整理ヲ為シタル後本延長線敷設ノ出願ヲ為スヲ以テ妥当ト参考ト被認候條貴見ト添再調ノ上何分ノ回報相煩度

照会事項

956
3478

土第三八〇七號

大正五年八月三十日

佐賀縣知事 [illegible]

佐賀 [illegible]

内閣總理大臣侯爵大隈重信殿
内務大臣法學博士一木喜德郎殿

本月十四日監第五二三号ヲ以テ川上軌道株式會社ニ對シ下附相成リ候特許状并命令書本月二十六日交付ノ上別紙請書ヲ徴シ此段進達ヲ兼ネ及報告ニ候也

大正五年八月廿六日

特許状及命令書請書

川上軌道株式會社

63

国立公文書館
National Archives of Japan

發第二五六號

御請書

監第一五二三號

特許狀

川上軌道株式會社

右會社ニ對シ軌道ヲ敷設スルコトヲ特許シ一般運輸ノ業ヲ營ムコトヲ許可ス仍テ別紙命令書ノ條項ヲ遵守スヘシ

大正五年八月十四日

内閣総理大臣侯爵大隈重信 印

内務大臣法學博士一木喜徳郎 印

命令書

第一條 今般川上軌道株式會社ニ對シ軌道ヲ敷設スルコトヲ特許シ一般運輸ノ業ヲ營ムコトヲ許可シタル延長線路ハ左ノ如シ

一 佐賀縣佐賀郡神野村大字神野字二本松八百二十四ノ一番地先ヨリ同縣佐賀市松原町字中ノ小路八十四番地先ニ至ル里道

第二條 會社ハ大正六年二月十三日迄ニ線路實測圖、工事方法書、圖面及工費豫算書ヲ調製シ佐賀縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第三條 會社ハ前條ノ認可ヲ得タル日ヨリ六箇月内ニ工事ニ着手シ着手ノ日ヨリ一箇年内ニ竣功スヘシ但シ天災其ノ他正當ノ事由ニ因リテ本條ノ期間内ニ工事ニ着手シ又ハ竣功スルコト能ハサルトキハ相當ノ延期ヲ與フルコトアルヘシ

第四條 前三條ニ規定シタルモノノ外明治四十五年七月二十五日監第一〇七二號ヲ以テ下付シタル命令書ノ規定ヲ準用ス

大正五年八月十四日

内閣總理大臣侯爵大隈重信 印

内務大臣法學博士一木喜德郎 印

右御請仕候也

大正五年八月二十六日

佐賀縣佐賀郡神野村大字神野
千百二十八番地ノ六
川上軌道株式會社
取締役社長眞崎辰五郎

内閣總理大臣侯爵大隈重信殿
内務大臣法學博士一木喜徳郎殿

十九

内務省 内上第63號 5.9.28

乙

監第一八一五號 大正五年九月廿五日受領

監第九四〇號ノ一 大正五年九月廿一日立案 十月九日逹濟 日受領

浄書 校合

副總裁

總裁

內閣總理大臣 內閣書記官長

內務大臣 次官

監督局長 監理課長 庶務課

土木局長 技術課長 道路課長

回議用紙 鐵道院

川上軌道特許線路變更ノ件

案

番號

(佐賀縣 經由ス)

川上軌道株式會社

大正五年八月三日附出願ノ特許線路變更ノ件ヲ許可シ明治四十五年七月二十五日監第一〇七三號ヲ以テ下付シタル命令書中第一條ノ線路ヲ左ノ通改メ第四條第一項第十五號及同條第二項ヲ削ル

年　月　日

內閣總理大臣

內務大臣

一 佐賀縣佐賀郡神野村大字神野字一本松四百十九ノ十番地先ヨリ同村同大字字二本松八百二十四ノ二番地ニ至ル假定縣道

二 佐賀縣佐賀郡神野村大字神野字二本松八百二十二ノ四番地先ヨリ同郡春日村大字久池井字六本杉三千百七十番地先ニ至ル假定縣道

鐵道院

国立公文書館 National Archives of Japan

監第一〇七二號

命令書

四五、七、二五

第一條 一、佐賀縣佐賀郡神野村大字神野字一本松四百十九ノ十番地先ヨリ同縣同郡同村同大字字三本松八百六十三ノ一番地先ニ至ル假定縣道

二、前號終点ヨリ同縣同郡同村同大字同字八百八ノ三番地ニ至ル新設軌道敷

三、前號終点ヨリ同縣同郡春日村大字久池井字大本杉三千百七十番地先ニ至ル假定縣道

第四條第一項第十五號

特許ヲ受ケタル者ニ於テ新設スヘキ軌道敷ハ車体外左右各二尺以上ノ幅員ヲ有スルコトヲ要ス

第四條第二項

前項第三號乃至第六號及第九號ハ新設軌道敷ニ之ヲ適用セス

主任 受領大正　年　月　日 調査・整理・処分 廻附先 担任 取扱

鉄道名

件名 課第　号

5.9.20 印 澤

一 川上軌道

特許線路及工事施行ノ件

本件ハ線路変更許可ノ上ニ工事施行ノ認可ヲ申請セラルヘキモノナルヘシト曩ニ大正四年四月監第七〇七号線路変更及仝十一月監第二三七七号工事方法一部変更ノ関係書類完備セシメタルノ後直本件工事施行ノ認可ヲ申請セシムルモノト見做シ処理スルニ於テ支障ナカルベク神野停留場線軌道存置明瞭ナラサルモノニ対シテハ市内延長線工事施行ノ申請ノ際整理セシムルコトヽ致度

主任
請願者 川上帆造
件名 一命令書一部変更ノ件
受領 大正5年8月30日
同上 大正9年4月5日
回附先 課長
担任
取扱
4/9

本件支障ナシト認ム

備考
進ノ程[illegible]報告[illegible]明瞭ナラサルニ事極メ
申請ノ際整理スルコトシ[illegible]

本件変更ハ本年八月十四日付臨第一五二三号ヲ以テ延長線
特許ノ際附シタル通牒[illegible]ナリ
入主意ト同[illegible]事項[illegible]

71

土三八〇七

大正五年八月二十五日

佐賀縣知事石橋和

内閣總理大臣侯爵大隈重信殿

内務大臣法學博士一木喜徳郎殿

川上軌道株式會社特許線一部變更ノ義ニ付副申

標記ノ件ニ關シ別紙ノ通出願候ニ付調査候處右ハ願書記載ノ通特許線ニ接近セル里道開鑿茲國有鐵道佐賀驛側線擴張ニ伴ヒ餘義無クセラレタルモノニ有之事情不得止モノト被認候條御許可相成候樣致度命令書變更案添付此段及副申候也

94〇
3438
379

命令書變更案

川上軌道株式會社

大正五年八月三日附出願軌道線路一部變更ノ件ヲ許可シ明治四十五年七月二十五日監第一〇七二號ヲ以テ下付シタル命令書第一條ノ線路ヲ左ノ通改ム

大正五年　月　日

内閣總理大臣

内務大臣

一　佐賀縣佐賀郡神野村大字神野字一本松四百十九ノ十番地先ヨリ仝縣仝郡仝村仝大字字二本松八百二十四ノ一番地先ニ至ル假定縣道

二　仝縣仝郡仝村仝大字字仝八百二十二ノ四番地先ヨリ仝縣仝郡春日村大字久地井字六本杉三千百七十番地先ニ至ル假定縣道

線路變更許可願

川上軌道株式會社

土 980 1

国立公文書館
National Archives of Japan

發第二三五號

線路變更許可願

明治四拾五年七月貳拾五日付軌道敷設特許ヲ得候線路中佐賀縣佐賀郡神野村大字神野字二本松八百六拾參ノ壱番地先ヨリ仝縣仝郡仝村大字仝字仝八百八ノ參番地ニ至ル新設軌道敷ノ工事竣功期限ハ本年九月拾五日迄ニ御座候ヘ共佐賀郡市ニ於テ経營セル里道開鑿及官線佐賀驛側線擴張セラルヽ爲メ工事ヲ中止致居候處愈々工事設計變更ノ必要相生候ニ付該區間ノ線路ヲ廢止シ大正四年四月貳拾日付佐賀縣知事ヨリ假設軌道トシテ許可セラレタル佐賀縣佐賀郡神野村大字神野字二本松八百六拾參ノ壱番地先（既特許線ヨリ接續）ヨリ仝縣仝郡仝村大字仝字仝八百貳拾四ノ壱番地先（九州鉄道踏切南側）ニ至ル拾鎖參拾四節間ノ假定縣道及仝縣仝郡仝村大字仝字仝八百貳拾貳ノ四番地先（九州鉄道踏切北側）ヨリ仝縣仝郡仝村大字仝字仝八百八ノ參番地先ニ至ル拾八鎖間ノ假定縣道ノ線路變更致シ國有鉄道區間ハ徒歩聯絡ト致度候間線路變更ノ義御許可被成下度此段奉願候也

仍テ大正四年拾貳月貳拾七日付出願仕候延長線ハ佐賀縣佐賀郡神野村大字神野字二本松八百貳拾四ノ壱番地先（九州鉄道踏切南側）終点ヨリ延長仕度候間至急御免許被成下度候

大正五年八月三日

佐賀縣佐賀郡神野村大字神野千百廿八番地ノ六

川上軌道株式會社

取締役社長 眞崎辰五郎

国立公文書館 National Archives of Japan

内閣総理大臣侯爵大隈重信殿
内務大臣法學博士一木喜徳郎殿

假設軌道ハ工事方法ハ特許線ト同樣ニ施工致居候間
工事方法書ハ省略仕候

76

十月十二

内務省 土第776號 5.10.5

監

第一八八三號　大正五年十月四日受領　十月十一日達濟　淨書　校合

第一〇三九號　大正五年十月　日受領　十月二日立案

庶務課長

監理課長

監督局長

副總裁

總裁

內閣總理大臣

內閣書記官長

內務大臣

次官

技術課長

道路課長

土木局長

川上軌道延長線工事施行ノ件

414

主務局

番號

案ノ一

佐賀縣知事

大正五年九月二十二日附土第四三九九九號川上軌道株式會社延長線工事施行ノ件起點ヨリ零哩五鎖迄ヲ除キ稟伺ノ通

年　月　日

内閣總理大臣

内務大臣

案ノ二

十月十二日

當號

年十月十一日

監督局長

土木局長

佐賀縣知事宛

通牒

本年九月二十二日附土第四三九九號ヲ以テ川上軌道延長線工事施行ノ件稟伺相成候處神野停留場ノ位置ハ道路ノ交叉部ニ該當シ一般交通上支障アル引込線ヲ以テ之ヲ他ニ変更シ従テ附近ノ待避線及車庫線等モ相當変更ヲ要スルモノト被認候ニ付別紙ノ通一部ヲ除キ指令相成タル儀ニ候條該除外部分ニ対シ更ニ工事施行認可申請ヲ為サシメ稟伺相成度尚左記事項至急整理セシメ回報有之度

追テ神野停留場ニ於テ従来敷設セル鐵道踏切方面ノ旧假線終點附近線路一部撤去ニ付テハ右除外部分工事施行稟伺ノ際併テ手續セシメ稟伺有之度

一、中ノ小路停留場轉車臺引込線ノ道路ヲ斜断スル部分ニ踏切板張工ヲ施設スルコト

二、土工定規図第三號ノ適用箇所ヲ説明スルコト尚該圖ノ寸法ニ誤記アリ

三、各橋梁及溝橋ノ全幅員ハ構造図ニハ二十六尺トアリテ同図ノ標題ト工費仕譯書ト線路縦

断面図ト八三十尺トアリテ一致セス
四、西峯院橋及十間堀橋ノ長及経間ハ線路縦断面図、構造図及其ノ標題、橋梁一覧表及工費仕譯書ト各一致セス
五、踏切道作工図中軌條頭部ノ幅ヲ一吋八分ノ五ト記セルハ既認可ノモノ一吋二分ノ一ニシテ既認可ノモノ使用ノ旨申出ニ対シ適合セス既認可ノモノト寸法異ナルモノヲ使用スル場合ハ其ノ図面ヲ提出スルコト

鐵道院

裏面白紙

二二 一、

川上軌道ニテ施行ノ件　（土木局調査）

一神野停留場ノ位置ハ道路ノ交叉部ニ該当シ一般交通上支障アルヲ以テ之ガ他ノ変更ニ従テ附近ノ待避線、支線及車庫ノ線等ノ敷設ノ位置ヲ相当変更セシムルコト

一中ノ小路停留場轉車台引込線ノ道路ヲ斜断スル部分ニ踏切板張工ヲ施設スルコト

一土工定規図第三号ノ適用箇所ヲ説明スルコト

以上ニヨリ本件ハ起点ヨリ五鎖ヲ除キ及二項三項ヲ通牒ナトシテ認可セラレ可然

通牒ナ陳情ノ筆ニ了

80

裏面白紙

国立公文書館
National Archives of Japan

主任

受領大正五年九月二八日 調了大正　年　月　日 調査ニ要シタル日数 一日

廻附先 課長

擔任

取扱

線路名 鉄道名 川上軌道

件名 調第一 査大 工事施行ノ件

右車輌ニ関シ支障ナシト認ム

[illegible]備付図面添付ニテ工事施行認可セラレタク

内務省ノ御意見[illegible]

田 ✓ 三、

主任

件名 川上軌道延長線一工事施行ノ件

五 九 二六

二八

二

廻附先 車輌

担任

取扱

左記照会ヲ要ス。

一、各橋梁及溝橋ノ全幅員ハ（構造図ニハ三十六尺トアリ同図ノ標題ト）工費仕訳書記載ト（線路縦断面図トニハ三十尺ト）実測記載

（アリ）一致セス総テ三十六尺ニ訂正スルヤ

二、神野停留場（ニ往来方設セル鉄道踏切方面ノ旧仮線終端附近線路）ト院線踏切南側停留場トノ関係ヲ明示セル実測

一部撤去ニ就キ工事施行ノ変更ノ手続ヲ為スヤ

十握求ホ中十

三、線路縦断面図ニ示セル西山峯院橋及十間堀川（橋西）橋梁ノ

長
径間ハ設計図及工費仕訳書記載ノモノト一致セス

四、踏切製作工図中軌條頭部ノ幅ヲ一吋八分ノ五ト記セルハ既認可ノモノ一吋二分ノ一ニシテ既認可ノモノヲ使用ノ旨申出ニ対シ適合セス既認可ノモノト寸法異ナルモノヲ使用スル場合ハ図面ヲ提出スルヿ

鐵道院

監督
鐵監第1039号
5. 9. 25

3785

土第四三九九號
大正五年九月二十二日
佐賀縣知事石橋和
内閣総理大臣侯爵大隈重信殿
内務大臣法學博士一木喜徳郎殿

川上軌道株式會社軌道工事施行認可申請件
客月十四日監第一五二三號ヲ以テ特許相成候
川上軌道株式會社軌道敷設ノ義別紙ノ通工
事施行認可申請候ニ付調査候處支障無
之相認メ候条認可致度此段禀伺候也

佐賀縣

国立公文書館
National Archives of Japan

3785

1039
5 9

之相談候處右ハ別段意見無之旨回答有之候也
事施行認可申請ニ付關係者ノ意見徴候處支障無
川電氣軌道株式會社軌道變更設計並工
答月十四日附第一五三三號ヲ以テ特許相成候件
川電氣軌道株式會社軌道工事施行認可申請件

内務大臣法學博士一木喜德郎殿
内閣總理大臣伯爵大隈重信殿

滋賀縣知事 石橋 和
大正五年九月二十二日

土第四三九九號

土4899

大正五年九月六日

川上軌道延長線工事施行認可願

佐賀縣佐賀郡神野村
川上軌道株式會社

85

發第二七〇號

川上軌道延長線工事施行認可願

大正五年八月十四日付佐賀縣経由監第一五二三號ヲ以テ内閣総理大臣並ニ内務大臣ヨリ特許ヲ受ケ候川上軌道延長線軌條敷設工事施行致度就テハ特許状附屬命令書ノ條項堅ク遵守シ別紙工事方法書並ニ工費豫算書及圖面ノ通リ施工可仕候間至急工事施行御認可被成下度此段奉願候也

大正五年九月六日

佐賀縣佐賀郡神野村大字神野
千百貳拾八番地ノ六
川上軌道株式會社
取締役社長眞崎辰五郎

佐賀縣知事石橋和殿

川上軌道延長線工費豫算書

一金貳萬圓也

内

金参百圓　測量及工事監督費

金壹百貳拾五圓七銭五厘　用地費

金壹百九拾四圓七拾七銭八厘　土工費

金貳千百九拾七圓七拾八銭八厘　橋梁費

金七千二百九拾七圓七拾五銭七厘　軌道費

金参拾圓八拾銭　工作物障害豫防工事費

金六百八拾圓　停留場費

金七千六百五拾圓　車輌費

金壹百圓　器具及機械費

金貳百圓　運送費

金参百圓　総係費

金九百貳拾参圓八拾銭貳厘　豫備費

圖面目録

第一號　線路實測平面圖
第二號　仝　縱斷面圖
第三號　神野停留場平面圖
第四號　中ノ小路停留場平面圖
第五號　平島橋　圖
第六號　天神橋　圖
第七號　西峰院橋　圖
第八號　瓢橋　圖
第九號　十間堀橋　圖
第十號　長堀橋　圖
第十一號　中乡橋　圖
第十二號　神祭橋　圖
第十三號　土工定規　圖
第十四號　軌道作工　圖
第十五號　水道障害豫防裝置圖

軌條、轉轍器、機關車、客車、貨車ハ大正貳年九月十六日付佐賀縣指令收佐土第二一一二号ヲ以テ認可セラレタルモノト仝一ニ付圖面ヲ省略ス

工事方法書

一、本延長線ノ起終地名及哩程左ノ如シ

起點地名	終點地名	線路區別	哩程
佐賀縣佐賀郡神野村大字神野字一本松八百十四ノ番地	佐賀縣佐賀市松原町字中ノ小路八拾四番地先	里道	五拾鎖五拾壱節
避待線其他			拾四鎖参拾四節
合計			六拾四鎖八拾五節

備考 本延長線ハ明治四拾五年七月廿五日付特許セラレタル線路及ヒ大正四年四月貳拾日付佐賀縣指令收佐土第二八九二號ヲ以テ假設軌道トシテ許可セラレタル線路（目下特許線路ニ變更出願中）ニ接續シテ延長スルモノニシテ當會社ノ軌道起點タル佐賀縣佐賀郡神野村大字神野字一本松四百拾九ノ拾番地先（九州鉄道佐賀驛前）ヨリ貳拾四鎖六拾七節ノ地點ヲ本延長線ノ起點トス

二、本延長線ハ單線ニシテ軌間参呎トス

三、待避線ノ個所ニ於テハ中心距離九呎トシ道路ノ幅員ハ工定規圖ノ通リトス

四、軌條ハ鋼鉄製工字形ノモノヲ用ヒ其重量ハ長壹碼ニ付参拾封度トス枕木ハ長五呎幅六吋厚四吋四分ノ一ノ栗材ヲ使用シ中心間隔貳呎ニ配置スルモノトス

五、曲線ノ半径ハ七拾貳呎ヲ以テ最小限トス

六、勾配ハ七拾五分ノ一ヲ最急トス

七、軌條敷設方法ハ作工圖ニ示ス如ク中心線ヨリ左右参呎宛深一呎ヲ堀取リ枕木ヲ配置シレールヲ引延シ各レー

ルヂヨイントニハフヰシユプレート二枚ヲ當テフヰシユボールト四本ヲ以テ締付ケ軌條ト枕木ト取付ケハドックスパイキヲ打付ケ枕木一本ニ四本打トス道床ニハ平均幅六呎厚一呎ノ砂利ヲ敷込ミ充分搗堅メタル上軌條上面ノミ地表ニ現ハル、樣埋沒セシメ軌條内側ニハ土留木ヲ打付ケ凹形トナシ軌條面ト道路面ト高低ナク人車馬ノ通行ニ差支ナキ樣敷設スルモノトス

八、軌道ノ道路ヲ横斷スル箇所又ハ道路ノ一方ヨリ他ノ一方ニ軌道ヲ移ス個所ニハ複軌條ヲ取付ケ軌條両外側一呎六吋及軌條間全部ニハ松板ヲ張リ軌條ト同高ニ踏切道ヲ設ケ通行ニ便ナラシム

九、橋梁又ハ暗渠ハ別紙設計書ニ示ス如ク充分ノ耐力ヲ備ユル樣補強工事ヲ施シ軌條両側及中間ハ杉板ヲ以テ橋面均等ニ張詰ムルモノトス

十、側線敷設其他道路ノ幅員不足ノ箇所ハ擴築ヲナシ制限ニ抵觸セサル樣施工スルモノトス

十一、終點ハ停留場ニハターンテイブル(轉車臺)ヲ設ケ機關車ノ方向轉換ヲナス構造トス

十二、線路ノ分岐點ニハポイントクロスシング据付ケ其構造ハ既成線ニ使用ノモノト同一ニシテ運轉上安全ナル裝置トス

十三、地下ニ埋沒シアル水道ト交叉スル個所ニハ別紙第十九号圖面ノ通リ鉄筋コンクリート管ヲ以テ水道管ヲ被覆シ障害ヲ與ヘサル樣豫防裝置ヲ施スモノトス

十四、道路ヲ堀鑿埋戻ヲナシタル後殘餘ノ土砂アルトキハ盛土

個所ニ充用スルモノトス

十五、機関車、客車貨車ノ構造ハ既成線ニ使用ノモノト其構造同一ナルモノヲ使用スルモノトス

十六、圖面并ニ設計書ニ示ス材料寸法ハ仕上寸法トス

十七、仕様設計書ニ記載ナキ事項ト雖モ工事ハ完全ニ施工スルモノトス

停留場位置及線路長表

停留場名	所在場所	位置	避待線長	構内引込線	計
神野停留場	佐賀県佐賀郡神野村大字神野字二本松	起点ヨリ一鎖拾節	参鎖七拾八節	五鎖七拾六節	九鎖五拾四節
瓢橋停留場	仝県仝郡仝村大字多布施字多布施	仝 弐拾弐鎖参拾節	単線		
中町停留場	仝県佐賀市中町	仝 四拾壱鎖七拾節	単線		
中小路停留場	仝県仝市松原町字中ノ小路	仝 四拾八鎖九拾六節	弐鎖九拾六節	壱鎖八拾四節	四鎖八拾節
合計					拾四鎖参拾四節

橋梁一覧表

橋名	位置 地名	位置 哩程	橋梁全長	有効径間	橋脚数	桁種類	桁寸法 長	桁寸法 巾	桁寸法 厚	桁寸法 高
神野橋	佐賀郡神野村大字神野	5.74.8	11.0尺	10.尺	ナシ	檜材	11.0尺	0.9尺	1.2尺	
天神橋	仝上	12.04.3	44.0	10.0尺	3	仝	11.0	0.9	1.2	
西峰院橋	仝郡仝村大字多布施	17.32.7	33.0	11.0 9.0	2	仝	12.0 10.0	0.9	1.2 0.9	
瓢橋	仝上	25.64.8	44.0	10.0	3	仝	11.0	0.9	1.2	
長堀橋	仝上	33.56.3	7.0呎	5呎-10吋	ナシ	工字形鋼鉄	6呎-6吋	4吋	3/8吋	8吋
十間堀橋	仝上	37.08.7	33.0尺	11.0尺 9.0尺	2	檜材	12.0尺 10.0	0.9尺 0.9	1.2尺 1.2	
中多橋	佐賀市中町	37.73.8	7.0呎	5呎-10吋	ナシ	工字形鋼鉄	6呎-6吋	4吋	3/8吋	8吋
神原橋	仝市松原町	43.67.8	7.0呎	5呎-10吋	ナシ	仝	6呎-6吋	4吋	3/8吋	8吋

踏切道位置表

場所	位置	長	
神野踏切	神野停車場側線分岐点間	56^{K}	本線及側線ノ分
仝	仝引込線	35 ~~8^{K}~~	
手島踏切	$11.^{E}05^{L}$	$1.^{K}0$	
多布施小路踏切	$22.^{E}35^{L}8$	$1.^{K}5$	
中町踏切	$41.^{E}82^{L}$	2^{K}	
第一号 八幡小路踏切	$45.^{E}09.^{L}$	2^{K}	
第二号 仝上	$45^{E}64^{L}5$	3^{K}	
中ノ小路停車場	終点附近	8^{K}	
計		$81.^{K}5$	

水道ト交叉個所水管寸法表

位置	水道管ノ大サ	被覆コンクリート管ノ大サ	被覆工事長
$41.^{E}85^{L}$	6吋	10吋	6尺
$45^{E}68^{L}$	6吋	10吋	6尺

国立公文書館 National Archives of Japan

(乙)

川上軌道延長線工費仕訳書

一金参百圓　測量及工事監督費

軌道哩程五拾鎖[illegible]測量設計並ニ工事監督ニ要スル費用ニ當ツ

一金壱百貳拾五圓七銭五厘　用地費

種別	地目	坪数	単価	代価	摘要
停留場用地	宅地 官有地	二九坪四四	二〇〇〇 拝借使用	八七〇〇〇	神野停留場 図面第参号参照
仝	宅地 官有地	七六一五 九四五五	五〇〇〇 拝借使用	三八〇七五	中ノ小路停留場 図面第四号参照
計				一二五〇七五	

一金壱百九拾四圓七拾七銭八厘　土工費

神野停留場土工工事

種目	材料	長	巾厚	徑	員数	単価	代価	摘要
盛土	土砂	面積坪 三三四	平均高 四五		立坪 一五〇三	二〇〇〇	三〇〇六	単価表ノ通リ
石垣	割石	七四間	高 七五間		面坪 五五五	八〇〇〇	四四四〇〇	西側ノ分 単価表ノ通リ
仝	仝	四〇五	一間一		面坪 四九五	八〇〇〇	三九六〇〇	南側ノ分 単価表ノ通リ
仝床堀	人夫				十人	五〇〇	五〇〇〇	
仝土台枠		一二〇間			一二個	一一八〇	一四一六〇	西側七間五分南側四間五分 土台用単価表ノ通リ
石垣	割石	一八	高 二		面坪 三六	八〇〇〇	二八八〇〇	側溝両側石垣ノ分 単価表ノ通リ
計							一六二〇二〇	

中ノ小路停留場土工工事

種目	材料	長	巾厚	徑	員数	単価	代価	摘要
盛土	土砂	面積坪 一一八九五	平均高 二		立坪 二三七九	二〇〇〇	四七五八	転車台据付個所ノ分 単価表ノ通リ
石垣	割石	一四間	高 二五		面坪 三五	八〇〇〇	二八〇〇〇	転車台据付個所ノ分 単価表ノ通リ
計							三二七五八	
合計							一九四七七八	

(乙)

一金貳千百九拾七圓七拾八錢八重　橋梁費

平島橋一部補強工事

位置五鎮八拾七節八

長拾壱尺　全巾三十尺　加工巾五尺

圖面第五号参照

有効径間拾尺

橋臺ノ部（両側分）

種目	材料	長	巾厚径	員數	單價	代價	摘要
床石	花崗石	五.〇	一.六〇 .七	二本	二.一〇〇	四.二〇〇	
全据付用モルタル	セメント一砂三			五切	三.四〇	一.七〇〇	
職工	石工			一人五	一.〇〇〇	一.五〇〇	床石上面小切仕上ボールト穴明ケ据付手間共
手傳人夫				一人	.五〇〇	.五〇〇	石工手傳其他一切
桁尻土留堀石	割石	五尺.四	高一尺.二	面坪三.六〇	.九七五	三.五一〇	
計						一一.四一〇	

川上軌道株式會社

桁架渡ノ部

種目	材料	長	巾厚径	員數	單價	代價	摘要
桁	欅材	二丈一.五	一尺九 一.二	二本	二七.〇〇〇	五四.〇〇〇	
振留木	杉材	二.〇五	九五	二	五.五〇	一一.〇〇	
張板	同	六.五	六七 一五	八枚	.九七〇	七.七六〇	軌條内側ノ分
張板	同	六.五	九五 〇五	四	一.三八〇	五.五二〇	軌條外側ノ分
土留板	同	六.五	一五五	四	.四〇〇	一.六〇〇	
ボールト	鉄	一.九	〇六	四本	.五六〇	二.二四〇	桁ト床石取付用
同	同	四.一五	〇五	二	.七〇〇	一.四〇〇	両桁締付用
同	同	一.六六	〇四	一二	.二〇〇	二.四〇〇	桁ト軌道枕木締付用
同用挟金	同	一.一	一六 〇三	六枚	.三〇〇	一.八〇〇	
洋釘		五寸		二四本	.〇〇四	.〇九六	土留板打付用

95

国立公文書館 National Archives of Japan

（乙）

天神橋一部補強工事
長四拾四尺　全巾三十尺　加工巾五尺
位置十二鎖四節三
有効径間拾尺
圖面第六号参照

橋臺ノ部（両側分）

種目	材料	長	巾・厚	徑	員數	單價	代價	摘要
仝		六吋			七二〃	〇〇五	三六〇	張抜打付用
亭綿布		一尺〇	尺九		四枚	一〇〇	四〇〇	桁枕付キ下敷用
職工	大工				二人	八〇〇	一六〇〇	桁架渡張抜打付其他仕上一切
手傳	人夫				六〃	五〇〇	三〇〇〇	大工手傳其他一切
	計						八三五六	
計							九四九六	
床石	花崗石	五尺〃	一尺〇 七		二本	二一〇〇	四二〇〇	
仝据付用モルタル	セメント一 砂三				五切	三四〇	一七〇〇	
職工	石工				一人五	一〇〇〇	一五〇〇	床石上面ヵ叩仕上ボールト穴明ケ据付手間共
手傳	人夫				一〃	五〇〇	五〇〇	石工手傳其他一切
桁底土留石垣	割石	五尺四	高一尺二		面坪三六	九七五〇	三五一〇	
	計						一一四一〇	
								橋脚ノ部（三脚分）
添土台木	松材	七尺〇	一尺八 一〇		六本	三四五〇	二〇七〇〇	一脚ニ二本使用ノ丁
仝締付用ボールト	鉄	二〃七	圭〃 〃六		一八〃	七三〇	一三一四〇	一脚ニ六本使用ノ丁
職工	大工				三人	八〇〇	二四〇〇	添土台木仕掛ヘ据付手間共
橋脚	焼過煉瓦	一〇尺六	二尺二七		五二八〇枚	〇一六	八四四八〇	下部ヨリ十五段ハ三枚積上部ハ二枚半積上等焼過煉瓦長七寸巾三寸五分厚一寸九分ノモノ使用ノ丁

川上軌道株式會社

（乙）

種目	材料	長	巾厚	徑	員數	單價	代價	摘要
煉瓦積用モルタル	セ上砂三	〃			六〇坪	三四〇	二〇四〇〇	
職工	煉瓦工				一二人	一二〇〇	一四四〇〇	積立同地金仕上迄一式
床石	花崗石	二尺〇	一尺二 一〇		六本	一二〇〇	七二〇〇	上面全部小叩仕上及桁取付ボールト二個穴明ケノ了
職工	石工				六人	一〇〇〇	六〇〇〇	石材仕上据付ボールト穴明ケ手間共一式
手傳	人夫				三〇〃	五〇〇	一五〇〇〇	職工手傳足場掛ヘ材料運搬排水手間共一切
足場損料					一式	五〇〇〇	五〇〇〇	
計							一八八七〇〇	
								桁架渡ノ部
桁	欅材	一二尺	一尺九 一二		八本	二七〇〇〇	二一六〇〇〇	
根固木	杉材	二四五	九五		八〃	五五〇	四四〇〇	
張板	仝	六尺五	六七 五		二八枚	九七〇	二七一六〇	軌條内側ノ分
仝	仝	六五	九五 二五		一四〃	一三八〇	一九三二〇	軌條外側ノ分
土留板	松材	六尺五	五五 一五		一四枚	四〇〇	五六〇〇	
ボールト	鉄	一尺九		全〇六	四本	五六〇	二二四〇	桁ト床石取付用両橋臺ノ分
仝	仝	二一八		〃〇六	一二〃	六〇〇	七二〇〇	桁ト床石取付用橋脚ノ分
仝	仝	四一五		〃〇五	八〃	七〇〇	五六〇〇	両桁締付用
仝	仝	一六六		〇四	四八〃	二二〇	一〇五六〇	桁ト軌道枕木締付用
仝用板金	仝	一一	一六 〇三		二四枚	三〇〇	七二〇〇	
洋釘		五吋			八四本	〇〇四	三三六	土留板打付用
仝		六吋			二五二〃	〇〇五	一二六〇	張板打付用
雪綿布		一尺〇	尺九		一〇枚	一〇〇	一〇〇〇	桁枕木付キ下敷用
職工	大工				八人	八〇〇	六四〇〇	桁架渡張板打付其他仕上一式
手傳	人夫				二四〃	五〇〇	一二〇〇〇	大工手傳其他一切

川上軌道株式會社

97

（乙）

種目	材料	長	巾/厚	徑	員數	單價	代價	摘要
計	計						三二六二七六	
							五二六四〇六	
西峰院橋一部補強工事								位置於七鎮三十貳節七
長参拾貳尺					全巾三十尺 架巾五尺			
有効径間拾壱尺								圖面第七号参照
仝				九尺				
								橋臺ノ部（両側分）
床石	花崗石	五尺〇	巾一尺〇 厚七		二本	二一〇〇	四二〇〇	
全据付用モルタル	セメント一 砂三				五切	三四〇	一七〇〇	
職工	石工				一人五	一〇〇〇	一五〇〇	床石上面小叩仕上ボールト穴明ケ据付手間共
手傳	人夫				一人	五〇〇	五〇〇	石工手傳其他一切
桁尻土留石垣	割石	五尺四	高一尺二		両坪三六	九七五〇	三五一〇	
	計						一一四一〇	
								橋脚ノ部（二脚分）
添土台	松材	七尺〇	一尺八 一〇		四本	三四五〇	一三八〇〇	一脚ニ二本使用ノ了
全締付用ボールト	鉄	二ヶ七	五〇六		一二ヶ	七三〇	八七六〇	一脚ニ六本使用ノ了
職工	大工				二人	八〇〇	一六〇〇	添土台木仕拵ヘ据付手間共
橋脚	煉瓦積	一〇尺六	二ッ二七		三五二〇枚	〇一六	五六三二〇	下部長サ十五段ハ三枚積上部二枚半積上等煉瓦過焼煉瓦長七寸五分巾三寸五分厚一寸九分ノモノ使用ノ了
煉瓦積用モルタル	セメント一 砂三				四〇切	三四〇	一三六〇〇	
職工	煉瓦石工				八人	一二〇〇	九六〇〇	積立同地盤仕上迄一式
床石	花崗石	二尺〇	一二 一〇		四本	一二〇〇	四八〇〇	上面全部小叩仕上及桁取付ボールト二個穴明ケノ了
職工	石工				四人	一〇〇〇	四〇〇〇	石材仕上据付ボールト穴明ケ手間共一式

川上軌道株式會社

（乙）

種目	材料	長	厚巾徑	員數	單價	代價	摘要
手傳	人夫			二〇人	五〇〇	一〇〇〇〇	職工手傳足場掛ケ、材料運搬排水手當其他一切
足場損料				一式	三〇〇〇	三〇〇〇	
	計					一三五四八〇	
							桁架渡ノ部
桁	欅材	一三尺〇	一尺二 九	二本	二八〇〇〇	五六〇〇〇	
仝	仝	一〇〃〇	一二 九	四〃	二六〇〇〇	一〇四〇〇〇	
振留木	杉材	二〃四五	九 五	六〃	五五〇	三三〇	
張板	仝	六〃七	二五 六七	二〇枚	九九〇	一九八〇	軌條内側ノ分
仝	仝	六〃七	二五 九五	一〇〃	一四〇〇	一四〇〇〇	軌條外側ノ分
土留板	仝	六〃七	一五 五五	一〇〃	四二〇	四二〇〇	
ボールト	鉄	一〃九	径〇六	四本	五六〇	二二四〇	桁ト床石取付用 両橋台ノ分
仝	仝	二〃一八	径〇六	八〃	六〇〇	四八〇〇	桁ト床石取付用 橋脚ノ分

川上軌道株式會社

種目	材料	長	厚巾徑	員數	單價	代價	摘要
ボールト	鉄	四尺一五	径〇五	六本	七〇〇	四二〇〇	両桁締付用
仝	仝	一〃二六	径〇四	三六〃	二二〇	七九二〇	桁ト軌道枕木締付用
角板金	仝	一〃一	〇三 一六	一八枚	三〇〇	五四〇〇	
洋釘		五吋		六〇本	〇四	二四〇	土留板打付用
仝		六吋		一八〇〃	〇五	九〇〇	張板打付用
亜綿布		一尺〇	尺九	八枚	一〇〇	八〇〇	桁枕付キ下敷用
職工	大工			六人	八〇〇	四八〇〇	桁架渡張板打付其他仕上一式
手傳	人夫			一八〃	五〇〇	九〇〇〇	大工手傳其他一切
	計					二四一六〇〇	
計						三七八四九六〇	

（乙）

瓢橋一部補強工事

長四拾四尺　全巾三十尺　加工巾五尺

有効径間拾尺

位置二十五鎖六拾四節八

圖面第八号参照

橋臺ノ部（両側分）

種目	材料	長	巾厚径	員数	單價	代價	摘要
床石	花崗石	五尺〇	一尺〇七	二本	二一〇〇	四二〇〇	
石据付用モルタル	セメント一上砂三			五切	三四〇	一七〇〇	
職工	石工			一人五	一〇〇〇	一五〇〇	床石上面ハ叩仕上ボールト穴明ケ据付手間共
手傳	人夫			一ヶ	五〇〇	五〇〇	石ニ手傳其他一切
桁尻土留石垣	割石	五尺四	一尺二	立坪三六	九七五〇	三五一〇	
計						一一四一〇	

橋脚ノ部（三脚分）

種目	材料	長	巾厚径	員数	單價	代價	摘要
添土台木	松材	七尺〇	一尺〇八	六本	三四五〇	二〇七〇〇	一脚ニ二本使用ノ了
全据付用ボールト	鉄	二ツ七	〇六	一八ヶ	七三〇	一三一四〇	一脚ニ六本使用ノ了
職工	大工			三人	八〇〇	二四〇〇	添土台木仕拵ヘ据付手間共
橋脚	煉瓦積	一〇尺六	二尺七	五二八〇枚	〇一六	八四四八〇	[illegible]
煉瓦積用モルタル	セメント一上砂三			六〇切	三四〇	二〇四〇〇	
職工	煉瓦工			一二人	一二〇〇	一四四〇〇	積立目地塗仕上迄一式
床石	花崗石	二尺〇	一尺二一〇	六本	一二〇〇	七二〇〇	上面全部ハ叩仕上及桁取付ボールト二個穴明ケノ了
職工	石工			六人	一〇〇〇	六〇〇〇	石材仕上据付ボールト穴明ケ手間共一式
手傳	人夫			三〇ヶ	五〇〇	一五〇〇〇	職工手傳足場拵ヘ材料運搬取片付手間共一切
足場損料				一式	五〇〇〇	五〇〇〇	
計						一八八七二〇	

川上軌道株式會社

(乙)

種目	材料	長	厚巾径	員數	單價	代價	摘要
							桁架渡ノ部
桁	欅材	二尺〇	一尺九 一二	八本	二七〇〇	二一六〇〇〇	
桭留木	杉材	二 四五	五 九	八〃	五五〇	四四〇〇	
張板	仝	六〃五	六七 二五	二八枚	九七〇	二七一六〇	軌條内側ノ分
仝	仝	六〃五	九五 二五	一四〃	一三八〇	一九三二〇	軌條外側ノ分
土留板	仝	六〃五	五五 一五	一四〃	四〇〇	五六〇〇	
ボールト	鉄	一〃九	五 〇六	四〃	五六〇	二二四〇	桁ノ床石取付用 両橋臺ノ分
仝	仝	二〃一八	五 〇六	一二〃	六〇〇	七二〇〇	桁ト床石取付用 橋脚ノ分
仝	仝	四尺一五	五 〇五	八本	七〇〇	五六〇〇	両桁締付用
仝	仝	一〃六六	〃 〇四	四八〃	二二〇	一〇五六〇	桁ト軌道枕木締付用
仝用板金	仝	一〃一	一六 三	二四枚	三〇〇	七二〇〇	
洋釘		五吋		八四本	〇四	三三六	土留板打付用
洋釘		六吋		二五二本	〇〇五	一二六〇	張板打付用
亜鉛板		一尺〇	尺九	一〇枚	一〇〇	一〇〇〇	桁枕付キ下敷用
職工	大工			八人	八〇〇	六四〇〇	桁架渡張板打付其他切上一式
手傳	人夫			二四〃	五〇〇	一二〇〇〇	大工手傳其他一切
	計					三三六七六	
計						五二六四六	
十間堀橋一部補強工事							位置三十七鎖八十節七
		長参拾貳尺			全巾三十尺 加工巾五尺		圖面第九号参照
			有効径間拾壱尺				橋臺ノ部
			仝	九尺			

川上軌道株式會社

（乙）

種目	材料	長	巾厚 径	員数	單價	代價	摘要
床石	花崗石	五尺〇	一尺〇 七〇	二本	二一〇〇	四二〇〇	
全据付用モルタル	セメント一 砂三			五〇切	三四〇	一七〇〇	
職工	石工			一五人	一〇〇	一五〇〇	床石上面ヽ叩仕上ボールト穴明ケ据付手間共
手傳	人夫			一〇ヶ	五〇	五〇〇	石工手傳其他一切
桁尻土留石垣	割石	五尺四	高一尺二	面坪三六	九七五〇	三五一〇	
	計					一一四一〇	
							橋脚ノ部（二脚分）
添土台	松材	七尺〇	一尺八 一〇	四本	三四五〇	一三八〇〇	一脚ニ二本使用ノ了
全締付用ボールト	鉄	二尺七	〇六	一二ヶ	七三〇	八七六〇	一脚ニ六本使用ノ了
職工	大工			二人	八〇〇	一六〇〇	添土台仕拵ヘ据付手間共
橋脚	煉瓦積	一〇尺六	二尺二七	三五二〇枚	〇一六	五六三二〇	下部ヨリ十五段ハ三枚積上部ニ枚半積上等焼過煉瓦長七寸二分巾三寸五分厚一寸九分ノモノ使用ノ了
煉瓦積用モルタル	セメント一 砂三			四〇切	三四〇	一三六〇〇	
職工	煉瓦石			八人	一二〇	九六〇	積立目地塗仕上迄一式
笠石	花崗石	二尺〇	一二 一〇	四本	一二〇	四八〇	上面全部ヽ叩仕上及桁取付ボールト二個穴明ケノ了
職工	石工			四人	一〇〇	四〇〇	石材仕上据付ボールト穴明ケ手間共一式
手傳	人夫			二〇ヶ	五〇	一〇〇〇	職工手傳足場拵ヘ材料運搬排水手間共一切
足場損料				一式	三〇〇	三〇〇	
	計					一三五四八〇	
							桁架渡ノ部
桁	欅材	一三尺〇	一尺二 九	二本	二八〇〇〇	五六〇〇〇	
全	全	一〇尺〇	一二 九	四ツ	二六〇〇〇	一〇四〇〇〇	
振留木	杉材	二尺四五	九 五	六ヶ	五五〇	三三〇〇	
張板	全	六尺七	二五 六七	二〇枚	九九〇	一九八〇〇	軌條内側ノ分

川上軌道株式會社

（乙）

種目	材料	長	巾厚径	員數	單價	代價	摘要
仝	仝	六〃七	九五 二五	一〇〃	一四〇〇	一四〇〇	軌條外側ノ分
土留板	仝	六〃七	一五五 一五	一〇〃	四二〇	四二〇	
ボールト	鉄	一〃九	圣 〇六	四本	五六〇	二二四〇	桁ト床石取付用 両橋臺ノ分
仝	仝	二〃一八	圣 〇六	八〃	六〇〇	四八〇〇	桁ト床石取付用 橋脚ノ分
仝	仝	四〃一五	圣 〇五	六〃	七〇〇	四二〇〇	両桁締付用
仝	仝	一〃六六	圣 〇四	三六〃	二二〇	七九二〇	桁ト軌道枕木締付用
仝用板金	仝	一〃一	一六 〇三	一八枚	三〇〇	五四〇〇	
洋釘		五吋		六〇本	〇〇四	二四〇	土留板打付用
仝		六吋		一八〇〃	〇〇五	九〇〇	張板打付用
厚綿布		一尺〇	〃九	八枚	一〇〇	八〇〇	桁枕付下敷用
職工	大工			六人	八〇〇	四八〇〇	桁架渡張板打付其他仕上一式
手傳	人夫			一八〃	五〇〇	九〇〇〇	大工手傳其他一切
	計					二四一六〇〇	
計						三七八四九〇	

長堀橋一部補強工事

位置三十三鎖五十六節三

長七呎　仝巾 三十尺　加工巾 五尺

圖面第十号参照

有効径間五呎十吋

橋臺ノ部

種目	材料	長	巾厚径	員數	單價	代價	摘要
床石	花崗石	五呎	十吋 八吋八分三	二本	二一〇〇	四二〇〇	
仝据付用モルタル	セメント一 砂三			五切	三四〇	一七〇〇	
桁尻土留石	花崗石	五呎	八吋八分五 八吋八分ノ三	二本	一二〇〇	二四〇〇	
職工	石工			一人	一〇〇〇	一〇〇〇	床石上面小叩仕上ボールト穴明ケ据付及桁尻土留石嵌付迄一切

（乙）

種目	材料	長	巾・厚	径	員数	單價	代價	摘要
手傳	人夫				一人	五〇〇	五〇〇	石工手傳其他一切
	計						九八〇〇	
								桁架渡ノ部
桁	工形鉄	二〇呎六吋	高八吋 巾四吋 厚八分ノ三吋		二本	二〇〇〇〇	四〇〇〇〇	毎壹呎ニ付貳拾銭ト見ル
床版	錬鉄	十吋	十吋 二分ノ一吋		四枚	一三五〇	五四〇〇	
仝用下敷	鉛板	十吋	十吋 十六分ノ一吋		四ケ	七五〇	三〇〇〇	
鬼ボールト	錬鉄	八吋		四分ノ三吋	八本	三〇〇	二四〇〇	床版ト床石取付用
振止金物	コ形鉄	三呎八吋半	高五吋 巾二吋半 厚四分ノ一		二ケ	五七〇〇	一一四〇〇	
仝取付金物	L形鉄	六吋 四分ノ一	三吋 三吋		四枚	五六〇	二二四〇	
ボールト	錬鉄	一吋四分ノ三		八分ノ五吋	八本	〇七〇	五六〇	桁ト振止取付用
リベット	仝	一吋二分ノ一		二分ノ一	二八ケ	〇三〇	八四〇	振止金物鋲付及床版鋲付用
クリップボールト	仝	五吋二分ノ一		八分ノ五吋	八ケ	一五〇	一二〇〇	桁ト枕木取付用
ペンキ塗					一式	一〇〇〇	一〇〇〇	金物全部塗上ノ材料手間共
張板	杉材	七、五	六七 二五		四枚	一一二〇	四四八〇	軌条内側ノ分
仝	仝	七、五	九五 二五		二ケ	一五八〇	三一六〇	軌条外側ノ分
洋釘		六吋			四八本	〇〇五	二四〇	張板打付用
職工	鉄工				八人	一〇〇〇	八〇〇〇	桁組立ヨリ据付迄一式
仝	大工				一人	八〇〇	八〇〇	張板打付其他一式
手傳	人夫				五人	五〇〇	二五〇〇	鉄工及大工手傳其他一切
	計						八七二二〇	
計							九七〇二〇	
	中多橋一部補強工事							位置三十九鎖六十三節半
	長七呎			全巾三十尺 加工巾五尺				圖面第十一号参照

川上軌道株式會社

（乙）

橋臺ノ部

有効径間五呎十吋

種目	材料	長	巾厚 径	員数	單價	代價	摘要
床石	花崗石	五呎	巾十三吋 厚八吋八分ノ五	二本	二一〇〇	四二〇〇	
仝据付用モルタル	セメント一上砂三			五切	三四〇	一七〇	
桁尻土留石	花崗石	五呎	八吋八分ノ五 八吋八分ノ三	二本	一二〇〇	二四〇〇	
職工	石工			一人	一〇〇〇	一〇〇〇	床石上面ナ叩仕上ボールト穴明ケ据付及桁尻土留石据付迄一切
手傳	人夫			一人	五〇〇	五〇〇	石工手傳其他一切
	計					九八〇〇	
							桁架渡ノ部
桁	工形鉄	十六呎六吋	高八吋 巾四吋 厚八分ノ三吋	二本	二〇〇〇〇	四〇〇〇〇	毎壱呎ニ付弐拾封度トス
床版	錬鉄	十吋	十吋 八分ノ一吋	四枚	一三五〇	五四〇〇	
仝用下敷	鉛板	十吋	十吋 拾六分ノ一吋	四〃	七五〇	三〇〇〇	

種目	材料	長	巾厚 径	員数	單價	代價	摘要
鬼ボールト	錬鉄	八吋	径八分ノ五吋	八本	三〇	二四〇	床版ト床石取付用
振止金物	コ形鉄	三呎八分ノ一吋	高五吋 巾二吋 厚[illegible]分ノ一	二〃	五七〇〇	一一四〇〇	
仝取付金物	L形鉄	六吋半ノ一	三吋 三吋	四枚	五六〇	二二四〇	
ボールト	錬鉄	一吋四分ノ三	径八分ノ五吋	八本	〇七〇	五六〇	桁ト振止取付用
リベット	仝	一吋二分ノ一	径二分ノ一吋	六〃	〇三〇	一八〇	振止金物鋲付及床版鋲付用
ボールト	仝	五吋	径八分ノ三吋	八〃	一〇	八〇	張板締付用
タイボールト	仝	三呎五吋	径二分ノ一吋	三〃	三二〇	九六〇	両軌條取付用
ボールト	仝	一吋二分ノ一	径八分ノ三吋	一二〃	〇五〇	六〇〇	軌條ト桁取付用
鉄板	仝	六呎六吋	巾四吋 厚八分ノ一吋	二〃	一〇〇〇	二〇〇〇	軌條下敷用
ペンキ塗				一式	一〇〇〇	一〇〇〇	金物全部塗上ノ了
張板 / 押木	杉材 / 杉材	七〃五 / 三〃	二五 六七 / 一寸六分 二寸	四枚 / 二本	一一二〇 / 〇四五	四四八〇 / 〇九〇	軌條收側ノ分 / 材料手間共 張板取付ニ使用ス

川上軌道株式會社

105

(乙)

種目	材料	長	巾厚	徑	員數	單價	代價	摘要
仝	仝	七ッ五	一五 二五		二ッ	〇八〇	一六〇	軌條外側ノ分
職工	鉄工				一〇人	一〇〇	一〇〇〇	桁組立ヨリ据付迄一式
仝	大工				一人	八〇	八〇	張板打付其他一式
手傳	人夫				五ッ	五〇	二五〇	鉄工及大工手傳其他一式
	計						八九二三〇	
計							九九〇三〇	

神岺橋一部補強工事

位置四十三鎖六拾七節

長七呎　全巾三十呎　加工巾五呎

圖面第十二号参照

有効径間五呎十吋

橋臺ノ部

川上軌道株式會社

種目	材料	長	巾厚	徑	員數	單價	代價	摘要
床石	花崗石	五〇尺	十二吋 八吋八分三		二本	二一〇	四二〇	
仝据付用モルタル	砂三 セメント上				五切	三四〇	一七〇〇	
桁尻土留石	花崗石	五尺	八吋八分五 八吋八分三		二本	一二〇	二四〇	
職工	石工				一人	一〇〇	一〇〇	床石上面小叩仕上ボールト穴明据付及桁尻土留石据付迄一切
手傳	人夫				一人	五〇	五〇	石工手傳其他一切
	計						九八〇	
								桁架渡ノ部
桁	工版鉄	六呎六吋	高八吋 巾四吋 厚八分ノ三吋		二本	二〇〇〇	四〇〇〇	[illegible]
床版	錬鉄	十吋	十吋 三分ノ一吋		四枚	一三五	五四〇	
全用下敷	鉛板	十吋	十吋 八分ノ一吋		四ッ	七五	三〇〇	
鬼ボールト	錬鉄	八吋		四分ノ三吋	八	三〇	二四〇	床版ト床石取付用

国立公文書館 National Archives of Japan

（乙）

種目	材料	長	巾厚 径	員數	單價	代價	摘要
振留金物	コ形鉄	三尺八分五吋	巾五吋 厚二分ノ一	二ヶ	五七〇〇	一一四〇〇	
金取付金物	L形鉄	六吋三分ノ一	三吋 四吋	四枚	五六〇	二二四〇	
ボールト	鋲鉄	一吋四分ノ三	径 八分ノ五吋	八本	〇七〇	五六〇	桁ト振止取付用
リベット	仝	一吋四分ノ一	径 三分ノ一吋	二八ヶ	〇三〇	八四〇	振止金物鋲目及床版鋲付用
クリップボールト	仝	五吋四分ノ一	径 八分ノ三吋	八ヶ	一五〇	一二〇〇	桁ト枕木取付用
ペンキ塗				一式	一〇〇〇	一〇〇〇	金物全部塗上ノコト 材料手間共
張板	杉材	七五	六七 二五	四枚	一二〇	四八〇	軌條内側ノ分
仝	仝	七五	九五 二五	二ヶ	一五八〇	三一六〇	軌條外側ノ分
犬釘		六吋		四八本	〇〇五	二四〇	張板打付用
職工	鉄工			八人	一〇〇〇	八〇〇〇	桁組立ヨリ据付迄一式
仝	大工			一人	八〇〇	八〇〇	張板打付其他一式
手傳人足				五ヶ	五〇〇	二五〇〇	鉄工及大工ノ手傳其他一切
小計						八七一二〇	
計						九七〇二〇	
合計						二九七七八	

一金七千貳百九拾七円七拾五銭七厘

軌道費

種目	材料	長	巾厚 径	員數	單價	代價	摘要
軌條	工字形鋼鉄	三〇尺		噸 八一〇四五	四六八二六〇〇	三七九五〇二二	長三〇呎ニ付参拾封度軌條トス
枕木	栗材	五尺	巾六吋 厚四吋四分ノ三	一八〇六本	三二〇	五七七九二〇	六拾四哩八十五鎖ノ内橋梁上用及轉轍器用枕木使用ノ分ヲ除キ主要部ニ[illegible]ス
橋梁上用枕木	檜材	五〇尺	四五 五	九二本	五〇〇	四六〇〇〇	手島橋外六ヶ橋ニ使用ス
轉轍器用枕木	仝	九五	五 三五	九ヶ	八五〇	七六五〇	轉轍器九ヶ所分一ヶ所ニ付一本使用
仝	仝	九〇	〃 〃	一八ヶ	八〇〇	一四四〇〇	轉轍器九ヶ所分一ヶ所ニ付二本使用
仝	仝	八五	〃 〃	一八ヶ	七五〇	一三五〇〇	仝 一ヶ所ニ二本使用

川上軌道株式會社

（乙）

種目	材料	長	巾厚	徑員	數	單價	代價	摘要
仝	仝	八			二七	七〇	一八九〇	仝 一ケ所ニ三本使用
仝	仝	七五			一八	六五	一一七〇	仝 一ケ所ニ二本使用
仝	仝	八〇			二七	六〇	一六二〇	一ケ所ニ三本使用
仝	仝	一五			一八	五五	九九〇	仝 一ケ所ニ二本使用
仝	仝	八〇			一八	五〇	九〇〇	一ケ所ニ二挺使用
仝	仝	五五			九	四五	四〇五	一ケ所ニ一挺使用
轉轍器					九組	三〇〇	一七〇〇	
砂利		三寸五分下五分以上			九七三三坪	一〇〇	九七三三〇	本件ハ概要トス 軌條一哩ニ付[illegible]
敷設					六四八三哩	二三〇	一五五六九	五千[illegible]使用
踏切道					八一五ケ所	一〇	八一五〇	早便表ノ通リ 同面第十四号参照
踏切保安[illegible]					七坪	七五九〇	五三一	[illegible]早便表ノ通リ
土留木	杉材	六尺	二五 二二		三三三本	一七〇	二二四四[illegible]	[illegible]
仝	材付釘	六吋			四〇〇本	五	二〇〇	竹樋ニシテ見込ム
仝	仝	七五			一五〇	八〇	一二〇	
計							二二九七七七	
一金参拾圓八拾錢								工作物障害除防工事費
水道管設[illegible]	鐵	二尺	八		一二本	一九八	二三七六	[illegible]
仝	[illegible]				六	三四	二〇四	コンクリート管ハ[illegible]ニ使用
人夫					一六	五〇	五〇〇	コンクリートニ[illegible]要スル人夫
計							三〇八〇	
一金六百八拾圓								停留場費
乗客待合所		四間	一間		四棟	二五〇〇	一〇〇〇〇	各停留場ニ建設ス
車庫		五間	二間八		一棟	二〇〇〇	二八〇〇	[illegible]建設ス

川上軌道株式會社

（乙）

種目	長	數	單價	代價	摘要
轉車台	八呎五	一台	二五〇〇〇〇	二五〇〇〇〇	中小路停留場ニ設置ス
給水器		一ヶ所	五〇〇〇〇	五〇〇〇〇	中小路停留場ニ設置ス
計				六八〇〇〇〇	

一金七千六百五拾圓　車輛費

種目	數	單價	代價	摘要
機関車	一台	四〇〇〇〇〇	四〇〇〇〇〇	既成線ニ使用ノモノト其構造同一トス
客車	二輌	一五〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	既成線ニ使用ノモノト其構造同一トス
貨車	一輌	六五〇〇〇	六五〇〇〇	仝右
計			七六五〇〇〇	

一金壱百圓　器具及機械費

什器及諸機械購入費ニ當ツ

一金貳百圓　運送費

諸材料運搬費ニ當ツ

川上軌道株式會社

種目材料	長	巾厚	徑員	數	單價	代價	摘要

一金参百圓　総係費

軌道延長ニ関スル諸雜費ニ當ツ

一金九百弐拾参円八拾弐銭　豫備費

（乙）

盛土立壱坪當リ単價表

種目材料	長	巾/厚 径	員数	単價	代價	摘要
土砂			一坪	一〇〇	一〇〇	
鋤取 人夫			五人	三〇	一五〇	
運搬 人夫			三人	五〇	一五〇	
搗堅 人夫			三人	三〇	[illegible]	
計					[illegible]	

石垣面壱坪當リ単價表

（橋桁戸立留石垣部）

種目材料	長	巾/厚 径	員数	単價	代價	摘要
割石 花崗石	一尺五寸	一尺 二〇	一坪	六〇〇	六〇〇	面坪二寸石以内販ナ 五寸以上ノモノ
裏詰 栗石			[illegible]	六〇	一二〇	保實ハ径一寸以上四寸以内トス
職工 石工			一五	一〇〇	一五〇	
手傳 人夫			一五	[illegible]	[illegible]	石工手傳
計					[illegible]	

川上軌道株式會社

(乙)

石垣面壱坪當り單價表

種目	材料	長	巾径	員數	單價	代價	摘要
割石	花崗石	一尺五以上	一〇 一二以上	一〇坪	四五〇	四五〇〇	平壱坪ニ付三十石以内トス 胴付二寸以上ノコト
裏込	栗石			三坪	六〇〇	一八〇〇	径一寸以上四寸以内トス 堅質トス
職工	石工			一人二	一〇〇〇	一二〇〇	
手傳	人夫			一人	五〇〇	五〇〇	石工手傳
計						八〇〇〇	

土台枠長壱間當り單價表

川上軌道株式會社

種目	材料	長	巾厚	径	員數	單價	代價	摘要
土台木	松材	一三〇	三五		二本	六〇〇	一二〇〇	真直ナル生松丸太トス
貫木	仝	二五	三五		四	一〇〇	四〇〇	仝上
栓木	樫	五		八 八	八	一〇	〇八〇	土台木ト貫木ト取付用
職工	大工				人六	八〇〇	四八〇	製作仕上一式
手傳	人夫				四	五〇〇	二〇〇	大工手傳其他
計							二三六〇	

壱間ニ付壱圓拾八錢

軌條壱哩當り單價表

（乙）

軌條敷設長壹鎖當リ單價表

種目	材料	長	巾厚径	員數	單價	代價	摘要
軌條	[illegible]	三〇呎	[illegible]	三五二本	一二〇〇	四二二四〇〇	
継目板		十八吋五		三五二枚	五〇	一七六〇〇	
全用ボールトナット		二吋五分		四〇八本	〇五〇	七〇四〇	
スパイキ		四吋	二分ノ一吋 二分ノ一吋	一〇五六〇本	〇二〇	二一一二〇	
計						四六八一六〇	

川上軌道株式會社

踏切道長壹間當リ單價表

種目	材料	長	巾厚径	員數	單價	代價	摘要
堀方	人夫			一五人	五〇	七五〇	
軌條枕木運搬	人夫			五	五〇	二五〇	
砂利運搬	人夫			三人	五〇	一五〇	
敷設	工夫			三人	六〇	一八〇	
路面仕上	人夫			二人	五〇	一〇〇	
雑費						二〇〇	
計						五五〇〇	

(乙)

種目	材料	長	巾 厚 径	員數	單價	代價	摘要
張板	松板	六呎	九吋 三吋	四枚	六五〇	二六〇〇	張板軌條外側用
仝	仝	六呎	十吋 二吋	三〃	七〇〇	二一〇〇	軌條中間ノ分
軌條	三十封度	六呎		二本	二四〇〇	四八〇〇	複軌條用
スパイキ				一六〃	〇二〇	三二〇	複軌條打付用
洋釘		六吋		五〇〃	〇〇五	二五〇	張板打付用
職工	大工			七	八〇〇	五六〇〇	
手傳				五	五〇〇	二五〇〇	
計						一〇八八〇	

踏切張板面壱坪當リ單價表

川上軌道株式會社

種目	材料	長	巾 厚 徑	員數	單價	代價	摘要
張板	松板	六尺	七五 二五	一〇枚	五二〇	五二〇〇	
土台木	雜材	六〇	五 三五	三本	四〇〇	一二〇〇	
打付	洋釘	六吋		四八〇本	〇〇五	二四〇	
職工	大工			五人	八〇〇	四〇〇〇	
手傳	人夫			五人	五〇〇	二五〇〇	
計						七二九〇	

（乙）

モルタル五壱坪當リ單價表

種目材料	長	巾厚 径	員数	單價	代價	摘要
モルタル セメント			一五 樽	四二〇〇	六三〇〇	配合セメント一砂三 一樽ニハ四切五分入トス
仝 洗砂			立坪 九四	六〇〇	五六四〇	
混和人夫			九六	五〇〇	四八〇〇	
計					七三四四	

一切ニ付金参拾四銭

種目材料	長	巾厚	徑	員数	單價	代價	摘要

橋梁應力計算書

機関車ノ全重量＝4屯.4

$W_1 = \frac{4.4^{T}}{4} = 2464^{\#}$（四輪車ニシテ各車輪ニ平等ニ荷重ヲ傳フルモノトシテ一輪ニ傳フル重量）

W ＝靜荷重（桁上ニアル軌條枕木桁其他構造物ノ一切ヲ包含ス）

Md ＝靜荷重ヨリ起ル力率

Ml ＝動荷重ヨリ起ル力率

M ＝最大彎曲力率

$I' = $ 震動荷重 $= Ml\left(\frac{300}{l+300}\right)$

l ＝徑間

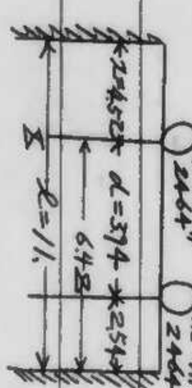
R ＝抵抗力率

構桁ノ部

平島橋、天神橋、西峠院橋、瓢橋ナ間堀橋、ノ四橋ハ構材ノ桁ヲ使用シ総テ其桁ノ大サハ巾九寸高一尺二寸ノモノトス而シテ各橋中ノ最長有効徑間ハ拾壹尺ナリ依テ有効徑間拾壹尺ニ就テ桁ノ應力計算スルヿ下ノ如シ

$l = 11.^{s}$

最大彎曲力率ヲ生セシムベキ点ヲxトシxヨリ前方支点迄ノ距離ヲxトス　$x = 4.52$



$$Ml = \frac{1}{l}\left\{W_1 x(l-x) + W_2(l-x-d)x\right\}$$

$$= \frac{1.1\times4.52\times6.48 + 1.1\times2.54\times4.52}{11} = 4.07704^{s.T}$$

$$= 4.07704\times2240 = 9132.57^{s.\#}$$

$$Md = \frac{1}{2}Wx(l-x)$$　Wハ$110^{\#}$トス

$$= \frac{110\times4.52\times6.48}{2} = 1610.93^{s.\#}$$

$$I' = Ml\left(\frac{300}{l+300}\right)$$

$= 9132.57 \times \frac{300}{11.+300} = 8809.55$ 5.#

$M = (9132.57 + 1610.93 + 8809.55) \times 10 = 195530.5$ 寸#

而シテ下圖ノ如キ欅桁ノ抵抗力率ハ下ノ如シ

F＝實用破壊系数＝$1200.^{\#}$

b＝巾＝$9^{寸}$

h＝高＝$12^{寸}$

$R = \frac{1}{6} F b h^2 = \frac{1200 \times 9 \times 12^2}{6} = 259200.$ 寸#

Fibre stress = 417 #/□"

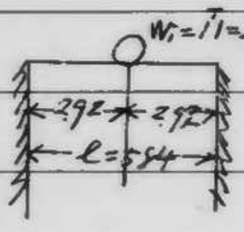
$R > M$ ∴安全ナリ

以上ノ計算ニ依リ拾尺以下ノ径間ニ於テモ安全ナル了勿論ナリトス

鋼鉄桁ノ部

長堀橋、中多橋、神楽橋、ノ三橋ハ有効径間5'-10"ニシテ桁ハＩ形鋼鉄ヲ使用シ其桁ノ大サハ巾四吋高八吋ニシテ皆全一トス 依テ桁ノ應力ヲ計算スル了下ノ如シ

$l = 5'\text{-}10'' = 5.84$



本桁上ニ於テハ通過スル機関車ノ中央ニアル時ニ最大彎曲力率ヲ生ス

$W = 80.^{\#}$

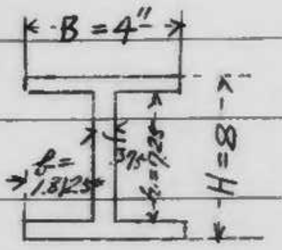
$M_d = \frac{Wl^2}{8} = \frac{80 \times 5.84^2}{8} = 341.06$ 1.#

$M_l = \frac{W_1 l}{4} = \frac{2464 \times 5.84}{4} = 3597.44$ 1.#

$I' = M_l \left(\frac{300}{l+300}\right) = 3597.44 \times \frac{300}{5.84+300} = 3528.75$ 1.#

$M = (341.06 + 3597.44 + 3528.75) \times 12 = 89607$ "#

而シテ下圖ノ如キ断面ヲ有スルＩ形鋼鉄桁ノ抵抗力率ハ下ノ如シ



I = 物量力率 = $\frac{1}{12}(BH^3 - 2bh^3)$

y = 中立軸ヨリ断面邊迄ノ距離 = $\frac{H}{2}$

F = 鋼鉄一平方吋ニ付実用破壊系数 = 14560#

$I = \frac{1}{12}(BH^3 - 2bh^3)$

$= \frac{4 \times 8^3 - 2 \times 1.8125 \times 7.25^3}{12} = 55.5$

$y = \frac{H}{2} = \frac{8}{2} = 4 \qquad F = 14560\#$

$R = \frac{FI}{y} = \frac{14560 \times 55.5}{4} = 202020''\#$

$R > M$ ハ安全ナリ

Fiber stress = 4165 #/□″

第一〇三九號
大正五年十月十一日受領
大正五年十月十一日達濟
浄書
校合

第　號
大正五年十月十一日受領
大正五年十月十一日立案

庶務課長

監督局長

案（電報）

番號
年　月　日

局長

佐賀縣知事宛

回議用紙
鐵道院

414/10

118

九月二十二日附土第四三九九號川上軌道工事施行
起點ヨリ五鎖迄ヲ除キ稟伺ノ通指令濟

參考

照會事項

七

土第四三九九

大正五年十月二十四日　佐賀縣知事石橋和

内閣總理大臣伯爵寺内正毅殿

内務大臣男爵後藤新平殿

本月十一日監第一八八三號ヲ以テ御認可ヲ得候川上軌道株式會社延長線敷設工事本月十八日ヨリ着手ノ旨届出候条此段及報告候也

1154
5.10.27
4.22.9
460

土
四三九九
大正五年十月十八日　佐賀縣知事石橋和
佐賀縣

内閣總理大臣伯爵寺内正毅殿
内務大臣男爵後藤新平殿

川上軌道株式會社ニ對シ本月十八日延長線起点ヨリ零哩五鎖ヲ除ク工事施行認可状交付候條此段及報告候也

國立公文書館
National Archives of Japan

九

閲覧

鉄務課長

来ル日打合済

主任

件名

川上軌道

一 通牒ニ依ル圖書類訂正ノ件

大正 5年 12月 5日

即

課長

擔任

取扱

一 本件支障ナシト認ム

備考 本件ハ大正五年十月十二日付監軌第一〇三九号ヲ以テ通牒セル事項ニ對スル回答ナリ而シテ通牒第五項ニ對スル件ハ稟伺ノ上工事方法変更認可ヲ要スル事項ナルモ先ニ通牒ノ次第モアレバ此儘處理可然乎

通牒第五項ハ軌條ノ寸法既認可ノモノト異ナル場合ハ其ノ圖面ヲ提出スヘキ旨ヲ指令セリ

515

於再

121

土第五三九〇號

大正五年十一月三十日

佐賀縣知事石橋和

鐵道院監督局長大園榮三郎殿

内務省土木局長小橋一太殿

十月十一日附監軌第一〇三九號ヲ以テ
御通牒相成候川上軌道株式會社
延長線工事施行認可申請書訂
正整理方ノ件ニ關シ別紙ノ通當

該社ヨリ届出ニ付御了知相成度此段
及回報候也

發第三五一號

川上軌道延長線工事施行認可願ニ付訂正届

大正五年九月六日附出願仕候當會社延長線工事施行認可願書中左記ノ件訂正致度候間此段御届仕候也

大正五年十一月二日

佐賀縣佐賀郡神野村大字神野
千百貳拾六番地ノ六
川上軌道株式會社
取締役社長　眞崎辰五郎

佐賀縣知事　石橋　和殿

訂正事項

一、中ノ小路停留場轉車臺引込線ノ道路ヲ斜断スル部分ニ踏切板張工ヲ施設シ中ノ小路停留場終點附近踏切道長八間トアルヲ参拾五間ト訂正ス

（別紙圖面参照）

種目	材料	長	巾員	数	單價	代價	摘要
踏切道	松板張	三五間	六尺	三五間	一.〇八八〇円	三八.〇八〇円	北側長十八間五分 南側長十六間五分

二、土工定規圖第三号ノ適用個所ナキヲ以テ該圖ヲ削除ス

三、各橋梁及溝橋ノ全幅員ハ総テ三十六尺ナルヲ以テ構造圖ノ標題工費仕訳書線路縦断面圖共三十六尺ト訂正ス

四、西峰院橋及十間堀橋ノ長三十二尺中央間有効径間拾壱尺両側間有効径間九尺ナルヲ以テ線路縦断面圖構造圖及其標題橋梁一覧表及工費仕訳書共仝一ニ訂正ス

五、軌條ハ大正貳年九月十六日附佐賀縣指令收佐土第二一二号ヲ以テ御認可ヲ受タル長壹碼ニ付参拾封度軌條ヲ使用スレモ其寸法異ナルモノニ付別紙軌條圖ヲ提出ス

佐 内務省 第九二號 5.12.22

六年一月十
十二月十五日閣議決済

乙

一〇

監 第二三五八號 大正五年十二月二十日受領 浄書 校合

監 第一三八九號 大正五年十二月十六日立案 一月九日達濟 一月九日受領

庶務課長

監督局長 監理課長

副總裁

總裁

内閣總理大臣 内閣書記官長

内務大臣 次官

土木局長 技術課長 道路課長

一回議用紙 案 鐵道院

川上軌道工事方法變更ノ件

番號

大正五年十二月三十日附土第五三九二號川上軌道株式會社工事方法變更ノ件稟伺通

年 月 日

内閣總理大臣

内務大臣

516

125

国立公文書館
National Archives of Japan

主任

五　十二　八　五

三

課長

担任

取扱

件名

一　川上軌道

線路一部撤去ノ件

本件支障ナシト認ム

（備考）撤去区間ハ同一地番内ナルヲ以テ命令書ニ変更ナシ

尚本件ハ大正五年十月十一日監第一八八三号ニ依リ通牒ニ基キ提出セルモノナリ

裏面白紙

国立公文書館
National Archives of Japan

土第五三九二號

大正五年十一月三十日

佐賀縣知事石橋和

内閣總理大臣伯爵寺内正毅殿
内務大臣男爵後藤新平殿

川上軌道株式會社ヨリ別紙ノ通既設軌道一部撤去並延長線ニ對シ接續敷設ノ件願出ニ付調査候處支障無之被認候條認可致度此段稟伺候也

佐賀縣

4746
組1285
516
国立公文書館 National Archives of Japan

發第三五三號

軌道線路一部撤去許可願

佐賀縣佐賀郡神野村
川上軌道株式會社

国立公文書館
National Archives of Japan

發第三五三號

軌道線路一部撤去許可願

大正五年十月七日附佐賀縣経由監第一八一五號ヲ以テ内閣総理大臣及内務大臣ヨリ特許線路變更ノ許可ヲ受ケ候線路中佐賀起點ヨリ貳拾四鎖六拾七節ノ個所ヨリ貳拾六鎖拾七節（終點）ニ至ル間本線長壹鎖五拾節及神野南側停留場側線全部長貳鎖参拾五節ノ線路（大正四年四月廿四日附佐賀縣指令收佐土第二八九二号ヲ以テ假設軌道トシテ許可ヲ受ケタル線路ノ起點拾鎖五拾節ノ個所ヨリ拾貳鎖（終點）ニ至ル間及神野停留場側線全部）ヲ撤去シ大正五年八月十四日附特許ヲ受ケタル延長線路ニ接續シテ敷設仕度候間御許可被成下度此段奉願候也

追テ佐賀起點貳拾四鎖五拾壹節ノ個所ヨリ仝貳拾四鎖六拾七節迄長拾六節間ノ曲線部ハ位置變更仕度候

大正五年十一月二日

佐賀縣佐賀郡神野村大字神野
千百貳拾八番地ノ六
川上軌道株式會社
取締役社長 真崎辰五郎

佐賀縣知事石橋和殿

佐 9/1

二

第二三二〇號 大正五年十二月二十日受領
第一九二號 大正五年十二月十六日立案 一月九日達濟 月 日受領

淨書 校合

總裁 副總裁

庶務課長

監督局長 監理課長

內閣總理大臣

內閣書記官長

內務大臣 次官

技術課長

土木局長 道路課長

川上軌道延長線一部工事施行ノ件

回議用紙 鐵道院

案ノ一

番號

大正五年十一月三十日附土第五三九一號佐賀縣知事

川上軌道株式會社一部工事施行ノ件稟伺ノ通

年 月 日

內閣總理大臣

內務大臣

案ノ二

番號

年 一月 九日

514

監督局長
土木局長

佐賀県知事宛

通牒

本年十一月三十日附土第五三九一號ヲ以テ川上軌道一部工事施行ノ件稟伺相成候處車庫引込線ノ踏切張板ヲ待避線附近迄延長施工スルモノトシ別紙ノ通指令相成候條其ノ圖面ヲ徴シ回付有之度

鐵道院

131.

裏面白紙

国立公文書館
National Archives of Japan

十五、二、三〇 川上軌道延長線工事施行ノ件

左記[illegible]

車庫線ノ踏切ヲ待避線付近迄延長セシムルコト

但待避線部中軌道ノ方ニノミ踏切ヲ施設セシト
スル分ハ其ノ必要ナカルヘシト被存ノ

主任

受理大正 五 年 十二 月 八 日
調了大正 年 月 五 日
調査ニ要シタル日数 三 日

照會先 課長

擔任

取扱

件名 十川上軌道

延長線残部工事施行ノ件

本件支障ナシト認ム

尚本件ハ大正五年十月十一日監第一八八三号ニ依ル通牒ニ基キ提出セルモノナリ

国立公文書館
National Archives of Japan

土第五三九一號

大正五年十一月三十日

佐賀縣知事石橋和

内閣總理大臣伯爵寺内正毅殿

内務大臣男爵後藤新平殿

川上軌道株式會社延長線工事施行ノ件

曩ニ特許相成候川上軌道株式會社延長線起點ヨリ零哩五鎖間ニ對シ別紙ノ通工事施行認可申請ニ付調査候處支障無之被認候條認可致度此段稟伺候也

佐賀縣

47487

514

第三五二號

川上軌道延長線一部工事施行願

佐賀縣佐賀郡神野村
川上軌道株式會社

乙発第三五二號

川上軌道延長線工事施行認可願

大正五年八月十四日付佐賀縣經由監第一五二三號ヲ以テ內閣總理大臣並ニ內務大臣ヨリ特許ヲ受候線路中起點ヨリ五鎖間軌條敷設工事施行致度就テハ特許狀附屬命令書ノ條項堅ク遵守シ別紙工事方法書並ニ工費豫算書及圖面ノ通リ施工可仕候間至急工事施行御認可被下度此段奉願候也

大正五年拾壹月貳日

佐賀縣佐賀郡神野村大字神野千百貳拾八番地ノ六

川上軌道株式會社

取締役社長　真崎辰五郎

佐賀縣知事石橋和殿

川上軌道延長線（自起點至五鎖）工費豫算書

一金貳千五百五拾壱圓四拾貳銭八厘

内

金参拾圓　測量及工事監督費

金八拾七圓　用地費

金壹百六拾五圓貳拾貳銭　土工費

金壹千九百四拾壱圓貳拾銭八厘　軌道費

金参百八圓　停留場費

金貳拾圓　運送費

車輌及器具機械ハ在来ノモノヲ使用ス

圖面目録

一、線路實測平面圖
二、仝　縦断面圖
三、神野停留場平面圖
其他関係圖面及單價表ハ大正五年十月十六日附佐賀縣指令第四三九九號ヲ以テ認可セラレタルモノト仝一ニ付省略ス

138

工事方法書

一、本延長線（自起點至五鎖）ノ起終地名及哩程左ノ如シ

起點地名	終點地名	線路區間	哩程
佐賀縣佐賀郡神野村大字神野字二本松八百二十四ノ一番地先	仝縣仝郡仝村大字仝字仝八百十九ノ一番地先（大正五年十月十六日附工事施行認可セラレタル線路ノ起點）	里道	五鎖
避待線其他			七鎖四拾節
計			拾貳鎖四拾節

本延長線ハ明治四拾五年七月廿五日付特許セラレタル線路（哩程拾四鎖拾七節）及大正五年拾月七日付監第一八一五號ヲ以テ假設軌道ヲ特許線路ニ變更セラレタル線路（哩程拾鎖五拾節）ニ接續シテ延長スルモノニシテ當會社ノ軌道起點タル佐賀縣佐賀郡神野村大字神野字一本松四百拾九ノ拾番地先（九州鉄道佐賀駅前）ヨリ貳拾四鎖六拾七節ノ地點ヲ本延長線ノ起點トス

二、本延長線ハ單線ニシテ軌間參呎トス

三、待避線ノ個所ニ於テハ中心距離九呎トシ道路ノ幅員ハ土工定規圖ノ通リトス

四、軌條ハ鋼鉄製工字形ノモノヲ用ヒ其重量ハ長壹碼ニ付參拾封度トス枕木ハ長五呎幅六吋厚四吋四分ノ一ノ栗材ヲ使用シ中心間隔貳呎ニ配置スルモノトス

五、曲線ノ半径ハ一鎖九節ヲ以テ最小限トス

六、勾配ハ千三百二十分ノ一ヲ最急トス

七、軌條敷設方法ハ作工圖ニ示ス如ク中心線ヨリ左右參呎宛深一呎ヲ堀取リ枕木ヲ配置シレールヲ引延シ各レールヂヨイントニハフヰシユプレート二枚ヲ當テフヰシユボールト四

国立公文書館
National Archives of Japan

本ヲ以テ締付ケ軌條ト枕木ト取付ケハドックスパイキヲ打付ケ枕木一本ニ四本打トス道床ニハ平均幅六呎厚サ一呎ノ砂利ヲ敷込ミ充分搗堅メタル上軌條上面ノミ地表ニ現ハル、様埋没セシメ軌條内側ニハ土留木ヲ打付ケ凹形トナシ軌條面ト道路面ト高低ナク人車馬ノ通行ニ差支ナキ様敷設スルモノトス

八、軌道ノ道路ヲ横断スル箇所又ハ道路ノ一方ヨリ他ノ一方ニ軌道ヲ移ス個所ニハ複軌條ヲ取付ケ軌條両外側一呎六吋及軌條間全部ニハ松板ヲ張リ軌條ト同高ニ踏切道ヲ設ケ通行ニ便ナラシム

九、橋梁又ハ暗渠ハ別紙設計書ニ示ス如ク充分ノ耐力ヲ備ユル様補強工事ヲ施シ軌條両側及中間ハ杉板ヲ以テ橋面均等ニ張詰ムルモノトス

十、側線敷設其他道路ノ幅員不足ノ箇所ハ擴築ヲナシ制限ニ抵觸セサル様施工スルモノトス

十一、線路ノ分岐點ニハポイントクロスシング据付ケ其構造ハ既成線ニ使用ノモノト同一ニシテ運轉上安全ナル装置トス

十二、道路ヲ堀鑿埋戻ヲナシタル後残餘ノ土砂アルトキハ盛土個所ニ充用スルモノトス

十三、機関車、客車貨車ノ構造ハ既成線ニ使用ノモノト其構造同一ナルモノヲ使用スルモノトス

十四、圖面并ニ設計書ニ示ス材料寸法ハ仕上寸法トス

十五、仕様設計書ニ記載ナキ事項ト雖モ工事ハ完全ニ施工スルモノトス

停留場位置及線路長表

停留場名	場所	位置	避待線長	車庫線長	計
神野停留場	佐賀縣佐賀郡神野村大字神野字三本松	参鎖拾六節	二鎖五拾五節	四鎖八拾五節	七鎖四拾節

踏切道位置表

場所	位置	長
神野踏切	起點ヨリ	参拾参間
仝	車庫線ノ所	拾参間
仝	側線ノ所	拾参間
計		五拾九間

挿入拾参字
抹消拾壱字

(乙)

川上軌道延長線(自起點至五鎖)工費仕訳書

一金参拾圓　測量及工事監督費

軌道哩五鎖測量及設計並ニ工事監督ニ要スル費用

一金八拾七圓　用地費

種別地目	坪数	單價	代價	摘要
停留場用地　宅地	二九〇坪	三〇〇	八七〇〇〇	神野停留場図面第三号参照
仝　官有地	四四			拝借使用　右仝
計			八七〇〇〇	

一金百六拾五圓貳拾貳銭　土工費

神野停留場土工工事

種目材料	長	巾厚	径	員数	單價	代價	摘要
盛土　土砂	三三四 面坪	平均高 四五 間		一五〇三 立坪	二〇〇	三〇六〇	單價表ノ通リ
石垣　割石	七四 間	平均高 七五 間		五五五 面坪	八〇〇	四四四〇〇	西側ノ分 單價表ノ通リ
仝　仝	四ヶ五	一〃一		四九五 〃	八〇〇	三九六〇〇	南側ノ分 單價表ノ通リ
仝　床堀人夫				一〇 人	五〇〇	五〇〇〇	
仝　土台棒　松材	一二〇 間			一二 間	一一八〇	一四一六〇	西側七間五分南側四間五分土台用單價表通リ
石垣　割石	二〇 間	高 二		四〇 面坪	八〇〇	三二〇〇〇	側溝両側石垣ノ分 單價表ノ通リ
計						一六五二二〇	

一金壹千六百八拾圓八銭八厘　軌道費

(壱千九百四拾[illegible])

種目材料	長	巾厚	径	員数	單價	代價	摘要
軌條　鋼鉄	三〇 呎			一五五 哩	四六八二六〇	七三五六四八	
枕木　栗材	五 呎	六吋 四吋四分ノ二		三五四 本	三二〇	一一三二八〇	拾弐鎖四拾節ノ内転轍器枕木備分(一鎖六十八節五)ヲ扣除ス
転轍器用枕木　檜材	九五 尺	五 三五		四 本	八五〇	三四〇〇	転轍器四ヶ所分一ヶ所ニ付一本使用

（乙）

種目	材料	長	巾厚	徑	員數	單價	代價	摘要
仝	仝	九〇		〃〃	八ッ	八〇〇	六四〇〇	仝二本使用
仝	仝	八五		〃〃	八	七五〇	六〇〇〇	仝二本使用
仝	仝	八〇		〃〃	一二	七〇〇	八四〇〇	仝三本使用
仝	仝	七五		〃〃	八	六五〇	五二〇〇	仝二本使用
仝	仝	七〇		〃〃	一二	六〇〇	七二〇〇	仝三本使用
仝	仝	六五		〃〃	八	五五〇	四四〇〇	仝二本使
仝	仝	六〇		〃〃	八	五〇〇	四〇〇〇	仝二本使用
仝	仝	五五		〃〃	四	四五〇	一八〇〇	仝一本使用
轉轍器					四組	三〇〇〇〇	一二〇〇〇〇	
砂利		壱 弐寸以下五分以上			一八六〇〇立坪	一〇〇〇	一八六〇〇〇	十三鎖四拾節分一鎖ニ付 十三立坪五合使用
敷設					一二四鎖	五五〇〇	六八二〇〇	
踏切道					五九間	一〇八八〇	六四一九二	
土留木	杉材	六尺	二五 二二		二〇三本	一七〇	三四五一〇	十三鎖四拾節ノ内踏切道ノ分（三鎖十八節）ヲ扣除ス
仝打付用洋釘		六寸			六五〇本	〇五	三二五〇	打損シヲ見込ム
仝打付手間	大工				二人	八〇〇	一六〇〇	
計							一九四一二八	
一金参百〇八圓								停留場費
車庫		五間五	二間八		一五坪四〇	二〇〇〇〇	三〇八〇〇〇	瓦葺ノ一棟神野停留場ニ建設ス
計							三〇八〇〇〇	
一金弐拾圓								運送費
	諸材料運搬費ニ當ツ							
	車輛器具機械ハ在来ノモノ使用ス							
合計							二五五一四六 三二九〇三二八	

川上軌道株式會社

三

回電

鉄務課長

本日支障ナシ

三二

受領大正6年1月26日　調了大正　年1月27日　調査ニ要シタル日数1日　廻附先 課長　擔任　取扱

件名　綴類名　川上軌道

調第一号次　踏切張板ニ施行ノ件

支障ナシト認ム

備考　本件ハ大正六年一月九日監鉄第一三九二号ヲ以テ通牒ニ基キ提出シタルモノナリ

一月廿七日

144

裏面白紙

国立公文書館
National Archives of Japan

土

五三九〇

大正六年一月廿二日

佐賀縣知事岡田宇之助

鐵道院監督局長大園榮三郎殿

川上軌道一部工事施行ニ関スル踏切張板工施行關書類送付ノ件

本年一月九日監軌第一三九二號ノ一ヲ以テ御申越ニ係ル首記關書類別紙及送付候也

軌 77

佐賀縣

裏面白紙

国立公文書館 National Archives of Japan

設計書

一金壹百八拾七圓拾参銭六厘　踏切張板追加工費

内譯

種目	材料	長	巾	員数	單價	代價	摘要
踏切道	松板		六吋	拾七間二分	一〇.八八〇	一八七.一三六	

作工圖及單價表ハ大正五年十月十六日附佐賀縣指令第四三九九號ヲ以テ認可セラレタルモノト仝一トス

三

第五二號 大正六年 一月十七日受領 月廿九日達濟

第一三四二號 大正六年 一月十二日立案 月 日受領

浄書 校合

庶務課長

監理課長

監督局長

副總裁

總裁

内閣總理大臣

内閣書記官長

内務大臣

次官

技術課長

土木局長

道路課長

回議用紙 鐵道院

川上軌道工事方法變更ノ件

案

番號

佐賀縣知事

大正五年十二月十八日附土第五〇九二號川上軌道株式會社工事方法變更ノ件稟伺ノ通

年 月 日

内閣總理大臣

内務大臣

課長

受領大正五年十一月十三日　調査ニ要シタル日数　日　廻附先　技長　掛付　取扱

調了大正　年　月　日　日数

県名
軌道名　川上軌道

件名　調第一一号　工事方法変更ノ件

右審査スルニ支障ナシト認ム

備考　本件ハ本年十月十二日池上技師ノ営業監査通達ニ基キ提出セルモノナリ

十一月十三日

149

裏面白紙

国立公文書館
National Archives of Japan

土第五〇九二號

大正五年十二月十八日

佐賀縣知事　左貫藤治郎

内閣總理大臣伯爵寺内正毅殿

内務大臣男爵後藤新平殿

川上軌道久池井橋工事方法變更ノ件

大正二年九月十三日監第一八八九號ヲ以テ
御認可相受候川上軌道工事施行ニ
關シ別紙ノ通一部工事方法變更ノ義
願出ニ付認可致度候條御指令相成
度此段稟伺候也

追テ本件ハ本年十月十二日監軌第六四
四號御通牒ニ基キ處理セシメタルモノ、
一部ニ有之爲念申添候

軌1342

5014

久池井橋工事方法變更願

佐賀縣佐賀郡神野村
川上軌道株式會社

国立公文書館
National Archives of Japan

發第三八七號

久池井橋工事方法變更認可願

當會社軌道中佐賀縣佐賀郡春日村大字久池井字久池井ニ於ケル久池井橋ハ鋼桁ハ別紙ノ通リ寸法變更致度候間工事方法變更ノ儀御認可被下度此段奉願候也

大正五年十二月一日

佐賀縣佐賀郡神野村大字神野千百貳拾八番地ノ六
川上軌道株式會社
取締役社長 真崎辰五郎

佐賀縣知事 石橋和殿

鋼桁断面寸法書

桁ノ種類	高	突縁ノ巾	立軸ノ厚	
工形鋼桁	九吋	四吋二分ノ一	十六分ノ七吋	上記ハ大正二年九月十六日附佐賀縣指令收佐土第二一二号ヲ以テ認可セラレタル寸法
仝	九吋	四吋	六十四分ノ二十九吋	上記ハ変更スベキ寸法

鋼桁ノ長及構造ハ變更ナサヽルモノトス

国立公文書館
National Archives of Japan

久池井橋々桁應力計算書

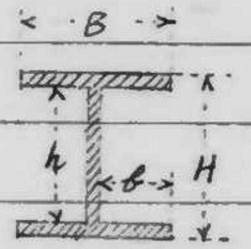
機関車ノ全量 = 4.4 噸

$W_1 = \frac{4.4}{4} = 1.1$ 噸 $= 2464.$ #（四輪車ニシテ各車輪ニ平等ニ荷重ヲ傳ルヲ以テ一輪ニ傳ユル荷重）

W = 静荷重　桁上ニアル軌條枕木、桁其他構造物一切ヲ包含ス

M_d = 静荷重ヨリ起ル力率

M_l = 動荷重ヨリ起ル力率



$I' = M_l\left(\frac{300}{l+300}\right)$ 震動荷重

I = 物量力率 $\frac{1}{12}(BH^3-2bh^3)$

y = 中立軸ヨリ断面邊近ノ距離 $= \frac{H}{2}$

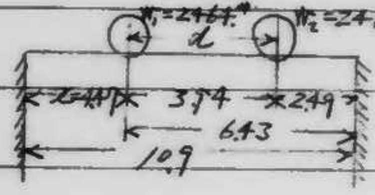
F = 鋼鉄一平方吋ニ付實用破壊系数 $= 14'560.$ #

R = 抵抗力率

l = 径間

有効径間 $= 10'-11\frac{1}{2}'' = 10.9$

本桁上ヲ通過スル機関車ノ為メニ最大彎曲力率ヲ起ス点ヲ求トス



$W = 110.$ #

$M_l = \frac{1}{2}wx(l-x)$

$= \frac{1}{2}\times 110.\times 4.47\times 6.43 = 1580.8$ #

$M_l = \frac{1}{l}W_1(l-x)+(l-x-d)x$

$= \frac{2464\times(6.43+2.49)\times 4.47}{10.9} = 9013.4$ #

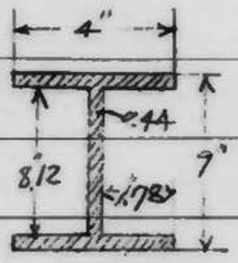
$I' = M_l\left(\frac{300}{l+300}\right)$

$= 9013.4\times\left(\frac{300}{10.9+300}\right) = 8697.4$ #

$M = (1580.8+9013.4+8697.4)\times 12 = 231499.2$ #

而シテ下圖ノ如キ断面ヲ有スル I 形鋼鉄桁ノ抵抗力率ハ下ノ如シ

$I = \frac{1}{12}(BH^3-2bh^3)$



$$\frac{4\times\overline{9}^3-2\times1.78\times\overline{8.12}^3}{12}=84.2$$

$$y=\frac{H}{2}=\frac{9}{2}=4.5$$

$$R=\frac{fI}{y}=\frac{14560\times84.2}{4.5}=272433.7$$

$R>M$ ∴ 安全ナリ

国立公文書館 National Archives of Japan

回覧

庶務課長 佐々木

6285

3

一 川上親仁

一 延長線出雲事業ノ起点報告ノ件

本件左ノ件支障ナシト認ム

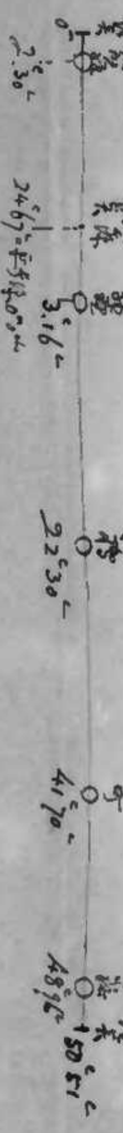
但佐賀線ハ起点ヲ東(?)里程ヲ算出シ中ノ小路ニ終点ヲ計算

シ既設ノ伊万里中心里程ニヨリ算出スル里程ト一致セザルモ

今回報告ノ如ク変更セシト認メ当局備付図面ヲ訂正ス

佐賀線ハ起点ヲ伊万里里程ニ~~[illegible]~~

一 中心里程ヲ訂正シ置ケリ



回答

右ニ付

追テ変更ノ件

件ノ...

処理中

済

統計

[illegible]

裏面白紙

国立公文書館 National Archives of Japan

土第五三八九號

大正六年一月二十七日

佐賀縣知事 岡田宇之助

内閣總理大臣伯爵寺内正毅殿
内務大臣男爵後藤新平殿

川上軌道株式會社延長線五拾鎖五拾壹節間ニ對シ軌道運輸開始願出ニ付左記條件ヲ付シ本日ヨリ許可候條此段及御報告候也

追而各停留場間ノ哩程別紙ノ通ニ有之候

記

一、大正五年十月二十日付佐賀縣指令土第四三九九號ヲ以テ認可ヲ得タル工事方法ニ適合セサル個所ニ付テハ大正六年三月十日限リ同方法書通竣功セシメ屆出ヘシ

佐賀縣

別紙

停留場名	區間	哩程
佐賀駅	自佐賀駅 至神野	二七、鎖八三、節
神野	自神野 至瓢橋	一九、一四
瓢橋	自瓢橋 至中町	一九、四、
中町	自中町 至中ノ小路	六、八一
中ノ小路		四、七、二六

[illegible]

一五

第五五八號　大正六年三月廿六日受領
　　　　　　　　　　三月　日達済
第七號　大正六年三月　日受領
　　　　　　　三月廿三日立案
浄書　校合
庶務課長
監理課長
監督局長
副總裁
總裁
内閣總理大臣
内閣書記官長
内務大臣
次官
技術課長
道路課長
土木局長

川上軌道機関車構造ノ件

回議用紙　鐵道院

案

番號

大正五年十二月二十八日附保第七四三五號佐賀縣知事
川上軌道株式會社機関車構造ノ件稟伺ノ通
年　月　日
内閣總理大臣
内務大臣

佐　1
四五

主任

件名

六 三 十三

郎

回附先 課長

擔任

取扱

一 川上軌道

二 機關車構造認可申請ノ件

右車輛ニ關シ支障ナシト認ム

裏面白紙

国立公文書館
National Archives of Japan

保第七四三五號ノ一

大正五年十二月二十八日

佐賀縣知事　石橋和

内閣總理大臣伯爵寺内正毅殿
内務大臣男爵後藤新平殿

管下佐賀郡神野村川上軌道株式會社ヨリ機關車橋ヶ造變更ノ義別紙ノ通申請ニ付調査ニ處右ハ變更ヲ要スル事情止ムヲ得サルモノニシテ機關車ノ工事方法等支障無之被認ニ付認可致度候條御指示相成度此段及稟伺候也

佐賀縣

監第三九七號

五噸四輪聯働「ボットムタンク」機關車構造認可願

當會社軌道ノ重動車トシテ五噸四輪聯働「ボットムタンク」機關車ヲ使用致度候間別紙工事方法書及圖面ノ通リ構造御認可被成下度此段奉願候也

大正五年十二月十三日

佐賀縣佐賀郡神野村大字神野
千百貳拾八番地ノ六
川上軌道株式會社
取締役社長　眞崎辰五郎

佐賀縣知事石橋　和殿

五噸四輪聯働「ボットムタンク」機関車使用認可願

佐賀縣佐賀郡神野村
川上軌道株式會社

發第三九八號

五噸四輪聯働「ボツトムタンク」機關車使用認可願

當會社ノ原動力車ハ獨乙國「アーサーコツペル」會社製無煙炭及骸炭燃料四噸四分四輪連結水櫃付機關車ヲ使用スルコトニ御認可ヲ得居候處目下戰時ノ爲メ右機關車ヲ購入スルコト到底出來難候ニ付今般東京市大日本軌道株式會社鉄工部ノ製作ニ係ル五噸四輪聯働「ボツトムタンク」機關車ヲ全線路間ニ使用致度候間御認可被成下度別紙工事方法書並ニ圖面及橋梁應力計算書相添ヘ此段奉願候也

大正五年拾貳月拾參日

佐賀縣佐賀郡神野村大字神野千百貳拾八番地ノ六
川上軌道株式會社
取締役社長 眞崎辰五郎

佐賀縣知事 石橋和 殿

大正五年十一月　日

五噸凹輪聯働「ボットムタンク」機關車工事方法書

大日本軌道株式會社鐵工部

国立公文書館
National Archives of Japan

五噸四輪聯働「ボットムタンク」機關車工事方法書

主要事項及主要寸法

一、	軌間	參呎〇吋
二、	軌條（工型）壹碼ニ付	參拾封度
三、	最急勾配	五拾分ノ一
四、	最小曲線半徑 本線 轍叉及附帶線	六拾呎、
五、	形式	四輪聯働「ボットムタンク」單式機關
六、	輛數	弐輛
七、	形式稱號	
八、	番號	六号七号
九、	汽筩直徑	五吋弐分ノ壹
十、	喞子衝程	拾吋
十一、	實用最高汽壓 毎平方吋	壹百六拾封度
十二、	働輪直徑	弐拾弐吋
十三、	仝上壹對上ノ重量 運轉整備ノトキ	弐噸弐分ノ壹
十四、	機關車重量 運轉整備ノトキ	五噸
十五、	牽引力	壹千四百五拾封度
十六、	總傳熱面積	八拾平方呎
十七、	火室傳熱面積	六拾七平方呎
十八、	火管傳熱面積	拾參平方呎
十九、	火構子面積	弐、六平方呎
二十、	火管外徑	壹吋弐分ノ壱

廿一、水櫃容量　壹百叄拾英「ガローン」

廿二、燃料筐容量　四百封度

廿三、機關車最大長（緩衝器外面ニテ）　拾五呎〇吋八分ノ五

廿四、仝上最大幅（「キャブ」把手外面ニテ）　五呎五吋

廿五、仝上最大高（軌條面上煙突頂上迄）　九呎〇吋

廿六、固定輪軸距　四呎〇吋

廿七、全輪軸距　四呎〇吋

廿八、緩衝器及聯結器ノ種類　「セントラル」式

廿九、仝上中心ノ軌條面ヨリノ高　拾　廿八　吋

三十、汽罐中心ノ軌條面ヨリノ高　四呎貳吋

卅一、制動機種類　「ヴヱート」式

卅二、最大運轉速力（毎壹時間）　拾五哩

卅三、製造所名　大日本軌道株式會社鐵工部

卅四、製造年月　大正五年

總則

一、本機關車ハ以下記載スル本工事方法書ニ依リ製作スルモノトス又本文ニ記載セザル部分ハ添付圖面ニ據ルモノトス

二、臺框、汽罐板其他ノ各鋲孔及「ボールト」孔ハ之レヲ打貫カズシテ總テ鑽孔トス而シテ鋲孔ハ少シク沈メ形トナス總シテ摩耗スル個所ニハ油孔ヲ具ヘ又是等ノ錬鐵又ハ軟鋼ニ屬スルモノハ炭素燒ヲ施スルモノトス

三、制動裝置其他弛緩ノ處アル「ボールト」ニハ割「ピン」ヲ附加ス

汽罐

一、汽罐ハ温水ヲ以テ實用最高汽壓ニ參割五分ヲ又蒸汽ヲ以テ實用最高汽壓ニ拾封度加ヘタル壓力ヲ以テ拾五分ノ試驗ヲナスモノトス

二、罐胴ハ軟鋼板ニシテ横目ニ切リタル試驗片ノ引張ル强サハ毎平方吋貳拾六噸乃至貳拾八ニシテ貳割貳分以上ノ延ビアルモノトス

三、罐胴ノ直徑ハ壹呎拾參吋ニシテ厚サハ拾六分ノ五吋トシ縦繼ハ重ネ複列トシ横繼ハ重ネ單列トス熱レモ鋲徑ハ八分ノ五吋ナリトス

四、火室ハ内外共ニ罐胴ト全材ニシテ厚サ熱レモ八分ノ參吋及ビ拾六分ノ五吋ニシテ管板ハ八分ノ參吋トス

五、「ロンヂュチューデナルステー」ハ直徑壹吋ニシテ參本ヲ裝置ス

六、「サイドステー」ハ直徑八分ノ七吋トシ其ノ中心間ノ距離ハ四吋以内トス

七、天井釣方ハ「ラヂアルステー」ニシテ管板ハ「バームステー」ヲ以テ罐胴ノ下部ニ結付ケラル以上各「ステー」ノ材質ハ極軟鋼ニシテ引張ル强サハ毎平方吋貳拾四噸以上ニシテ其伸張ハ八吋ノ長サニ於テ貳割貳分以上トス

八、「バームステー」「サイドステー」及ラヂアルステー」ハ兩端ヨリ直徑八分之壹吋ノ「デルテルホール」ヲ中心ニ穿ツモノトス

九、火管ハ外徑壹吋貳分ノ壹厚サ「バーミングハムワイヤーゲージ」拾參番ノ實体引拔鋼管トシ其數參拾參本ナリトス

十、汽罐ニハ左ノ附屬品ヲ具備スルモノトス

「セーフチーヴァルヴ」ポップ式 貳個

「インジエクター」「メトロポリタン」 壹個

「インスピレーター」「ハンコツク」 壹個

「プレツシヤーゲージ」 壹個

「ウオターゲージ」　壹式
「テストコック」　貳個
「ブローワー」　壹式
「ウオッシュアウトプラッグ」　拾壹個
「フュージブルプラッグ」　貳個
「ホイッスル」　壹個
「スパークアレスター」　壹式
「ブローチッフコック」　壹個

機械其他

一、汽罐ノ底部ニハ運轉室ヨリ開閉シ得ル水拔活栓ヲ具フ
二、運轉室ニハ見透シ油壺ヲ具ヘ搢動弁ニ給油ス
一字削ル
三、車軸ハ極軟鋼ニシテ鑄鐵製車心ニ軸徑毎壹吋ニ拾噸ノ水壓力ヲ以テ推込ミ輪鐵ハ車心ニ燒嵌メスルモノトス
四、聯桿及側桿ハ極軟鋼ヨリ鍛エシ一切鍛接セズ全面仕上トス
五、搢動弁運動裝置ハ「ワルシャルト」氏式「ラヂアルヴァルヴギーア」ニシテ極軟鋼又ハ極上「ヨークシャー」鐵ヲ以テ作リ油口ハ掘出シトシ「ピン」孔ニ適宜「ブッシュ」ヲ具フルモノトス
六、臺框ハ極軟鋼ニシテ完全平面ニシテ前後ニ排障器ヲ置ク
六字削 一字加
七、牽鉤及聯結器ハ極軟鋼又ハ極上「ヨークシャー」鐵ヲ用ヒ緩衝器頭ハ鋼ニシテ「ケース」ハ鑄鐵トス
八、制動機ハ「ウエート」式ヲ裝置ス
九、撒砂管ハ前後進共ニ撒砂シ得ル裝置トス
十、機關車ニ備付ヲ要スル道具類ハ左ノ如シ
一、拾吋「モンキーレンチ」　壹個
一、「スクリユードライバー」　壹個

大日本軌道株式會社職工部

一、「レンチ」　七個
一、「チゼル」　弐個
一、「ロングショベル」　壹個
一、「コールショベル」　壹個
一、「レーキ」　壹個
一、「ダート」　壹個
一、「ブリッカー」　壹個
一、「ウォターゲージラムプ」　壹個
一、「ヘッドライト」　壹個
一、「プレッシャーゲージラムプ」　壹個

以上

添付圖面目錄

組立圖
臺框圖
汽鑵圖
摺動弁運動装置圖
車輪車軸及輪鐵断面圖
擔彈機及其装置圖
緩衝器及聯結器圖
制動機装置圖
救助網圖

大日本軌道株式會社鐵工部

車輛使用認可申請用

171

裏面白紙

国立公文書館
National Archives of Japan

5.7
10.6
8-3 5/8
7-11 3/8

橋梁暗渠明細表

自佐賀郡神野村大字神野字一本松 至仝郡春日村大字久池井字六本杉 間ニ架設ノ分（位置ハ順ヲ以テ記載ス）

位置	名称	有効径間	桁材質	桁寸法 長	桁寸法 巾	桁寸法 厚	桁寸法 高	摘要
佐賀郡神野村大字神野	新栄橋	17.5尺	構材	18.5尺	1.0尺	1.4尺		大正三年九月十六日附工事施行認可
仝上	草場橋	10.0	仝上	11.0	0.8	1.1		大正四年四月二十日附工事施行認可
仝上	三ッ木暗渠	3'-9 1/2"	工形鋼鉄	4'-6"	4 1/2"	1/4"	6"	仝上
仝上	堀江橋	13.0尺	構材	14.0尺	0.9尺	1.2尺		仝上
仝上	五本暗渠	5'-9 1/2"	工形鋼鉄	6'-5"	4 1/2"	1/4"	6"	大正三年九月十六日附工事施行認可
仝上	三ッ溝橋	8'-00"	仝上	8'-10"	5"	5/32"	8"	仝上
仝上	堤橋	10.5	構材	11.5尺	0.8尺	1.1尺		仝上
仝郡高木瀬村大字[illegible]	新村橋	19.0尺	仝上	20.0	1.1	1.45		仝上
仝上	[illegible]橋	13.0	仝上	14.0	0.9	1.2		仝上
仝上	[illegible]橋	8'-00"	工形鋼鉄	8'-10"	5"	9/32"	8"	仝上
仝郡仝村大字永明	坪上橋	11'-5"	仝上	12'-4"	4 1/2"	7/16"	9"	仝上
仝上	平尾橋	9'-3 5/8"	仝上	9'-11 3/8" 9'-7 3/8"	4 1/2"	7/16"	9"	仝上 ピーヤー一ヶ所アリ 有効径間ハ最長ヲ示ス
仝郡春日村大字尼寺	五本木暗渠	6'-5"	仝上	7'-4"	5"	5/32"	8"	大正三年九月十六日附工事施行認可
仝上	尼寺橋	9'-00"	仝上	9'-9 1/2" 8'-11 5/8"	4 1/2"	9/16"	9"	仝上 ピーヤー一ヶ所アリ 有効径間ハ最長ヲ示ス
仝郡仝村大字久池井	久池井橋	10'-11 1/8"	仝上	22'-11 1/2"	4"	29/64"	9"	大正三年九月十六日附工事施行認可 中央ニ橋柱一ヶ所アリ
仝上	境橋	7'-7 1/2"	花崗石	8'-1 5/8"	1'-3"	1'-0"		大正三年九月十六日附工事施行認可 仝一ヶ所石材ニ本[illegible]

自佐賀郡神野村大字神野字二本松 至佐賀市松原町字中ノ小路 間ニ架設ノ分（位置ハ順ヲ以テ記載ス）

位置	名称	有効径間	桁材質	桁寸法 長	桁寸法 巾	桁寸法 厚	桁寸法 高	摘要
佐賀郡神野村大字神野字二本松	手島橋	10.0尺	構材	11.0尺	0.9尺	1.2尺		大正五年十月十六日附工事施行認可
仝上	天神橋	10.0	仝上	11.0	0.9	1.2		仝上 ピーヤー三ヶ所
仝郡仝村大字多布施	西山寺院橋	11.0 9.0	仝上	12.0 10.0	0.9	1.2		仝上 ピーヤー二ヶ所
仝上	瓢橋	10.0	仝上	11.0	0.9	1.2		仝上 ピーヤー三ヶ所

国立公文書館 National Archives of Japan

仝　上	長堀橋	5'-10"	I形鋼鉄	6'-6"	4"	3/8"	8"	大正五年十月十六日附工事施行認可
仝　上	十間堀橋	11.50 9.0	欅材	12.0 10.0	05	.20		仝（但之中一ヲ二ヶ所）上
佐賀市中町	中多橋	5'-10"	I形鋼鉄	6'-6"	4"	3/8"	8"	大正五年十月十六日附工事施行認可
佐賀市松原町	神祭橋	5'-10"	仝上	6'-6"	4"	3/8"	8"	仝上

備考久池井橋鋼桁ハ大正五年十一月一日附 I 24"×$\frac{25"}{64}$×長9'モノニ工事方法変更ヲ出願ス

橋梁應力計算書

工形鋼桁ノ部

機関車ノ全重量＝50噸＝11,200封度

$W_1=\frac{11200}{4}=2800$封度（四輪車ニシテ各車輪ニ平等ニ荷重ヲ傳フルモノトス）一輪ニ傳フル荷重

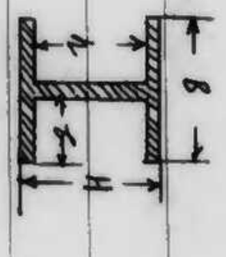
W＝靜荷重　桁上ニアル軌條枕木桁其他構造物一切ヲ包含ス

M_d＝靜荷重ヨリ起ル力率

M_l＝動荷重ヨリ起ル力率

I'＝震動荷重　ワデル氏ノ公式ニ依リ $M_l\left(\frac{400}{l+500}\right)$

I＝惰量力率 $\frac{1}{12}(BH^3-2bh^3)$



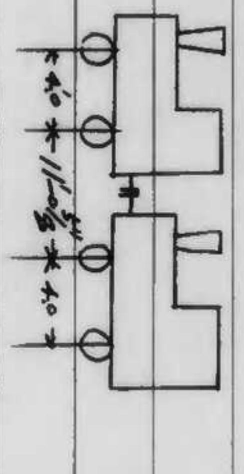
y＝中立軸ヨリ断面邊縁ノ距離＝$\frac{H}{2}$

F＝鋼鉄一平方吋ニ付實用破壊系數＝14,560封度

R＝抵抗力率

l＝徑間

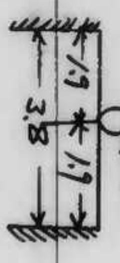
機関車貮臺ヲ連結シテ進行スルニ最大彎曲力率ノ生スベキ点ヲXトス前方支点ヨリXニ至ル距離ヲxトス



參呎暗渠

有効徑間＝3'-9 1/2"＝3.8

本桁上ヲ通過スル機関車ハ桁ノ中央ニアル時ニ最大彎曲力率ヲ生ス



W＝80#

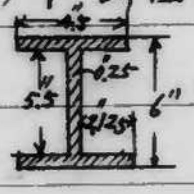
$M_d=\frac{Wl^2}{8}=\frac{80\times3.8^2}{8}=144.4$#

$M_l = \frac{W_1 l}{4} = \frac{2{,}800 \times 3.8}{4} = 2{,}660.^{\prime\#}$

$I' = M_l\left(\frac{400}{l+500}\right) = 2{,}660 \times \frac{400}{3.8+500} = 2{,}111.9^{\prime\#}$

$M = (144.4 + 2{,}660. + 2{,}111.9) \times 12 = 58{,}995.6^{\prime\prime\#}$

而シテ下ノ断面ヲ有スル工形鋼桁ノ抵抗力率ハ下ノ如シ



$I = \frac{1}{12}(BH^3 - 2bh^3) = \frac{4.5 \times \overline{6}^3 - 2 \times 2.125 \times \overline{5.5}^3}{12} = 22.08$

$y = \frac{H}{2} = \frac{6}{2} = 3. \quad f = 14{,}560.^{\#}$

$R = \frac{fI}{y} = \frac{14{,}560. \times 22.08}{3} = 107{,}161.6^{\prime\prime\#}$

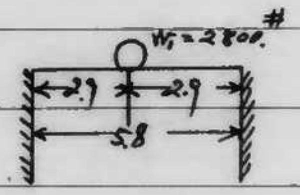
R ＞ M ∴ 安全ナリ

五呎暗渠

有効径間 $= 5'\text{-}9\frac{1}{2}'' = 5.8'$

本桁上ヲ通過スル機関車ハ桁ノ中央ニアル時ニ最大彎曲力率ヲ生ス

$W = 80.^{\#}$



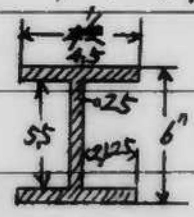
$M_d = \frac{W l^2}{8} = \frac{80 \times \overline{5.8}^2}{8} = 336.4^{\prime\#}$

$M_l = \frac{W_1 l}{4} = \frac{2{,}800 \times 5.8}{4} = 4{,}060.0^{\prime\#}$

$I' = M_l\left(\frac{400}{l+500}\right) = 4{,}060. \times \frac{400}{5.8+500} = 3{,}210.8^{\prime\#}$

$M = (336.4 + 4{,}060. + 3{,}210.8) \times 12 = 91{,}286.4^{\prime\prime\#}$

而シテ下ノ断面ヲ有スル工形鋼桁ノ抵抗力率ハ下ノ如シ



$I = \frac{1}{12}(BH^3 - 2bh^3) = \frac{4.5 \times \overline{6}^3 - 2 \times 2.125 \times \overline{5.5}^3}{12} = 22.08$

$y = \frac{H}{2} = \frac{6}{2} = 3 \quad f = 14{,}560^{\#}$

$R = \frac{fI}{y} = \frac{14{,}560 \times 22.08}{3} = 107{,}161.6^{\prime\prime\#}$

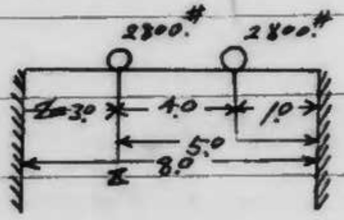
R ＞ M ∴ 安全ナリ

国立公文書館 National Archives of Japan

三ッ瀧橋、舘橋（有効径間及構造全一トス）

有効径間 ＝ 8.0

$W = 95.^{\#}$



$M_d = \frac{1}{2} w x (l - x) = \frac{1}{2} \times 95. \times 3.0 \times 5.0 = 712.5^{1\#}$

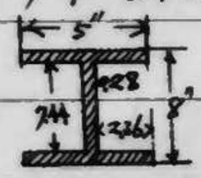
$M_l = \frac{1}{l} W_1 \{(l-x) + (l-x-d)\} x$

$= \frac{2'800 \times (5.0 + 1.0) \times 3.0}{8} = 6'300.^{\#}$

$I' = M_l \left(\frac{400}{l+500}\right) = 6'300. \times \frac{400}{8+500} = 4'960.6^{1\#}$

$M = (712.5 + 6'300. + 4'960.6) \times 12 = 143'677.2$

而シテ下ノ断面ヲ有スル工形鋼桁ノ抵抗力率ハ下ノ如シ



$I = \frac{1}{12}(BH^3 - 2bh^3) = \frac{1}{12} \times (5 \times 8^3 - 2 \times 2.36 \times 7.44^3) = 51.4$

$y = \frac{H}{2} = \frac{8}{2} = 4. \quad f = 14'560.^{\#}$

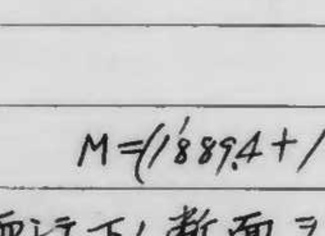
$R = \frac{fI}{y} = \frac{14'560 \times 51.4}{4} = 187'096''^{\#}$

$R > M$ ∴ 安全ナリ

坪ノ上橋

有効径間 ＝ $11'-5'' = 11.4$

$W = 120.^{\#}$



$M_d = \frac{1}{2} W x (l - x)$

$= \frac{1}{2} \times 120. \times 4.7 \times 6.7 = 1'889.4^{\#}$

$M_l = \frac{1}{l} W_1 \{(l-x) + (l-x-d)\} x$

$= \frac{2'800 \times (6.7 + 2.7) \times 4.7}{11.4} = 10'851.2^{1\#}$

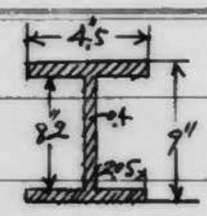
$I' = M_l \left(\frac{400}{l+500}\right) = 10'851.2 \times \frac{400}{11.4+500} = 8'487.4$

$M = (1'889.4 + 10'851.2 + 8'487.4) \times 12 = 254'736^{1\#}$

而シテ下ノ断面ヲ有スル工形鋼桁ノ抵抗力率ハ下ノ如シ

$I = \frac{1}{12}(BH^3 - 2bh^3)$

$\frac{1}{12} \times (4.5 \times 9^3 - 2 \times 2.06 \times 8.2^3) = ~~102.7~~ \; 85.6$



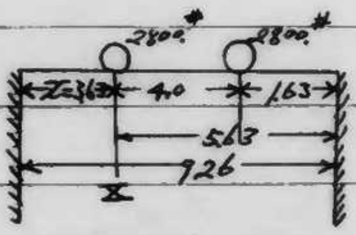
$y = \frac{H}{2} = \frac{9}{2} = 4.5$

$R = \frac{FI}{y} = \frac{14'560 \times 85.0}{4.5} = 275'022''^{\#}$

$R > M$ ∴ 安全ナリ

有効径間 $= 9'\text{-}3\frac{1}{8}'' = 7'.26$　平尾橋

$W = 110.^{\#}$



$M_d = \frac{1}{2} wx(l-x)$

$= \frac{1}{2} \times 110 \times 3.63 \times 5.63 = 1'124.0$

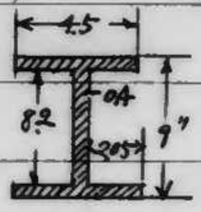
$M_e = \frac{1}{l} W_1 \{(l-x)+(l-x-d)\} x$

$M_e = \frac{2800 \times (5.63+1.63) \times 3.63}{7.26} = 7'968.8^{\#}$

$I' = M_e\left(\frac{400}{l+500}\right) = 7'968.8 \times \frac{400}{7.26+500} = 6'259.1^{\#}$

$M = (1'124. + 7'968.8 + 6'259.1) \times 12 = 184'222.8''^{\#}$

而シテ下ノ如キ断面ヲ有スルＩ形鋼桁ノ抵抗力率下ノ如シ



$I = \frac{1}{12}(BH^3 - 2bh^3)$

$= \frac{1}{12} \times 4.5 \times 9^3 - 2 \times 2.05 \times 8.2^3 = 85.0$

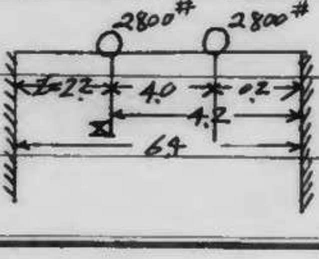
$y = \frac{H}{2} = \frac{9}{2} = 4.5$

$R = \frac{FI}{y} = \frac{14560 \times 85.0}{4.5} = 275'022.''^{\#}$

$R > M$ ∴ 安全ナリ

五呎六吋暗渠

有効径間 $= 6'\text{-}5'' = 6'.4$　$W = 85.^{\#}$



$M_d = \frac{1}{2} wx(l-x)$

$= \frac{1}{2} \times 85 \times 2.2 \times 4.2 = 392.7^{\#}$

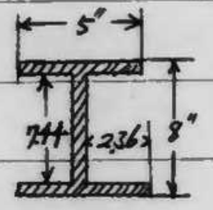
$M_e = \frac{1}{l} W_1 \{(l-x)+(l-x-d)\} x$

$$= \frac{2800 \times (4.2+0.2) \times 2.2}{6.4} = 4'235^{\#}$$

$$I' = M_\ell\left(\frac{400}{\ell+500}\right) = 4'235 \times \frac{400}{6.4+500} = 3'345.2^{\#}$$

$$M = (392.7 + 4'235. + 3'345.2) \times 12 = 95'674.8^{\#}$$

而シテ下ノ如キ断面ヲ有スル工形鋼鉄桁ノ抵抗力率ハ下ノ如シ



$$I = \frac{1}{12}(BH^3 - 2bh^3)$$

$$= \frac{1}{12} \times (5 \times 8^3 - 2 \times 2.36 \times 7.44^3) = 51.4$$

$$y = \frac{H}{2} = \frac{8}{2} = 4 \quad f =$$

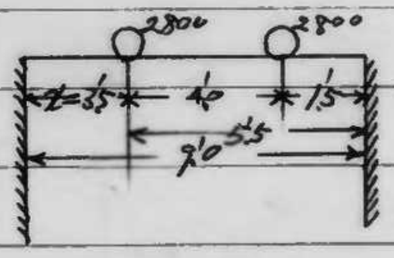
$$R = \frac{fI}{y} = \frac{14'560 \times 51.4}{4} = 187'096.^{\#}$$

$R > M$ ∴安全ナリ

尼寺橋

有効径間 = 9'-00"

$$w = 110.^{\#}$$



$$M_\ell = \frac{1}{2}wx(\ell - x)$$

$$= \frac{1}{2} \times 110 \times 3.5 \times 5.5 = 1'058.8^{\#}$$

$$M_\ell = \frac{1}{\ell}W_1\{(\ell-x)+(\ell-x-d)\}x$$

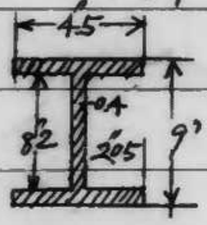
$$= \frac{2800 \times (5.5+1.5) \times 3.5}{9} = 7'622.2^{\#}$$

$$I' = M_\ell\left(\frac{400}{\ell+500}\right)$$

$$= 7'622.2 \times \frac{400}{9+500} = 5'989.9^{\#}$$

$$M = (1'058.8 + 7'622.2 + 5'989.9) \times 12 = ~~176'0..~~ \; 176'050.8^{\#}$$

而シテ下ノ如キ断面ヲ有スル工形鋼桁ノ抵抗力率下ノ如シ



$$I = \frac{1}{12}(BH^3 - 2bh^3)$$

$$= \frac{1}{12} \times (4.5 \times 9^3 - 2 \times 2.05 \times 8.2^3) = 85.0$$

$$y = \frac{H}{2} = \frac{9}{2} = 4.5$$

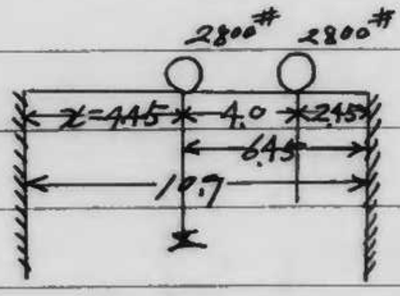
国立公文書館 National Archives of Japan

$$R = \frac{FI}{y} = \frac{14'560 \times 86.0}{4.5} = 275'022.''^{\#}$$

$R > M$ ∴ 安全ナリ

久地井橋

有効径間 $= 10'\text{-}11\frac{1}{8}'' = 10.'9$



$W = 110^{\#}$

$M_d = \frac{1}{2} W x (l - x)$

$= \frac{1}{2} \times 110 \times 4.45 \times 6.45 = 1'578.6^{\#}$

$M_l = \frac{1}{l} W_1 \{(l - x) + (l - x - d)\} x$

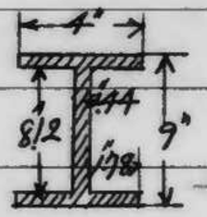
$= \frac{2800 \times (6.45 + 2.45) \times 4.45}{10.9} = 10'173.8^{\#}$

$I' = M_l \left(\frac{400}{l + 500}\right)$

$= 10'173.8 \times \left(\frac{400}{10.9 + 500}\right) = 7'965.4^{\#}$

$M = (1'578.6 + 10'173.8 + 7'965.4) \times 12 = 236'613.6''^{\#}$

而シテ下ノ如キ断面ヲ有スルI形鋼桁ノ抵抗力率ハ下ノ如シ



$I = \frac{1}{12}(BH^3 - 2bh^3)$

$= \frac{1}{12} \times (4.0 \times \overline{9}^3 - 2 \times 1.78 \times \overline{8.12}^3) = 84.2$

$y = \frac{H}{2} = \frac{9}{2} = 4.5$

$$R = \frac{FI}{y} = \frac{14'560 \times 84.2}{4.5} = 272'433.7''^{\#}$$

$R > M$ ∴ 安全ナリ

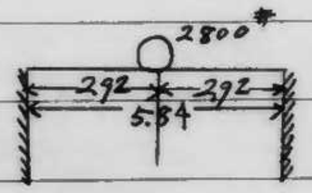
長堀橋、中多橋、神祭橋、

三橋共有効径間5'-10"ニシテＩ形鋼桁ヲ使用シ皆仝一トス

$l = 5'\text{-}10'' = 5.84$

本桁上ヲ通過スル機関車ハ桁ノ中央ニアル時ニ最大彎曲力率ヲ生ス

$W = 80.^{\#}$

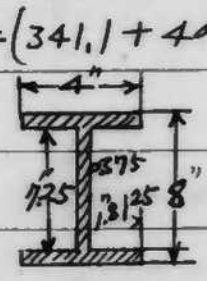


$M_d = \frac{Wl^2}{8} = \frac{80 \times 5.84^2}{8} = 341.1^{\#}$

$M_l = \frac{W_1 l}{4} = \frac{2800 \times 5.84}{4} = 4088^{\#}$

$I' = M_l\left(\frac{400}{l+500}\right) = 4088 \times \left(\frac{400}{5.84+500}\right) = 3232.6^{\#}$

$M = (341.1 + 4088 + 3232.6) \times 12 = 91940.4^{\#}$



$I = \frac{1}{12}(BH^3 - 2bh^3)$

$= \frac{4 \times 8^3 - 2 \times 1.8125 \times 7.25^3}{12} = 55.5$

$y = \frac{H}{2} = \frac{8}{2} = 4$

$R = \frac{FI}{y} = \frac{14560 \times 55.5}{4} = 202020.^{\#}$

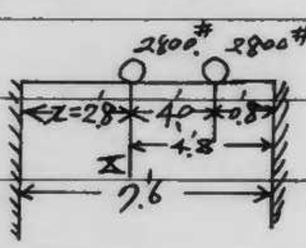
$R > M$ ∴ 安全ナリ

石桁ノ部

境橋

有効径間＝7'-7½"＝7.6

石桁巾15吋ノモノ五本ヲ密接シテ架ケ並ヘタル上枕木ヲ置キ軌條ヲ敷設シタルモノニ付此石桁上ヲ通過スル機関車ハ石桁五本ニ荷重ヲ傳ルヲシステ軌條ノ直下ニアル石桁ニ受クル荷重ハ全荷重ノ70%ヲ受クルモノトシテ計算ス



$W = 500.^{\#}$

$M_d = \frac{1}{2}Wx(l-x)$

$= \frac{1}{2} \times 500 \times 2.8 \times 4.8 = 3360.^{\#}$

$$M_l = \frac{1}{l} W_1 \{(l-x)+(l-x-d)\} x$$

$$= \frac{2800 \times (4.8+9.8) \times 2.8}{7.6} = 5'776.8^{\#}$$

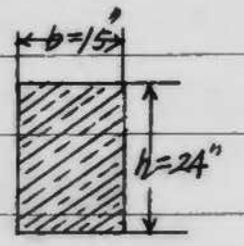
$$5'776.8 \times 70\% = 4'043.8^{\#}$$

$$I' = M_l\left(\frac{400}{l+500}\right)$$

$$= 4'043.8 \times \left(\frac{400}{7.6+500}\right) = 3'186.6^{\#}$$

$$M = (3'360. + 4'043.8 + 3'186.6) \times 12 = 127'084.8^{\#}$$

而シテ下ノ如キ断面ヲ有スル石桁ノ抵抗力率ハ下ノ如シ



$F = 180^{\#}$ 實用破壊系数

R = 抵抗力率

b = 巾 = 15"

h = 厚 = 24"

$$R = \frac{1}{6} F b h^2$$

$$\frac{180 \times 15 \times 24^2}{6} = 259'200''^{\#}$$

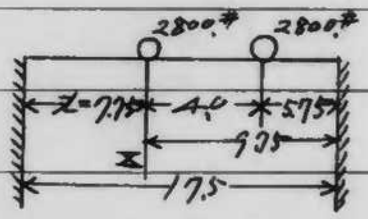
R ＞ M ∴ 安全ナリトス

木桁ノ部

新栄橋

有効径間 = 17.5 尺

$$W = 130.^{\#}$$



$$M_d = \frac{1}{2} W x (l-x)$$

$$= \frac{1}{2} \times 130 \times 7.75 \times 9.75 = 4'911.6^{尺\#}$$

$$M_l = \frac{1}{l} W_1 \{(l-x)+(l-x-d)\} x$$

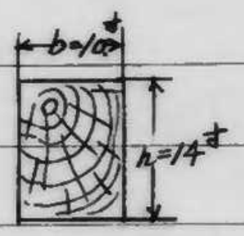
$$= \frac{2800 \times (9.75+5.75) \times 7.75}{17.5} = 19'220^{尺\#}$$

$$I' = M_l\left(\frac{400}{l+500}\right)$$

$$= 19'220 \times \left(\frac{400}{175+500}\right) = 14'856^{尺\#}$$

$$M = (4'911.6 + 19'220. + 14'856.) \times 10 = 389'876^{寸\#}$$

而シテ下ノ断面ヲ有スル檞材ノ桁ノ抵抗力率ハ下ノ如シ



Ft＝実用破壊系数＝1'200.#

b＝巾＝10.寸
h＝厚＝14寸

$$R = \frac{1}{6} F_t b h^2$$

$$= \frac{1200 \times 10 \times 14^2}{6} = 392'000.^{寸\#}$$

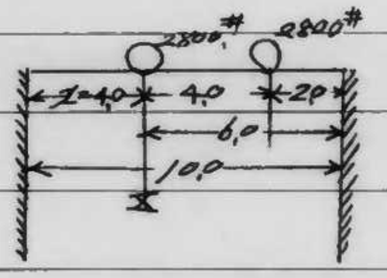
R＞M ∴安全ナリ

草　場　橋

$$W = 110^{\#}$$

$$M_d = \frac{1}{2} W x (l - x)$$

$$\frac{1}{2} \times 110 \times 4.0 \times 6.0 = 1'320^{尺\#}$$



$$M_l = \frac{1}{l} W_1 \{(l - x) + (l - x - d)\} x$$

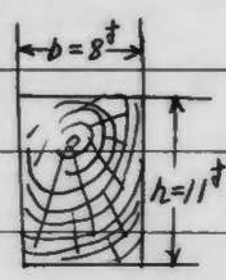
$$= \frac{2800 \times (6.0 + 2.0) \times 4.0}{10.0} = 8'960.^{尺\#}$$

$$I' = M_l \left(\frac{400}{l + 500}\right)$$

$$= 8'960 \times \left(\frac{400}{10 + 500}\right) = 7'027.5^{尺\#}$$

$$M = (1'320 + 8'960 + 7'027.5) \times 10. = 173'075.^{寸\#}$$

而シテ下ノ如キ断面ヲ有スル檞材ノ桁ノ抵抗力率ハ下ノ如シ



Ft＝実用破壊系数＝1'200.#

b＝巾＝8寸
h＝厚＝11寸

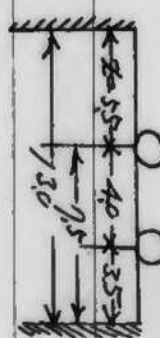
$$R = \frac{1}{6} F_t b h^2$$

$$= \frac{1200 \times 8 \times 11^2}{6} = 193'660.^{寸\#}$$

R＞M ∴安全ナリ

堀江橋、田翠橋、

二橋共有効径間＝13尺ニシテ桁ハ欅材ヲ使用シ構造全一トス



$W = 115.^{\#}$

$M\alpha = \frac{1}{2} W x (l-x)$

$= \frac{1}{2} \times 115 \times 5.5 \times 7.5 = 2{,}371.9^{尺\#}$

$M\ell = \frac{1}{\ell} W_1 \{(l-x)+(l+x+\alpha)\} x$

$= \frac{2800 \times (7.5+3.5) \times 5.5}{13.} = 13{,}030.8^{尺\#}$

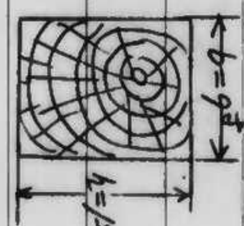
$I' = M\ell\left(\frac{400}{\ell+370}\right)$

$= 13{,}030.8 \times \left(\frac{400}{130+370}\right) = 10{,}160.5^{尺\#}$

$M = (2{,}371.9 + 13{,}030.8 + 10{,}160.5) \times 10. = 255{,}632^{寸\#}$

而シテ下ノ如キ断面ヲ有スル欅材ノ桁ノ抵抗力率ハ下ノ如シ

F = 実用破壊率数 ＝ $1{,}200.^{\#}$



b = 巾 ＝ 9寸
h = 厚 ＝ 12寸

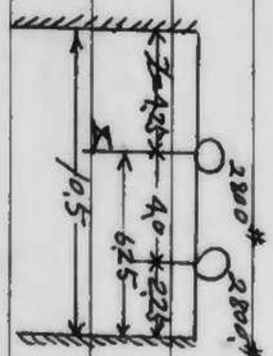
$R = \frac{1}{6} F b h^2$

$= \frac{1200 \times 9 \times 12^2}{6} = 259{,}200.^{寸\#}$

$R > M$ ニシテ安全ナリ

垻橋

有効径間＝10.5尺



$W = 110.^{\#}$

$M\alpha = \frac{1}{2} W x (l-x)$

$= \frac{1}{2} \times 110 \times 4.25 \times 6.25 = 1{,}460.9^{尺\#}$

$M\ell = \frac{1}{\ell} W_1 \{(l-x)+(l-x-\alpha)\} x$

$= \frac{2800 \times (6.25+2.25) \times 4.25}{10.5} = 9{,}633.3^{尺\#}$

$$I' = Ml\left(\frac{400}{l+500}\right)$$

$$= 9'633.3 \times \frac{400}{10.5+500.} = 7'548.1^{尺\#}$$

$$M = (1'460.9 + 9'633.3 + 7'548.1) \times 10. = 186'423.^{寸\#}$$

而シテ下ノ如キ断面ヲ有スル欅材ノ桁ノ抵抗力率ハ下ノ如シ

F＝実用破壊系数＝1'200.#

b＝巾＝8寸

h＝厚＝11寸

$$R = \frac{1}{6} F b h^2$$

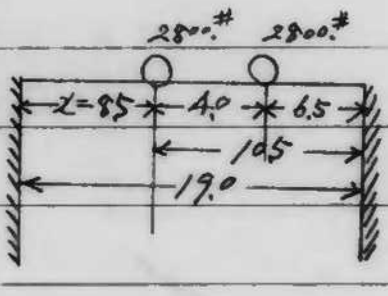
$$= \frac{1200 \times 8 \times 11.^2}{6} = 193'660.^{寸\#}$$

$R > M$ ∴ 安全ナリ

新村橋

有効径間＝19.尺

$$W = 140.^{\#}$$



$$Md = \frac{1}{2} Wx(l-x)$$

$$= \frac{1}{2} \times 140 \times 8.5 \times 10.5 = 6'247.5^{尺\#}$$

$$Ml = \frac{1}{l} W_1 \{(l-x) + (l-x-d)\} x$$

$$= \frac{2800 \times (10.5+6.5) \times 8.5}{19.0} = 21'294.7^{尺\#}$$

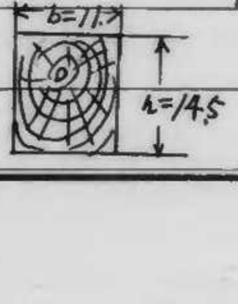
~~M=(6'247.5+21'294.7~~

$$I' = Ml\left(\frac{400}{l+500}\right)$$

$$= 21'294.7 \times \left(\frac{400.}{19+500.}\right) = 16'412.1^{尺\#}$$

$$M = (6'247.5 + 21'294.7 + 16'412.1) \times 10. = 439'543.^{寸\#}$$

而シテ下ノ如キ断面ヲ有スル欅材ノ桁ノ抵抗力率ハ下ノ如シ



F＝実用破壊系数＝1'200.#

b＝巾＝11寸

h＝厚＝14.5寸

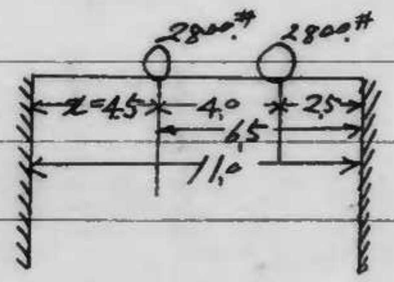
国立公文書館
National Archives of Japan

$$R=\frac{1}{6}Fbh^2$$

$$=\frac{1200\times 11.\times 14.5^2}{6}=462'550.^{寸\#}$$

R＞M ハ安全ナリ

平島橋、天神橋、西峰院橋、瓢橋、十間堀橋、五橋ハ欅材ノ桁ヲ使用シ其桁ノ大サハ巾九寸厚一尺二寸ノモノトス而シテ各橋中最長有効径間ハ拾壱尺ナリ依テ有効径間十一尺ニ就テ桁ノ応力計スルコ下ノ如シ



$l=11.^{尺}$

$W=110.^{\#}$

$M_{d}=\frac{1}{2}Wx(l-x)$

$=\frac{1}{2}\times 110\times 4.5\times 6.5=1'608.8^{尺\#}$

$M_{l}=\frac{1}{l}W\{(l-x)+(l-x-d)\}x$

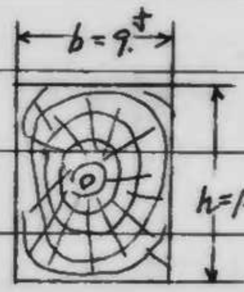
$=\frac{2800\times(6.5+2.5)\times 4.5}{11.0}=10'309.1^{尺\#}$

$I'=M_{l}\left(\frac{400}{l+500}\right)$

$=10'309.1\times\left(\frac{400}{110+500}\right)=8'069.7^{尺\#}$

$M=(1'608.8+10'309.1+8'069.7)\times 10=199'876^{寸\#}$

而シテ下ノ如キ断面ヲ有スル欅材ノ桁ノ抵抗力率ハ下ノ如シ



F＝実用破壊系数＝$1'200.^{\#}$

b＝巾＝9寸

h＝厚＝12寸

$$R=\frac{1}{6}Fbh^2$$

$$=\frac{1200\times 9.\times 12^2}{6}=259'200.^{寸\#}$$

R＞M ハ安全ナリ

以上ノ計算ニ依リ拾壱尺以下ノ径間ニ於テモ安全ナルコ勿論ナリトス

保第七四三五號

大正六年三月八日

佐賀縣知事岡田宇之助

鐵道院監督局長大園榮三郎殿

内務省土木局長小橋一太殿

本年一月三十日附監軌第七號ヲ以テ川上軌道機関車構造ノ件ニ付御照会ノ趣了承右ハ別紙訂正追申書ノ通ニ有之候條可然御取計ヒ相成度此段及御回報候也

(了)

佐賀縣

機関車構造認可願訂正追申書

佐賀縣佐賀郡神野村
川上軌道株式會社
電話六〇三番

187

国立公文書館
National Archives of Japan

發第五九號

機關車構造認可願訂正追申書

大正五年十二月十三日付發第三九七號ヲ以テ申請仕候五噸四輪聯働「ボットムタンク」機關車構造認可願ニ添付ノ機關車工事方法書中左記事項訂正致度候間此段追申仕候也

大正六年三月五日

佐賀縣佐賀郡神野村大字神野千百廿拾八番地ノ六
川上軌道株式會社
取締役社長　真崎辰五郎

佐賀縣知事岡田宇之助殿

記

一火室及烟室板ハ厚二分ノ一吋ノ軟鋼板ヲ以テ製作スル設計ニ御座候處時局ノ爲メ鉄類ノ欠乏ヲ来シ該寸法ノ軟鋼板無之已ヲ得ス厚八分ノ三吋ノモノヲ使用スルコトニ御認可ヲ得度既ニ現品モ製作相濟シ居候次第ニ付今後修繕ノ際ニ厚二分ノ一吋ノモノニ取換ユル樣特別ノ御詮議ヲ以テ御認可被成下度候

二工事方法書主要事項中第十七項火室傳熱面積ノ下ニ「六十七平方呎」トアルヲ「十三平方呎」ト訂正シ第十八項火管傳熱面積ノ下ニ「十三平方呎」トアルヲ「六十七平方呎」ト訂正ス

三工事方法書機械其他中第三項ノ末尾ニ「輪鉄ハ車心ニ焼嵌メスルモノトス」トアルヲ「輪鉄ハ輪心ニ焼嵌メヲ爲シ尚二個ノ「キー」ヲ以テ緊締スルモノトス」ト改ム

四工事方法書機械其他中第十項ニ「移動式扛重機壱個」ト追加ス

以上

[illegible]

第七號　大正六年一月三十日受領　月　日達濟　淨書　校合

第　號　大正六年一月廿七日受領　月　日立案

庶務課長

監督局長

案

番號

年　月　日

局長

佐賀縣知事　宛

伺議用紙

…藏省

主任

受領大正　六年一月十二日
調了大正　年　月　日
日数　六日

鐵道名　川上軌道

件名　機関車構造認可申請ノ件

廻附先　課長

擔任

取扱

本件土木ニ関シ支障ナキモノト認ム

191

回議用紙　鐵道院

照会

客年十二月二十八日附係第七四二五號稟伺川上軌道機関車構造ノ件左記事項再調有之度

參考

照會事項四

主任

受附 大正六年一月九日
調了 大正六年一月十一日
日数 三日

廻附先 土木

擔任

取扱

鉄道 軌道 名 川上軌道

件名 機関車構造認可申請ノ件

一、火室数 烟室管板ノ厚サハ八分ノ三吋トアルヲ之ヲ二分ノ一吋ニ改ムルヲ可トス

二、工事方法書主要事項中第十七項ノ下ニ「第十七平方呎トアル」ヲ第十八項ノ下ニ又第十八項ノ下ニ「十三平方呎トアル」ヲ第十七項ノ下ニ記載スルコト

三、工事方法書機械其他中第三項ノ末尾ヲ輪鉄ハ輪心ニ焼嵌ヲ加ヘ尚二個ノ「鋲止」ヲ以テ之ヲ緊締スヘシトスト改ムルコト

四、仝上第十項ニ移動式杠重機壱個ヲ追加スルコト

保第二四〇六號

大正六年四月二十五日

佐賀縣知事岡田宇之助

庶務課長

内閣總理大臣伯爵寺内正毅殿

内務大臣男爵後藤新平殿

佐賀縣佐賀郡神野村

川上軌道株式會社

右車輛検査願別紙ノ通申請ニ付検査候処各車輛共構造設備書ノ通完成シ附属品ニ至ル迄不都合ノ廉無之様被認候ニ付本日使用認可候條此段及報告候也

佐賀縣

6. 4. 28 第1507號 鐵道院

大正六年四月 … 支障ナシ

155

発第七八號

機関車御検査願

一、四輪連結ボットムタンク五噸機関車貳輛自第六號至第七號

右ハ大正六年四月十一日付佐賀縣指令保第七四三五號ヲ以テ工事施行御認可ヲ得候機関車今般工事竣功仕候間御検査ノ上御認可被成下度此段奉願候也

大正六年四月十六日

佐賀縣佐賀郡神野村大字神野千百貳拾八番地ノ六

川上軌道株式會社

取締役社長　真崎辰五郎

佐賀縣知事岡田宇之助殿

大正六年四月廿一日 第二四〇六號

国立公文書館 National Archives of Japan

主務廻

一七

佐之20號 6.5.3.

五十
四月廿五日来局照会済

監 第七五二號 大正六年 四月廿三日受領 五月八日達済
第三六三號 大正六年 五月 日受領 四月三十日立案

淨書 校合

副總裁

庶務課長

監督局長

監理課長

總裁

内閣總理大臣

内閣書記官長

内務大臣

次官

技術課長

土木局長

道路課長

川上軌道貨車引込線敷設ノ件

回議用紙 鐵道院

案ノ二

番號

大正六年四月七日附土第八二六號佐賀縣知事

川上軌道株式會社貨車引込線敷設ノ件稟伺ノ通

年 月 日

内閣總理大臣

内務大臣

番號

案ノ二

年 五月八日

137

195

監督局長
土木局長

佐賀縣知事宛

通牒

本年四月七日附土第八二六號稟伺川上軌道貨車引込線敷設ノ件別紙ノ通指令相成候處佐賀驛構内引込線敷設ニ關スル九州鐵道管理局長ノ承認書謄本ヲ徴シ回付有之度

鐵道院

裏面白紙

国立公文書館 National Archives of Japan

主任

受付大正6年4月14日　調査ヲ要シタル日数2日

調了大正　年4月16日

回附先　鉄道院　担任

取扱 [illegible]

軌道名　川上軌道

件名　調第一次　貨車川上線工事施行

本件大体支障ナキモ但シ左記通牒ヲ発スルコト

一、佐賀線引込線敷設ニ関シ九州鉄道管理局長ノ承諾書写ヲ提出スヘシ

右ハ協定済ナル趣同局長ヨリ副申アリタルモ尚ホ以テ通牒ニ添ヘ整理シ置キ度候也

裏面白紙

国立公文書館 National Archives of Japan

土第八二六號

大正六年四月七日

佐賀縣知事 岡田宇之助

内閣總理大臣 伯爵寺内正毅殿
内務大臣 男爵後藤新平殿

貨車引込線敷設工事施行ノ件

標記ノ件別紙ノ通川上軌道株式會社ヨリ認可申請ニ付調査候處右ハ明治四十五年七月二十五日監第一〇七二號ヲ以テ特許ヲ受ケ客年十月七日監第一八一五號ヲ以テ右線路一部變更許可相成タルモノニ該當スル線路ト國有鐵道トノ貨物ノ連絡輸送ヲ圖ラムカ爲メ佐賀停車場構内ニ貨車引込線ヲ敷設セムトスルモノニ有之所轄鐵道管理局長トモ協定済ニ有之他ニ支障無之樣被認候條認可致度此段及稟伺候也

1318
6. 4. 13
363

国立公文書館 National Archives of Japan

貨車引込線敷設許可願
工事施行認

佐賀縣佐賀郡神野村
川上軌道株式會社

佐賀縣 6.2.26
佐賀縣 26 3.13

(甲)第之四一大號

貨車引込線敷設（工事施行）御許（認）可願

當會社軌道ハ官線九州鉄道以北ノ線路ト連絡セサル為メ貨物運送ニ不便ヲ感シ居候處九州鉄道管理局ヨリ貨物連絡輸送設備ノ御認諾ヲ得候ニ付佐賀縣佐賀郡神野村大字神野字二本松八百参拾六ノ六番地先（仝縣仝郡仝村大字仝字仝八百二十二ノ四番地先九州鉄道踏切北側軌道起點ヨリ参鎖八拾参節ノ個所）ヨリ分岐シ仝縣仝郡仝村大字仝字仝佐賀驛構内ヘ貨車引込線哩程拾九鎖拾節ヲ敷設（工事施行）致度候間御許（認）可被成下度此段奉願候也

大正六年二月二十日

佐賀縣佐賀郡神野村大字神野
千百貳拾八番地ノ六
川上軌道株式會社
取締役社長 真崎辰五郎

佐賀縣知事岡田宇之助殿

圖面目録

第壹號　貨車引込線實測平面圖
第貳號　仝縱斷面圖
第參號　仝橫斷面圖
第四號　土工定規及作工圖
第五號　側線配置圖
第六號　分岐點附近平面圖
第七號　函渠継足設計圖
第八號　貨物積卸場設計圖
第九號　バフワーストップ設計圖

工費豫算書

一金五千貳百四拾圓拾錢参厘

内

金九拾圓　測量及工事監督費

金六百圓拾六錢　用地費

金九百五拾九圓六拾八錢七厘　土工費

金参百貳拾貳圓四拾七錢貳厘　開渠及函渠費

金参拾圓　電話柱移轉費

金貳千九百五拾貳圓八拾六錢六厘　軌道費

金貳百八拾四圓九拾壱錢八厘　貨物積卸場設備費

工事方法書

一、貨車引込線ノ起終點地名及哩程左ノ如シ

起點	終點	哩程
佐賀縣佐賀郡神野村大字神野字二本松八百二十六番地先	仝縣仝郡仝村大字仝字仝 佐賀驛構内北側	拾九鎖、拾節
側線		貳鎖四拾節
計		貳拾壱鎖五拾節

佐賀縣佐賀郡神野村大字神野字二本松八百二十二ノ四番地先（九州鉄道踏切北側）特許線路ノ起點ヨリ参鎖八拾参節ノ個所ヨリ分岐ス

二、本引込線ハ貨車専用線ニシテ單線トシ軌間参呎トス

三、曲線ノ最小半径ハ二鎖二十五節トス

四、勾配ハ百拾分ノ一ヲ最急トス

五、線路ハ路面巾十二呎トシ築堤ノ両法ハ土羽打又ハ石垣ヲ築造シ土羽勾配ハ一割五分石垣法勾配ハ二分五厘トス而シテ其施工基面上ニ砂利ヲ敷込ミ枕木ヲ配置シ軌條ヲ敷設シ路面トノ高サハ〇呎八トス

六、右ノ外軌條枕木敷設方法踏切張板工等総テ大正二年九月十六日附佐賀縣指令收佐土第二二三號及大正五年十月十六日附佐賀縣指令土第四三九九號ヲ以テ御認可セラレタル工事方法書ニ據ルモノトス

側線位置及線路長表

位置	線路長	
五鎖五拾五節	貳鎖四拾節	一ヶ所

函渠位置及長サ表

位置	径間	長	摘要
終點	三.〇尺	一〇.〇尺	一ヶ所別紙設計ノ通リ

閘渠位置及長サ表

位置	径間	高サ	長サ	摘要
貳鎖六拾貳節	一.〇尺	〇.二五	二.五五	甲号单價表ノ分
四鎖参拾節	一.〇	〇.二五	二.五五	仝
六鎖〇五節	一.〇尺	〇.二五尺	三.五間	甲号单價表ノ分
八鎖参拾節	一.二	〇.二五	四.〇	乙号单價表ノ分
九鎖	一.二	〇.二五	四.二	仝
計	一.〇	〇.二五	八間六分	甲号单價表ノ分
計	一.二	〇.二五	八間二分	乙号单價表ノ分

土管埋設個所及長サ表

位置	口径	長サ	摘要
七鎖拾節	八寸	二間六	
七鎖参拾節	一尺五寸	五.〇	二間五分ツヽ二列並土台枠入
七鎖参拾壱節	八寸	一.八	道路ニ埋込ノ分
拾壱鎖貳拾九節	八寸	二.〇	

拾参鎮	三寸	二、〇
拾五鎮参拾節	三寸	二、〇
拾七鎮五拾節	八寸	二、〇
	内訳	
	三寸	四間
	八寸	八間四分
	一尺五寸	五間

石垣築造個所及坪数表

位置	線路ノ左右区別	坪数	摘要
自六鎮九拾四節至七鎮二拾参節	右側	一四〇八	土台枠長二間入
自七鎮二拾参節至八鎮五節	左側	六六七七	土台枠長九間二分入
自拾壱鎮二十九節至拾七鎮六十一節四	右側	一六、一九二	
自拾壱鎮二十九節至拾九鎮二十節	左側	四三、八四九	
終点満西側		二、五	土台枠長二間六分入
終点満東側		一、七五	土台枠長二間六分入
計		七二、三八	土台枠長十六間四分

杭棡位置及長サ表

位置	長サ
線路左側自八鎮〇五節	一間〇

道路付換位置及長サ表

位置	長サ	巾

自七鎖五拾節線路右側	二八、間六	七尺

溝立替位置及長サ表

位置	長サ	巾
向七鎖二十三節線路左側	九、間二	六尺

踏切張抜位置及長サ表

位置	長
起點	一四、間〇
七鎖十節	二、〇
十鎖〇五節	二、五
計	一八、五

貨車引込線工事費豫算仕訳書

一金九拾圓　測量及工事監督費

一金六百圓拾六銭　用地費

種別	地目	坪数	單價	代價	摘要
線路用地		五四六坪五五			
		内			
	官有地	一二五坪九五	借地		
	九州鉄道用地	一七四・二八	借地		
	田	二四六・三二	二・二〇〇	五四一・九〇四	
側線用地	田	二六・四八	二・二〇〇	五八・二五六	
貨物積卸場用地	九州鉄道用地	四四・〇	借地		
計				六〇〇・一六〇	

一金九百五拾九圓六拾八銭七厘　土工費

種目	材料	長	巾・径	員数	單價	代價	摘要
築堤	盛土			八一・〇三立坪	二・五〇〇	二〇二・五七五	線路及道路付替盛土共 計算表及單價表ノ通リ
切取	堅土			一・三三			盛土ニ使用ニ付無代
土羽				六三・二九面坪	・二七〇	一七・〇八八	線路土羽道路付替用共 計算表及單價表ノ通リ
石垣				七二・三八	八・三〇〇	六〇〇・七五四	線路土留石垣及溝岸石垣 共計算表及單價表ノ通リ
石垣基礎	杏拵			一六間四	一・一七〇	一九・一八八	石垣築造個所及坪数表摘要欄ノ通リ 單價表ノ通リ
排水手間	人夫			五人	・五〇〇	二・五〇〇	自七鎖三十五節至八鎖五節線路左側石垣工事ニ使役ス
杭柵				一一間	二・八四〇	三一・二四〇	線路左側八鎖五節ヨリ施工ス
土管		口径三寸		四・	・八七〇	三・四八〇	土管位置及長表及單價表ノ通リ
仝		八寸		八・四	二・九三〇	二四・六一二	仝
仝		一尺五寸		五・〇	一一・一五〇	五五・七五〇	仝

（乙）

種目	材料	長	巾 厚	徑	員数	單價	代價	摘要
道路付換								築堤盛土及土羽ノ部ニ計上ス 七鎖五十節ヨリ長二十八間六分付換ノ
満 土留人夫					五八	五〇	二五〇〇	七鎖二十三節ヨリ長九間〇二厘土留ノ
計							九五九六七	
一金参百貳拾貳圓四拾七銭貳厘 閘渠及函渠費								
閘渠		壱間一尺	高間二五		八間六	二九五〇	三三九七〇	甲号單價表ノ
仝		〃一尺寸	〃二五		八〃二	五一七〇	四二三九四	乙号單價表
函渠					一ヶ所	二四六〇八	二四六〇八	終點ノ所別紙設計書ノ通リ
計							三二二四七二	
一金参拾圓 電話柱移轉費								
電柱					一本	三〇〇〇〇	三〇〇〇〇	電話柱移轉ニ要スル費用一切一鎖二十節ノケ所
計							三〇〇〇〇	
一金貳千九百五十二圓八拾六銭六厘 軌道費								
軌條	三十封度工字形鋼鉄				二一鎖五〇	七二二四〇〇	一八八七二七〇	單價表ノ通リ
枕木	栗材	五尺〇	六寸 四寸四分ノ一		六七二挺	三四〇	二二八四八〇	二十一鎖五十節ノ内轉轍器ノ分長七十五尺三九ノ分ヲ控除ス
轉轍器用枕木	栗材	自五尺五 至九〇	尺五 二五		三組分	一五〇〇〇	四五〇〇〇	
轉轍器					三組	三五〇〇〇	一〇五〇〇〇	
道床	砂利	至二寸五分下			三〇一立坪	一〇〇〇	三〇一〇〇〇	二十一鎖五十節分一鎖二十坪四合撒布ノ
敷設					二一鎖五〇	五〇〇	一〇七五〇〇	單價表ノ通リ
踏切張板					一八間五	一三五四〇	二五〇四九〇	單價表ノ通リ
バッファーストップ					一ヶ所	二八一二六	二八一二六	終點ニ設置ス別紙設計書ノ通リ
計							二九五二八六六	
一金貳百八拾四圓九拾壱銭八厘 貨物積卸場設備費								
貨物積卸場					一ヶ所	二八四九一八	二八四九一八	中央位置十八鎖二十節五 別紙設計書ノ通リ

川上軌道株式會社

（乙）

種目	材料	長	巾厚	徑	員數	單價	代價	摘要
計							二八四九八	
合計							五三四〇一〇三	

川上軌道株式會社

国立公文書館 National Archives of Japan

（乙）

函渠設計書　位置終點

金貳百四拾六圓拾錢八厘

但函渠継足長拾尺巾間三尺一ヶ所工事費

内訳

種目	材料	長	巾・厚	径	員數	單價	代價	摘要
締切					一式	三.〇〇	三.〇〇〇	締切材料及排水手間共
床堀	人夫				四人	.五〇〇	二.〇〇〇	長前巾前凡均深五分此土坪二五坪堀揚ヶ跡埋戻共
杭木	松丸太	一三.〇尺		末口五	三〇本	一.〇六〇	三一.八〇〇	片側十五本打両側ニ
梁木	仝	四.〇	六 六		一〇〃	.五〇〇	五.〇〇〇	
土台板	松材	一〇.五〃	一〇 二.五		八枚	一.三〇〇	一〇.四〇〇	
鎹釘	鉄材	一.五〃	五	〇六	三〇本	.三〇〇	九.〇〇〇	梁木打付用
洋釘		六寸			一四四本	.〇〇七	一.〇〇八	土台板打付用板一枚ニ付十八本打
捨石	栗石				二.弌立坪	八.〇〇〇	一六.八〇〇	枕木間障充填用
大工					五人	.八〇〇	四.〇〇〇	杭削リ板進リ梁木取付板張手間其他一式
人夫					四〇人	.五〇〇	二〇.〇〇〇	杭打手間大工手傳捨石手間其他
擁壁	煉瓦	立積一坪四合			五〇四〇枚	.〇一六	八〇.六四〇	立一坪ニ三千六百個使用ノ見込ニ
煉瓦積用モルタル	セメント砂				六〇切	.三八三	二二.九八〇	
煉瓦職					六人	一.二〇〇	七.二〇〇	
手傳	人夫				九人	.五〇〇	四.五〇〇	
渡石		五.〇	一.〇 九五		一〇本	三.三〇〇	三三.〇〇〇	
石工					五人	一.〇〇〇	五.〇〇〇	枕當リ及合端鑿切密着セシメ見掛リ小叩ノ了
手傳					五人	.五〇〇	二.五〇〇	渡石架渡及石工手傳一切
置土		一四.二間	一.五間 二		四二.六立坪	堀上土使用無代		

川上軌道株式會社

種目	材料	長	巾厚	徑	員數	單價	代價	摘要
(乙) 損料					一式	二〇〇〇	二.〇〇〇	杭打器械及足場其他損料
計							二四六一〇八	

川上軌道株式會社

四字挿入
五字削除
参字訂正

(乙)

貨物積卸場設計書

中央位置十八鎖三十節五

金貳百八拾四圓九拾壹錢八厘

但長百五尺六寸巾十五尺此平積四拾四坪

高サ九州鉄道側軌條面上二尺五寸
川上軌道側仝一尺五寸一ヶ所設置工費

内訳

種目	材料	長	巾厚径	員数	単価	代価	摘要
杭木	松丸太	一〇尺	末口五	三七本	八二〇	三〇三四〇	九鉄側及東側ノ分
仝	仝	六〇	〃	三〇〃	四九〇	一四七〇〇	川上軌道側ノ分
仝	仝	八〇	〃	二〇〃	六五〇	一三〇〇〇	昇降口斜面両側分
仝	仝	五〇	〃	四〇〃	四〇〇	一六〇〇〇	仝
仝	仝	三〇	〃	四〇〃	二四〇	九六〇〇	仝
権壁	松板	六〇尺	一尺五	一六〇面坪	二七〇	四三二〇〇	九鉄側十坪ニ合川上軌道側五坪八合トス

川上軌道株式會社

種目	材料	長	巾厚径	員数	単価	代価	摘要
洋釘		五吋		六四〇本	〇〇五	三二〇〇	壁板打付用壁板一坪ニ四十本打
笠木	松材	六尺五	六寸 四五	三七五〃	八八〇	三三〇〇〇	
鉄釘	鉄材	一二	五分	七七〃	一六〇	一二三二〇	笠木一本ニ二本宛打付ノ了
柏木	松材	六五	末口三五	一六〃	二〇〇	三二〇〇〇	九鉄側ニ取付ノ了
仝	仝	三五	〃	一六〃	一〇〇	一六〇〇	仝
洋釘		六吋		六四〃	〇〇七	四四八	柏木一ヶ所ニ四本打ノ了
盛土	上砂			三四一坪	二五〇	八五二五〇	別紙計算書ノ通リ
上数	砂利	四〇面積坪	三寸	二二〃	一〇〇〇	二二〇〇〇	厚五分以上一寸五分以下ノモノ
大工				一六人	八〇〇	一二八〇〇	権壁仕拵ヘ仕上ニ弐
人夫				三八人	五〇	一九〇〇	杭打手間及大工手傳仕上迄ノ分
計						二八四九一八	

国立公文書館
National Archives of Japan

(乙)

バフワーストップ設計書

金貳拾八圓拾貳錢六厘

但バフワーストップ壱ヶ所設置工費

内訳

種目	材料	長	巾	厚・径	員数	單價	代價	摘要
縦土台木	栗材	六、〇尺	六	四	二本	四〇〇	八〇〇	
横土台木	仝	二、八五	五	四	二〃	二〇〇	四〇〇	
柱木	松材	四、〇	六	六	二〃	五〇〇	一〇〇〇	
バフワー受木	仝	三、八五	九	七	一〃	八五〇	八五〇	
ボールト	鉄材	二、〇尺		仝〇六	二〃	五五〇	一一〇〇	土台木ト柱木締付用
仝	仝	八寸		仝〇四	六〃	一五〇	九〇〇	土台木ト枕木締付用
仝	仝	一、四寸		〃〇六	四〃	四三〇	一七二〇	バフワー受木締付用
石垣	割石	六、〇尺	下巾四五 上巾二〇	高三六	二、〇坪	四八〇〇	九六〇〇	扣壱尺五寸三寸石以内使用
内部コンクリート		六、〇	平均巾二〇	高三六	二、一六	二三五	五〇七六	
基礎工	栗石	六、〇	五一	六一	立坪〇八五	八〇〇	六八〇	
石工					四人	一〇〇〇	四〇〇〇	積手間一切
人夫					四人	五〇〇	二〇〇〇	基礎栗石打石工手傳其他一切
計							二八一二六	

川上軌道株式會社

潰地坪数調書　線路用地ノ分

距離 自	距離 至	短距離	數幅	平均數幅	坪數	摘要
	一、〇〇鎖	一、〇〇	二、〇間 二、〇	二、〇間	二二、〇	
一、〇〇	一、三〇	、三〇	二、〇 二、〇	二、〇	六、六	
一、三〇	一、四五	、一五	二、〇 二、四	二、二	三、六三	
一、四五	二、四五五	一、〇〇五	二、四 二、五五	二、四七五	二七、三六	
二、四五五	四、二六三	一、八〇八	二、五五 二、五五	二、五五	五〇、七一	
四、二六三	六、九四	二、六七七	二、五五 二、五	二、五二五	七四、三五	
六、九四	七、一〇	、一六	二、五 二、六	二、五五	四、八九	
七、一〇	七、二三	、一三	二、〇 二、〇	二、〇	二、八六	
七、二三	七、五〇	、二七	三、七 三、七	三、七	一〇、九九	溝並橋用地共
七、五〇	七、九四	、四四	五、一 五、一	五、一	二四、六八	道路及溝付換用地共
七、九四	八、〇五	、一一	五、一 五、一	五、一	六、一七	道路及橋付換用地共
八、〇五	九、〇〇	、九五	四、一 四、二	四、一五	四三、三七	道路付換用地共
九、〇〇	一〇、〇〇	一、〇〇	四、二 四、五	四、三五	四七、八三	仝
一〇、〇〇	一一、二九	一、二九	四、五 二、一	三、三	四六、八三	仝
一一、二九	一二、〇四五	、七五五	二、一 二、一五	二、一二五	一七、六五	十二鎖弐拾九節より終点迄鉄道院用地
一二、〇四五	一二、三五	、三〇五	二、一五 二、一	二、一二五	七、一三	
一二、三五	一三、〇一五	、六六五	二、一 二、一	二、一	一五、三六	
一三、〇一五	一四、〇一五	一、〇〇	二、一 二、一	二、一	二三、一	
一四、〇一五	一四、六〇	、五八五	二、一 二、一五	二、一二五	一三、六七	
一四、六〇	一五、五一	、九一	二、一五 二、一五	二、一五	二一、五二	
一五、五一	一六、〇〇	、四九	二、一五 二、一	二、一二五	一一、四五	
一六、〇〇	一六、四五九	、四五九	二、一 二、一	二、一	一〇、六	

一六、四五九 一七、六一四	一、一五、五	二、一 一、七	一、九	二四、一四
一七、六一四 一八、〇〇〇	三八、六	一、七 一、七	一、七	七、二二
一八、〇〇〇 一九、〇〇〇	一、〇〇	一、七 一、七	一、七	一八、七
一九、〇〇〇 一九、二〇〇	、二〇	一、七 一、七	一、七	三、七四
計				五四六、五五

側線用地ノ分

四、三五 四、八〇	四、五	〇 〇、七	〇、三五	一、七三
四、八〇 五、三三	五、三	〇、七 二、一	一、四	八、一六
五、三三 五、九二	五、九	一、五 一、五	一、五	九、七四
五、九二 六、七五	八三	一、五 〇	〇、七五	六、八五
計				二六、四八

荷積卸場用地ノ分

一七、五〇 一七、七四	、二四	二、五 二、五	二、五	六、六
一七、七四 一九、一〇	一、三六	二、五 二、五	二、五	三七、四
計				四四、〇

土坪計算書

（第三号圖面参照
断面積ハ求積器ニ依ル）

距離 自 (鎖)	距離 至	短距離 (鎖)	盛土 断面積 (坪)	盛土 平均断面積	盛土 立坪	断面積	平均断面積	立坪
○	一、○○	一、○○	○ / ○					
一、○○	一、三○	、三○	○ / ○					
一、三○	一、四五	、一五	○ / ○、三二五	○、一六三	○、二六九			
一、四五	二、四五、五	一、○○五	○、三二五 / ○、四二八	○、三七六	四、一五七			
二、四五、五	四、二六、三	一、八○、八	○、四二八 / ○、三八三	○、四○六	四、八二七			
四、二六、三	六、九四	二、六七、七	○、三八三 / ○、三一五	○、三四九	一○、二七七			
六、九四	七、一○	、一六	○、三一五 / ○、五二九	○、四二二	○、七四三			
七、一○	七、二三	、一三				○、二九四 / ○、二一	○、二五二	○、三六
七、二三	七、五○	、二七	一、二五八 / ○、七七四	一、○一六	三、○一八	○ / ○、○四	○、○二	○、○五九
七、五○	七、九四	、四四	○、七七四 / ○、六○四	○、六八九	三、三三五	○、○四 / ○、○八八	○、○六四	○、三一
七、九四	八、○五	、一一	○、六○四 / ○、三七四	○、四八九	○、五九二	○、○八八 / ○、○三四		○、○七四
八、○五	九、○○	、九五	○、三七四 / ○、二四四	○、三○九	三、二二九	○、○三四 / ○、○二五		○、三一四
九、○○	一○、○○	一、○○	○、二四四 / ○、五一四	○、三七九	四、一六九			
一○、○○	一一、二九	一、二九	○、五一四 / ○、二九七	○、四○六	五、七六一			
一一、二九	一二、○四、五	、七五、五	○、二九七 / ○、四一三	○、三五五	二、九四八			
一二、○四、五	一二、三五	、三○、五	○、四一三 / ○、三三	○、三七二	一、二四八			
一二、三五	一三、○一、五	、六六、五	○、三三 / ○、○八八	○、二○九	一、五二九	○ / ○、○四	○、○二	○、○七六
一三、○一、五	一四、○一、五	一、○○	○、○八八 / ○、二一八	○、一五三	一、六八三	○、○四 / ○	○、○二	○、一四六
一四、○一、五	一四、六○	、五八、五	○、二一八 / ○、二八三	○、二五一	一、六一五			
一四、六○	一五、五一	、九一	○、二八三 / ○、六○九	○、四四六	四、四六四			
一五、五一	一六、○○	、四九	○、六○九 / ○、三九九	○、五○四	二、七一七			
一六、○○	一六、四五、九	、四五、九	○、三九九 / ○、二一六	○、三○八	一、五五五			

側線ノ分　第五号圖面參照

一六、四五九　一七、六二、四	一、一五、五	〇、二一六　〇、五四	〇、三七八	四、八〇三
一七、六一、四　一八、〇〇	三八、六	〇、五四　〇、六六七	〇、六〇四	二、五六五
一八、〇〇　一九、〇〇	一、〇〇	〇、六六七　〇、七〇二	〇、六八五	七、五三五
一九、〇〇　一九、一〇	二、〇	〇、七〇二　一、〇九	〇、八九七	一、九七一
計				七五、〇一
				一、三三

四、三五　四、八〇	四、五	〇、一〇　〇、一	〇、〇五	〇、二四八
四、八〇　五、三三	五、三	〇、一　〇、七	〇、四	二、三三二
五、三三　五、九二	五、九	〇、二二　〇、二二	〇、二二	一、四二八
五、九二　六、七五	八、三	〇、二二　〇、	〇、一一	二、〇〇九
計				六、〇二
合計				八一、〇三

貨物積卸場ノ分　第六号圖面參照

一七、五〇　一七、七四	二、四	〇　一、七五	〇、八七五	二、三一〇
一七、七四　一九、一〇	一、三六	一、七五　六、五	二、一二五	三、一七九
計				三四、一

土羽面坪計算書

距離 自 至（鎖）	短距離（鎖）	右側 法高（間）	右側 平均法高（間）	右側 面坪	左側 法高（間）	左側 平均法高（間）	左側 面坪
一、三〇 一、四五	一五	〇 〇、一	〇、〇五	〇、〇八二	〇 〇、三	〇、一五	〇、二四八
一、四五 二、四五、五	一、〇〇、五	〇、一 〇、三	〇、二	二、二一一	〇、三 〇、三	〇、三	三、三一七
二、四五、五 四、三五	一、八九、五	〇、三 〇、三	〇、三	六、二五四	〇、三 〇、三	〇、三	六、二五四
四、三五 六、七五	二、四〇				〇、三 〇、三	〇、三	七、九二〇
六、七五 六、九四	一九	〇、三 〇、三	〇、三	〇、六二七	〇、三 〇、三	〇、三	〇、六二七
六、九四 七、一〇	一六				〇、三 〇、四五	〇、三七五	〇、六六
七、二三 七、五〇	二七	〇、二 〇、二	〇、二	〇、五九四			七、九二〇
七、五〇 七、九四	四四	〇、二 〇、二	〇、二	〇、九六八			
七、九四 八、〇五	一一	〇、二 〇、二	〇、二	〇、二四二			
八、〇五 九、〇〇	九五	〇、二 〇、二	〇、二	二、〇九〇	〇 〇、四	〇、二	二、〇九〇
九、〇〇 一〇、〇〇	一、〇〇	〇、二 〇、一五	〇、一七五	一、九二五	〇、四 〇	〇、二	二、二
一〇、〇〇 一一、二九	一、二九	〇、一五 〇、二五	〇、二	二、八三八			
計				一七、八三二			二三、三一六
道路立換ノ分							
七、二三 七、五〇	二七	〇 〇			〇、二 〇、二	〇、二	〇、五九四
七、五〇 七、九四	四四	〇 〇、二	〇、一	〇、四八四	〇、二 〇、二	〇、二	〇、九六八
七、九四 八、〇五	一一	〇、二 〇、二	〇、二	〇、二四二	〇、二 〇、二	〇、二	〇、二四二
八、〇五 九、〇〇	九五	〇、二 〇、二	〇、二	二、〇九	〇、二 〇、二	〇、二	二、〇九
九、〇〇 一〇、〇〇	一、〇〇	〇、二 〇、三五	〇、二七五	三、〇二五	〇、二 〇、三五	〇、二七五	三、〇二五
計				五、八四一			六、九一九
側線ノ分							
四、三五 四、八〇	四五	〇、三 〇、三	〇、三	一、四八五			

四、八〇 五、三三	五、三三 五、九二	五九二 六、七五	計	合計	総計
五三	五九	八二			
〇、三 〇、八	〇、三 〇、三	〇、三 〇、三			
〇、五五	〇、三	〇、三			
三、四〇五（二〇七）	一、九四七	二、七三九	九、三七八	三三、〇五一	
				三〇、二三五	六三、二二九

石垣面坪計算書

距離	短距離	右側 法高	右側 平均法高	右側 面坪	左側 法高	左側 平均法高	左側 面坪
自六、九四 至七、一〇	、一六	〇、八 〇、八（同）	〇、八	一、四〇八			
七、二三 七、五〇	、二七				〇、七 〇、七	〇、七	二、〇七九
七、五〇 七、九四	、四四				〇、七 〇、八	〇、七五	三、六三
七、九四 八、〇五	、一一				〇、八 〇、八	〇、八	〇、九六八
一一、二九 一二、〇四五	七、五五	〇、二五 〇、三五	〇、三	二、四九二	〇、二五 〇、三五	〇、三	二、四九二
一二、〇四五 一二、三五	三〇、五	〇、三五 〇	〇、一七五	〇、五八七	〇、三五 〇、四	〇、三七五	一、二五八
一二、三五 一三、〇一五	六六、五	〇 〇			〇、四 〇、四	〇、四	二、九二六
一三、〇一五 一四、〇一五	一、〇〇	〇 〇、一五	〇、〇七五	〇、八二五	〇、四 〇、四	〇、四	四、四〇〇
一四、〇一五 一四、六〇	五八、五	〇、一五 〇、二	〇、一七五	一、一二六	〇、四 〇、四	〇、四	三、五七四
一四、六〇 一五、五一	〇、九一	〇、二 〇、二五	〇、二二五	二、二五二	〇、四 〇、五	〇、四五	四、五〇五
一五、五一 一六、〇〇	、四九	〇、二五 〇、三五	〇、三	一、六一七	〇、五 〇、三五	〇、四二五	二、二九一
一六、〇〇 一六、四五九	、四五九	〇、三五 〇、四	〇、三七五	一、八九三	〇、三五 〇、四	〇、三七五	一、八九三
一六、四五九 一七、六一四	一、一五五	〇、四 〇、四五	〇、四二五	五、四〇〇	〇、四 〇、七	〇、五五	六、九八八
一七、六一四 一八、〇〇	、三八六				〇、七 〇、七	〇、七	二、九七二
一八、〇〇 一九、〇〇	一、〇〇				〇、七 一、〇	〇、八五	九、三五
一九、〇〇 一九、二〇	二〇				一、〇 一、〇	一、〇	二、二
計				一七、六			五〇、五二六
終点溝 西側	二、五（同）	一、〇 一、〇（同）	一、〇	二、五			
左 東側	二、五	一、〇 〇、四	〇、七	一、七五			
計				四、二五			
合計							七二、三八

（乙）

盛土立壱坪當リ單價表

種目	材料	長	巾厚徑	員數	單價	代價	摘要
盛土	土砂			一立坪	一〇〇	一〇〇円	
運搬	人夫			三五人	五〇	一七五〇	
鋤取	人夫			五人	五〇	二五〇	
搗地均	人夫			八人	五〇	四〇〇	
計						二五〇〇	

土羽面壱坪當リ單價表

種目	材料	長	巾厚徑	員數	單價	代價	摘要
筋芝	野芝	一尺〇	二五寸	四八枚	〇二五	一二〇	筋芝ハ法高壱間ニ付八通リトシ延長壱間三六枚使用ノコト
土羽打	人夫			三人	五〇	一五〇	
計						二七〇	

石垣面壱坪當リ單價表

種目	材料	長	巾厚徑	員數	單價	代價	摘要
割石	花崗石	扣一尺五寸以上	面一尺二寸以上	一〇平坪	四八〇〇円	四八〇〇	平壱坪ニ三十石以内トス、胴付二寸以上ノコト
裏詰	栗石			二五立坪	八〇〇〇	二〇〇〇	
職工	石工			一人	一〇〇〇	一〇〇〇	
手傳	人夫			一人	五〇〇	五〇〇	石工手傳床堀手間其他一切
計						八三〇〇	

土台枠長壱間當リ單價表

種目	材料	長	巾厚徑	員數	單價	代價	摘要
土台木	松	一三尺〇	壱尺三五	二本	六二〇	一二四〇	眞直ナル生松丸太材トス
貫木	仝	二〇	三五	四ツ	〇八〇	三二〇	仝
栓木	樫	〇五	〇八 〇八	一〇	〇一〇	一〇〇	貫木打込ミ及繕手打込ミ用
職工	大工			六人	八〇〇	四八〇〇	
手傳	人夫			四人	五〇〇	二〇〇〇	

川上軌道株式會社

挿入壱行

(乙)

計	一間ニ付金壱円拾七銭				一二四〇	

モルタル立壱坪當リ單價表

種目材料	長	巾厚径	員數	單價	代價	摘要
モルタル用 セメント			一五樽	五〇〇	七五〇〇	配合ハセメント一洗砂三トス一樽ニ四切五分入リ
洗砂			三坪 九四	四〇〇〇	三七六〇	
混和人夫			八人	五〇〇	四〇〇〇	泥土塵芥等ヲ含有セサル洋砂トス壱坪目五貫目二度篩ノモノ
計	一切ニ付金参拾八銭参厘				八二七六	

コンクリート立壱坪當リ單價表

種目材料	長	巾厚径	員數	單價	代價	摘要
コンクリート用 セメント			七九樽	五〇〇	三九五〇〇	配合ハセメント一洗砂二砂利六トス樽ニ付四切五分入リ
洗砂			三坪 三三	四〇〇〇	一三二〇	泥土塵芥ヲ含有セサル洋砂トス壱坪目五貫目二度篩ノモノ
洗砂利			一〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	
計					五〇八二〇	

種目材料	長	巾厚径	員數	單價	代價	摘要
	一切ニ付金貳拾参銭五厘 杭柵拾本當リ單價表					
杭木 松丸太	六〇尺	三	四	一二〇	四八〇	
横木 仝	一二五	三	二	二五〇	五〇〇	
柵杭 仝	三〇	五以上	六〇	〇一五	九〇〇	
土留柴		廿	一〆	一〇〇	一〇〇	縄長三尺メ一メトス
鉄釘	七	三五	八本	〇五〇	四〇〇	
大工			二人	八〇〇	一六〇〇	杭仕拵ヘ手間一切

川上軌道株式會社

（乙）

種目材料	長	巾厚径	員数	単價	代價	摘要
人夫	尻留杭壱本使用ノ		六人	五〇	三〇〇	杭打桝杭建付其他仕上迄一切
計					二八四〇	

一間ニ付金壱円四拾弐銭

甲号 巾一尺 高一尺五寸 開渠長一間當リ単價表

種目材料	長	巾厚径	員数	単價	代價	摘要
両側石垣 割石	二〇間	二五間	両坪五	四八〇〇	二四〇〇	両側分
裏詰 栗石		立坪廿	立坪一	八〇〇	八〇	
職工 石工			五人	一〇〇〇	五〇〇	
手傳 人夫			五人	五〇〇	二五〇	
計					三九五〇	

乙号 巾一尺二寸 高一尺五寸 開渠長壱間當リ単價表

種目材料	長	巾厚径	員数	単價	代價	摘要
両側石垣 割石	二〇間	二五間	両坪五	四八〇〇	二四〇〇	両側分
裏詰 栗石			立坪一	八〇〇	八〇〇	
職工 石工			五人	一〇〇〇	五〇〇	
蓋板 松板	一〇間	二五尺	二枚	三〇〇	六〇〇	
金物 桟木 松材	二〇	二二尺	三本	一〇〇	三〇〇	
洋釘	五寸		一二本	〇五	六〇	
職工 大工			二人	八〇〇	一六〇	
手傳 人夫			七人	五〇〇	三五〇	石工及大工手傳其他仕上迄一切
計					五一七〇	

口径一尺五寸土管長一間當リ単價表

（乙）

種目	材料	長	巾厚	径	員数	單價	代價	摘要
土管		二尺〇		口径一五	三本	三〇〇	九〇〇	薬引上等焼
被覆	粘土	一間〇	厚一五		一二立坪	四〇〇〇	四八〇	良ク精煉シタルモノ
伏込	人夫				一人	五〇〇	五〇〇	土管埋込粘土巻付共一切
下数	杏枠				一個	一一七〇	一一七〇	
計							二一五〇	

口径八寸土管長一間當リ單價表

種目	材料	長	巾厚	径	員数	單價	代價	摘要
土管		二尺〇		径八	三本	八〇〇	二四〇〇	薬引上等焼
被覆	粘土	一間〇	厚一		〇七立坪	四〇〇〇	二八〇	良ク精煉シタルモノ
伏込	人夫				五人	五〇〇	二五〇	土管埋込粘土巻付共一切
計							二九三〇	

口径三寸土管長一間當リ單價表

川上軌道株式會社

種目	材料	長	巾厚	径	員数	單價	代價	摘要
土管		二尺〇		口径三	三本	二〇〇	六〇〇	薬引上等焼
被覆	粘土	一間〇	厚〇五		〇三	四〇〇〇	一二〇	良ク精練シタルモノ
伏込	人夫				三人	五〇〇	一五〇	土管埋込粘土巻付共一切
計							八七〇	

軌條壱哩當リ單價表

種目	材料	長	巾厚	径	員数	單價	代價	摘要
軌條	三十封度鋼鉄	三〇呎	高三吋 底巾三吋 頭巾一吋八分五		三五二本	一八〇〇〇	六三三六〇〇〇	大正五年十二月十六日付佐賀縣指令第四五九九号ヲ以テ認可セラレタルモノト全一ナリ
緒目板		十六吋八分之一			三五二対	七五〇	二六四〇〇〇	
全用ボールトナット		二吋八分之一		二分ノ一吋	一四〇八本	〇七五	一〇五六〇〇	
スパイキ		四吋	二分ノ一吋 二分ノ一吋		一〇五六〇本	〇三〇	三一六八〇〇	
計							七〇二二四〇〇	

軌條敷設長壱鎖當リ單價表

（乙）

種目	材料	長	巾・厚・径	員數	單價	代價	摘要
軌條枕木運搬	人夫			一人	五〇〇	五〇〇	
砂利運搬撒布	人夫			三人	五〇〇	一五〇〇	
敷設	工夫			五人	六〇〇	三〇〇〇	
計						五〇〇〇	

踏切張板長壱間當り單價表

大正五年十月十六日付作成針指令第四三九九号ヲ以テ認可セラレタルモノト[illegible]

種目	材料	長	巾・厚・径	員數	單價	代價	摘要
張板	松板	六呎	九吋 三吋	四枚	六五〇	二六〇〇	軌條外側用
仝	仝	六呎	十吋 三吋	三枚	七〇〇	二一〇〇	軌條内側用
軌條	三十封度	六呎	卅	二本	三六〇〇	七二〇〇	複軌條用
スパイキ				一六〇	三〇	四八〇	複軌條打付用
洋釘		六吋		五〇	〇〇七	三五〇	張板打付用

種目	材料	長	巾・厚・径	員數	單價	代價	摘要
職工	大工			七人	八〇〇	五六〇〇	
手傳	人夫			五人	五〇〇	二五〇〇	
計						一三五四〇	

川上軌道株式會社

八

回覧

来ル支障ナキ由

川上軌道

6 5 23

課長

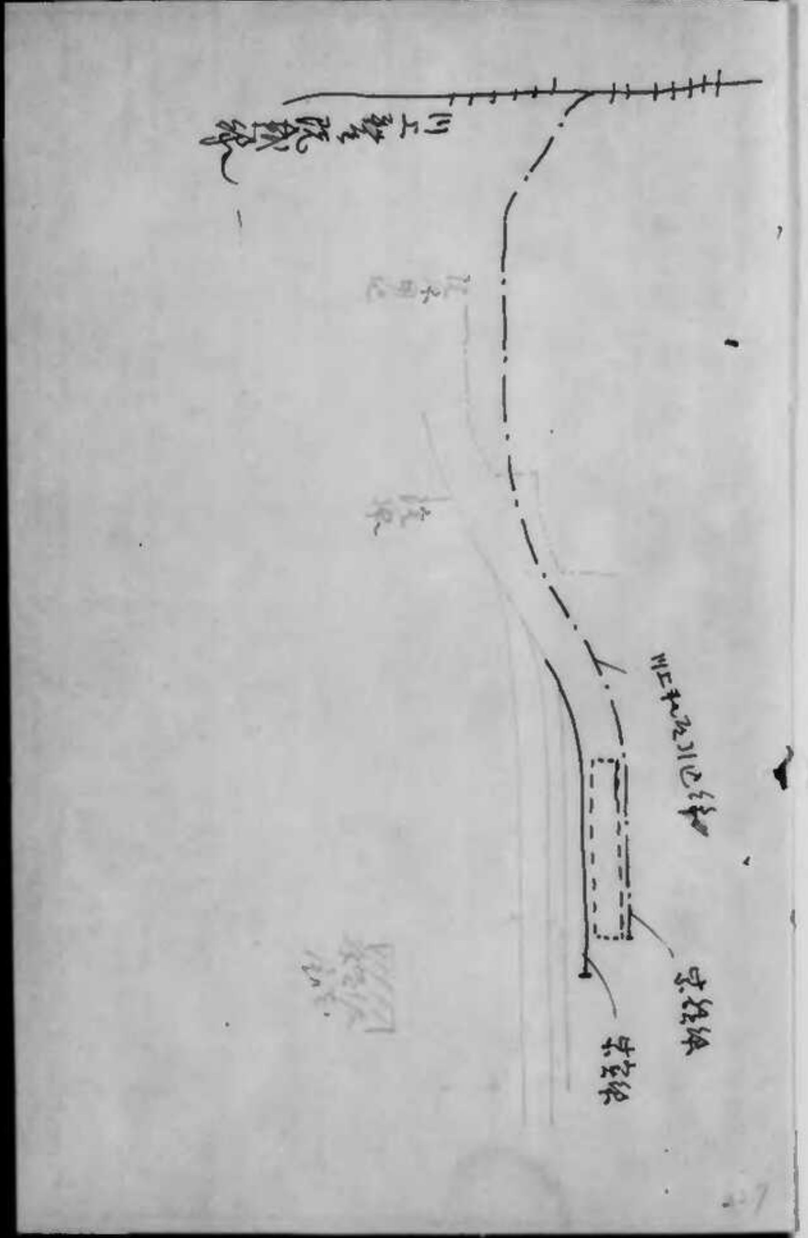
件名

佐賀駅構内引込線敷設ニ関スル承認書提出ノ件

本件支障ナシト認ム

庶務課長

226



363
6. 5. 21

土第八二六號

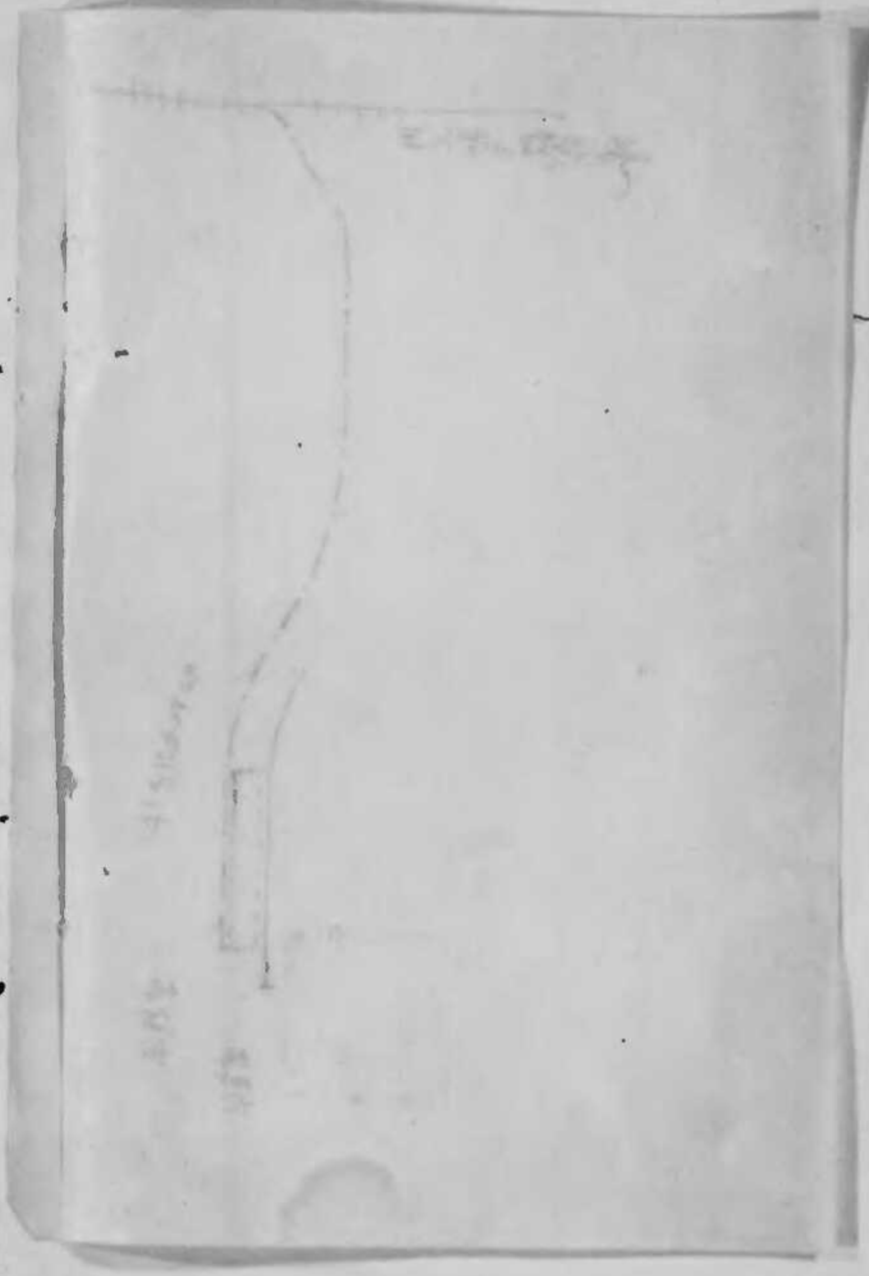
大正六年五月十七日

佐賀縣知事 岡田宇之助

鐵道院監督局長大園榮三郎殿
内務省土木局長小橋一太殿

本月八日附監軌第三六三號一ヲ以テ御通牒相成候川上軌道ニ對シ佐賀駅構内引込線敷設ニ関スル九州鐵道管理局長ノ承認書謄本別紙及送付候也

佐賀縣



土第八二六六号

大正六年五月十七日

滋賀県知事 岡田宇之助 [印]

鐵道院監督局長 大園栄三郎 殿

内務省土木局長 小橋一太 殿

本月八日附監軌第三六三号ヲ以テ御通牒相成候川上軌道ニ對シ滋賀驛構内引込線敷設ニ関スル神戸鐵道管理局長ノ承認書謄本別紙ヲ送付候也

九管工設監原第二號

写

大正五年四月七日

九州鐵道管理局長長尾半平 印

附 大正五年四月八日 受鳥保受第一七七四號

鳥栖保線事務所經由

佐賀縣佐賀郡神野村大字神野

川上軌道株式會社

取締役社長眞崎辰五郎殿

大正四年七月廿八日發第一七四號御申出ニ係ル佐賀停車場ニ於テ貨物連絡輸送設備ノ義左記条件ヲ以テ承諾致候ニ付御異存無之候ハヽ本書全文ヲ掲ケタル承諾書御差入相成度

記

一、連絡設備ハ別紙圖面ノ通トス

二、圖面中紫色實線ヲ以テ表示シタル工事ノ内軌条敷ハ當院ニ於テ施行ス

土工、砂利採集撒布、溝橋工事ハ當院ノ指揮監督ノ下ニ又鎖線ヲ以テ表示ノ諸工事ハ貴社ニテ之ヲ施行セラルヘキモノトス

三、前項紫色實線ニテ表示シタル施設物ハ竣工ト同時ニ無償ニテ當院其ノ所有權ヲ取得ス

四、将来當院ノ事業上施設物ノ變更、移轉又ハ撤去ノ必要アルトキハ何時ニテモ紫色鎖線ノ施設物ハ貴社ニ於テ又實線ノ施設物ハ當院ニ於テ其工事ヲ施行スルモノトス

五、前項作業ノ為メ貴社ニ損害ヲ及ホスコトアルモ當院ハ其責ニ

任セズ

六、第二項工事費概算金貳千貳百参拾壱円及第四項工事費ハ全部貴社ノ負担トス當院ニテ施行スル工事ニ要スル費用ニ對シテハ當院ノ指定スル方法ニ依リ貴社ニテ仕拂ハルヘキモノトス

七、紫色鎖線ヲ以テ表示シタル施設物ニシテ當院用地ヲ使用スルモノニ對シテハ指定ノ料金ヲ仕拂ハルヘキモノトス

八、用地使用料金ニ関シテハ別ニ協定スルモノトス

九、貴社ニテ施行セラルヘキ工事着手及竣功ノトキハ直ニ通知セラルヘキモノトス

以上

右原本之通リ相違無之候也

大正六年二月二十日

佐賀縣佐賀郡神野村大字神野千百貳拾八番地ノ六

川上軌道株式會社

取締役社長真崎辰五郎 ㊞

国立公文書館
National Archives of Japan

内務省 號 佐土第25號 6.6.15

六月二十一日要 帝之東部地方局

監第一〇七八號 大正六年 六月十一日受領 六月十九日達済

監甲第五六四號 大正六年 六月二日受領 六月二日立案

淨書 校合

總裁
副總裁
技監 監督局長 監理課長 庶務課長

内閣總理大臣
内閣書記官長

内務大臣
次官
土木局長 技術課長 道路課長

一九

(乙)

川上軌道車輛聯結延長ノ件

案ノ二

番號

佐賀縣

大正六年二月二十二日附出願車輛聯結延長ノ件ヲ許可シ明治四十五年七月二十五日監第一〇七二號ヲ以テ下付シタル命令書第十三條中第一項及第二項ヲ左ノ通改ム

年 月 日

内閣總理大臣
内務大臣

車輛ハ全長六十呎ヲ超過シテ聯

鐵道院 十回議用紙

181

231

国立公文書館 National Archives of Japan

結進行セシムルコトヲ得ス但シ神野村大字神野字二本松八百二十二ノ四番地先春日村大字久池井字六本杉三千百七十番地先間ニ在テハ全長九十呎以内ニ於テ聯結進行セシムルコトヲ得

省　號

案ノ二

六月三日

六年六月九日

監督局長

土木局長

佐賀縣知事宛

通牒

本年五月十七日附保第一四〇七號ヲ以テ進達川上軌道車輛聯結延長ノ件別紙ノ通指令相成候處本軌道ノ車輛聯結運轉ニ付テハ自今左ノ條件ヲ遵守スヘキ旨會社ニ示達有之度

追テ今回車輛聯結延長出願區間ニ於テハ停留場待避側線ノ有效延長九十呎ニ滿タサルモノアルニ付聯結延長實施前該有效延長ノ増加ヲ要シ候條右工事方法変更認可申請ヲ爲サシメ稟伺有之度

一、二車以上聯結運轉ノ場合ニハ總軸數ノ四割七分以上ヲ同時ニ制動シ且列車ニ対

シテ成ルヘク其ノ制動力ヲ平等ナラシムル様

二、制動機取扱者ヲ乗務セシムルコト
列車最後部ノ車輛ニハ必ス制動機取扱者ヲ乗務セシムルコト但シ其ノ車輛カ貨車ニシテ制動機取扱者カ其ノ隣接車輛ニ乗務スルトキハ前項ノ制動軸数ノ割合ヲ降ラサル場合ニ限リ最後部車輛ニハ乗務セサルモ妨ナシ

帝國鐵道廳

監第一〇七二號

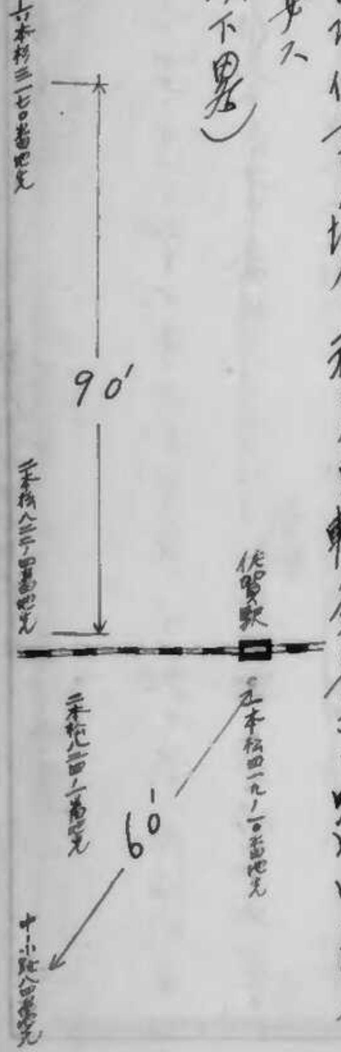
命令書

明治四十五年七月二十五日

第十三条　車輌ハ機関車一輌ニ客車若ハ貨車一輌ノ外聯結シテ進行セシムルコトヲ得ス但シ佐賀縣知事ノ許可ヲ得タルトキハ機関車ヲ併セ三車ニ限リ聯結シテ進行セシムルコトヲ得

前項但書ノ場合ニ於テハ車輌ノ全長六十呎以内ナルヲ要ス

（以下畧）



課長

線名　川上軌道

件名　一　命令書一部変更ノ件（車輛連結長増加）

受付大正6年5月24日
調了大正6年5月26日
日数　2日

回附先　課長

擔任

取扱

25/5

土木ニ関シ左記要項ヲ加ヘ支障ナキモノト認ム

但シ本記通牒ヲ要ス

一、車輛連結長増加ノ結果停留場ノ

二、神野村大字神野字三本松ノ市三十六番地先ヨリ春日村大字大池字三本松三千百七十番地先ニ至ル間ハ（軌道）待避側線ノ有効延長九十呎ニ満タザルモノアルヲ以テ工事方法変更ノ手続ヲ為シ有効延長ヲ増加スルコト

（起点 [illegible]）

主任

件名 川上軌道

受領大正六年五月廿三日
処了大正　年　月廿四日

日数 三

廻附先 土木

第一　車輌聯結延長願ノ件

一、車輌ニ関シ支障ナシト認ム
但シ左記通牒ヲ添スルコト

二車以上聯結進行セシムル場合ハ全軸数ノ四割七分以上ヲ同時ニ制動シ且ツ列車ニ対シテ成ルベク其制動力ヲ平等ナラシムル様制動機ノ取扱者ヲ乗務セシムベシ

列車ノ最後部ニ聯結スル車輌ニハ制動機取扱者ヲ乗務セシムベシ

（書入）四割 ~~車輌聯結ノ時~~ 及ヒ

（書入）佐賀県神野村大字神野字三本松四百十九ノ十番地先ヨリ佐賀市[illegible]町字中ノ小路八十四番地先ニ至ル区間

（書入）~~四車聯結ノ時~~

（書入）佐賀県神野村大字神野字[illegible]八百三十二ノ四番地先ヨリ同村大字久池井字[illegible]三千[illegible]番地先ニ至ル区間

但シ最後部ノ車輛カ貨車ニシテ之ニ隣接スル車輛ニ制動機取扱者ヲ乗務セシムルトキハ制動軸数ノ割合ヲ欠カサル限リ本項ノ取扱者ヲ省クコトヲ得

備考 通牒第一項ハ区間ノ勾配ニ応シ制動軸数ノ割合二様トナレルモ現在車輛ノ聯結全長ニ於ケル輛数ハ機関車ヲ除キ三十車以上トナラサルヲ以テ制動機取扱者ノ員数ハ同一ナリ故ニ両区間共制動軸数ノ割合ヲ四割七分トナスモ別ニ支障ナキモノト認ム

鐵道院

237

保第一四〇七號

大正六年五月十七日

佐賀縣知事 岡田宇之助

内閣總理大臣伯爵寺内正毅殿

内務大臣男爵後藤新平殿

川上軌道株式會社ヨリ別紙ノ通特許線路中佐賀郡神野村大字神野字貳本松八百貳拾貳ノ四番地先ヨリ同郡春日村大字久池井字六本杉參千百七拾三番地先間ニ於テ車輛聯結延長ノ件願出ニ付調査ヲ遂ケルニ從來許可相成居リタル機關車ヲ併セ三車聯結全延長六十呎ヲ四車聯結延長九拾呎ニ改メ旅客輻湊ノ場合ニ運轉セムトスルモノニ有之候處同線路中ニハ人家稠密ノ箇所及横斷スヘキ道路モ少ク從テ交通上支障ヲ與フルカ如キコトナク且ツ機關車ノ牽引力モ充分ト認メラレ御許可相成差支無之モノト思料候條特許命令書變更案相添ヘ及副申候也

佐賀縣

案

川上軌道株式會社

大正六年二月二十二日附願車輛聯結延長ノ件ヲ許可シ明治四十五年七月二十五日監第一〇七二號ヲ以テ下付シタル命令書中第十三條第一項第二項ヲ左ノ通改ム

年　月　日

内閣総理大臣

内務大臣

第十三條　車輛ハ機関車一輛ニ客車若ハ貨車一輛ノ外聯結シテ進行セシムルコトヲ得ス但シ佐賀縣知事ノ許可ヲ得タルトキハ佐賀縣佐賀郡神野村大字神野字一本松四百十九ノ拾番地先ヨリ同縣佐賀市松原町字中ノ小路八十四番地先ニ至ル線路ニ於テハ機関車ヲ併セ三車ニ限リ又同縣佐賀郡神野村大字神野字弐本松八百二十二ノ四番地先ヨリ同縣同郡春日村大字久池井字六本杉三千百七十番地先ニ至ル線路ニ於テハ機関車ヲ併セ四車ニ限リ聯結シテ進行セシムルコトヲ得

前項但書ノ場合ニ於ケル車輛ノ全延長ハ三車ニ在リテハ六十呎以内四車ニ在リテハ九十呎以内ナルヲ要ス

佐賀縣

国立公文書館 National Archives of Japan

大正六年四月三十日
一四〇之

車輛聯結延長御許可願

佐賀縣佐賀郡神野村
川上軌道株式會社
電話六〇…

第五四號

車輛聯結延長御許可願

當會社ハ佐賀縣佐賀郡神野村大字神野字一本松官線九州鐵道佐賀驛前ヨリ仝縣仝郡春日村大字久池井字六本杉（通称川上）ニ至ル線路五哩餘及仝縣仝郡神野村大字神野字二本松ヨリ仝縣佐賀市松原町字中ノ小路ニ至ル線路五拾鎖餘ニ旅客貨物ノ運輸營業罷在候從来列車聯結ハ明治四十五年七月貳拾五日附監第一〇七二號ヲ以テ下附セラレタル特許状附屬命令書第拾参條ニ依リ機関車ヲ併セ三車ニ限リ其聯結車輛ノ全延長六拾呎以内トシ運轉ノ御許可ヲ得居候處現在ノ三車連結ニテハ日曜祭日縁日等ノ如キハ全部ノ乗客ヲ收容スルコトヲ得ス乗車ヲ謝絶スルノ已ムナキ場合多々有之車中ノ乗客ハ滿載混雑シ座席窮屈ニシテ不快ヲ感シ待合ノ乗客ハ次ノ發車迄停車場ニ久シク時間ヲ空費シ迷惑尠カラス殊ニ團体乗客ハ仝一列車ニ乗車不可能ニシテ分乘セシムルノ不便有之候抑モ當會社軌道ノ主ナル乗客ハ軌道終点地ニアル風光明眉ノ景色ニ富ム川上ニ遊覧スル者多数ナレハ特ニ乗客ニ快感ヲ與ヘテ輸送スルコトニ努メ居候ニ付右等ノ不便アルニ於テハ營業上遺憾トスル儀ニ御座候加之貨物運送ハ軌道沿線ノ地生産物富豊ニシテ輸出入ノ貨物夥多ナレトモ當會社軌道ハ官線九州鐵道ノ横断ニ據リ鐵道以北ノ線路ト佐賀駅トノ連絡セサル爲メ未タ充分ノ貨

物ヲ運送シ能ハザリシモ既ニ九州鐵道管理局ヲシテ佐賀駅
構内ニ貨車引込線ヲ敷設シ鐵道ト軌道トノ貨物連絡輸
送設備ノ許諾ヲ受ケ候ニ付貨物運絡輸送設備竣成ノ暁
ニハ貨物ノ運送激増スベク現在ニ於テスラ三車聯結ニテハ
輸送力乏シク不便ヲ感シ居候次第ニ付今後ハ三車聯結
ノ外ニ貨車ヲ増結スルニアラザレバ常ニ貨物停滞ヲ来シ貨
主モ會社モ困難スルコト憂慮罷在候然ルニ目下使用仕
居候重量四噸四分及五噸ノ蒸氣機関車ハ優ニ容貨車
四臺ノ牽引力ヲ有シ候尚軌道ハ急勾配ナク平直ナル線路
ニシテ沿道ニハ人家連擔ノ場所尠ナク踏切交通頻繁ナラズ
車輌聯結ヲ増加スルトモ危険ノ虞レハ無之事ト確信仕
候間神野村大字神野字弐本松八百弐拾弐ノ四番地先(九
州鐵道長崎線佐賀駅西方踏切)ヨリ仝郡春日村大字久池井
字六本杉弐千百七拾壱番地先(通称官人橋側)ニ至ル四哩
五拾四鎖八拾九節間ニ車輌全延長九拾呎迄連結運
轉仕度候條右ノ情状御諒察被成下特別ノ御詮
議ヲ以テ御許可被成下度此段奉願候也

大正六年二月廿三日

佐賀縣佐賀郡神野村大字神野
千百弐拾八番地ノ六
川上軌道株式會社
取締役社長　眞崎辰五郎

内閣総理大臣伯爵寺内正毅殿
内務大臣　男爵後藤新平殿

243

蒸氣機関車構造仕様書

型式　獨逸國郡サーコツペル會社製拾弐馬力四輪連結
　　水櫃付機関車

輛数　五輛

燃料　無煙炭及骸炭

重要寸法

機関車車体ノ全長　自緩衝器至緩衝器拾参呎六吋

仝　巾　自汽関室外側板至外側板四呎拾吋六十四分ノ六十三

仝　高　自軌条上面至煙突頂上六呎六十四分ノ五十三

仝運轉上ノ重量　四噸四分

仝車輪一対ニ負擔スル重量弐噸弐分

汽筩ノ直徑	四吋六十四分ノ五十九
衝程	拾吋四分ノ一
汽罐ノ傳熱面	五拾八平方吹壹
爐面ノ大サ	參平方吹弐弐
實用最高汽壓	毎平方吋ニ付百四十七封度
水櫃ノ容量	百ガロン
燃料櫃ノ容量	參百五拾封度
汽罐ノ直徑	壹吹九吋六十四分ノ四十三
「チユーブプレート」ノ間隙	參吹拾壹吋六十四分ノ十五
「フワイヤーボツクス」ノ長	壹吹拾吋三十二分ノ十五
仝　巾	壹吹八吋六十四分ノ二十五
仝　高	壹吹八吋六十四分ノ五十五
「チユーブ」ノ數	弐拾六本
仝　内徑	壹吋六十四分ノ三十七
働輪ノ直徑	壹吹拾壹吋八分ノ五
固定軸距	參吹拾壹吋六十四分ノ十五
車軸徑	參吋六十四分ノ三十五
牽引力	九百八拾封度

汽罐ハ前部ニ於テ固ク臺框ニ取付ケ後部ハ膨張ニ對シ「スライヂング」ヨイン上トナシ汽罐傳熱面及爐面ハ牽引力ヲ充分発生セシムル為ノ適當ナル面積ヲ有シ罐胴ノ軟鋼板ハ厚サ三十二分ノ九吋鏡板厚三十二分ノ十九吋ニシテ罐胴及火室ノ縫目ハ内外兩面

マー「コーキング」又ハ「リベツチング」ハ水壓又ハ壓搾空氣ニ依リナシタルモノ
ニシテ水壓試驗ノ壓力ハ每平方吋ニ付貳百貳拾五封度トス
火室ハ軟鋼板厚十六分ノ五吋ノモノヲ用ヒ「クラウンステイ」及「ステイ
ボールト」ヲ以テ内部火室ト外部火室トヲ固着セシム
「クロスステイ」併ニ「クラウンステイ」ハ最良ノ軟鋼ニシテ捻山壹吋ニ付
拾ノ割合ナリ兩端ハ鍛鍊シテ直徑大ニシテ火室捻込ミ「クラウンス
テイ」ハ火室扣面ヲ向ヘ「ナット」ヲ以テ締メ込ムモノトシ「ステイボー
ルト」ハ兩端ノ銅板ニ捻込ミテ鉄鋲トナセリ其捻山ハ壹吋ニ付拾
ノ割合トス
「チユーブ」ハ内徑壹吋六十四分ノ三十七ノ鋼鉄管ヲ用ヒ「チユーブプレート」
ニ「エキスパンド」シナス

「フワイヤドアー」及「フアウンデイシヨンリング」ハ可鍛性軟鋼ニシテ其
縁ヲ平削シ鋲着スル前内外火室ニ「フアウンデイシヨンリング」ヲ取
付クモノトス
爐床ニハ硬化シタル鑄鉄製ノ火床架ヲ相當ノ間隔ヲ備ヘテ數
キ並ヘ「アシパン」ハ汽罐ニ取付ケ臺框ニ位置ス「L」形鋼及鋼板ヲ
以テ構成シ「ダンパー」ハ「アシパン」後部ニアリテ其開閉ハ運轉手
室ノ手柄ニテ取扱ヒ火止ハ「インゼクター」溢水ヲ導キ防止スル
モノトス
煙箱ハ内徑一呎九吋六十四分ノ四十三ニシテ厚サ三十二分ノ九吋ノ鋼板ヲ
用ヒ汽罐胴板ニ鋲付シ其前部ハ鋼製壓出板ノ蓋ヲ設ケ
完全ニ密閉スル爲メ該蓋板ハ「ハンドホヰイル」ニテ密閉スル装置

トナス煙筒ハ鑄鉄製ニシテ火粉発散止器ヲ付ケ安全ノ装置ヲ
ナス
「スチームドーム」ハ汽罐ノ上部ニ設ケ直径九吋三十二分ノ二十七高サ
壱呎壱吋三十二分ノ二十五厚サ六十四分ノ十九吋ノ鋼鉄製ニシテ
「フレンヂ」ニテ罐胴ニ固定ス
汽罐及「ドーム」ハ不導熱物ヲ以テ捲キ葉鉄ヲ以テ「ラッキング」
ヲ施ス砂箱ハ汽罐上部ニ取付ケ基臺ニ砂出口ヲ設ケ径四
分ノ三吋ノ鉄管ヲ以テ軌条上ニ導ク装置トシ砂出口ノ開
閉ハ機関室ヨリ容易ニ取扱ヒ得ル構造トシ車輪空轉
ノ際ニ於ケル散砂ノ用ニ備フルモノトス
蒸気管及排汽管ハ綴目ナキ軟鉄ニシテ鑄鉄製「フレン

ヂ」ヲ有シ且ツ砲金製接合環ヲ有ス
「レギュレーター」ハ専賣特許「ストルナド」式「バルブレギュレーター」ニシ
テ「バルブプレート」ハ砲金ヲ以テ製作ス
汽罐取付品「ゲージクラス」壱個「テストコック」弐個「インゼクター」弐個
「クラックバルブ」ハ給水停止ト仝時ニ自働的ニ閉ヅ其他諸弁嘴子
ヲ具備ス
安全弁ハ発條式行ノ直径一吋十六分ノ三ノモノ弐個ニシテ適當ノ揚弁
器ヲ備ヘ弁箱上ニ排汽穴ヲ設クルモノトス又火室頂板中央ニ可
鎔栓壱個ヲ設備ス
「スチームゲージ」ニハ最大實用汽壓ヲ表示ス
汽笛ハ汽罐上部ニ設ケ機関室ヨリ迅速ニ取扱ヒ得ル装置ト

シ其音響ニ依リ相圖信號ヲナシ得ルモノトス
臺框ハ鋼板及L形鋼コ形鋼等ヲ以テ構成シ臺ノ要部ハ堅
固ニ支梁ヲ入レ其接合ハ鋲付トス
緩衝及連結器ハ機關車前後「クロスヘッド」ノ中心ニ取付クル
モノトス
「アクシルガイド」ハ鑄鋼製ニシテ臺框ニ取付ケ車軸函ヲ嵌メ込ミ
「タイパー」ヲ以テ緊結スルモノトス
車軸函ハ鑄鋼製ニシテ砲金「ベヤリング」ヲ有シ下部ハ油受ケトナ
シ油ハ「ウイック」ニヨリ注油スル装置トス
車輪ハ輪身ハ鑄鋼ニシテ「タイヤー」ハ厚一吋六十四分三十七ニシテ持程
シーメンス、マーチン鑄鋼製トシ輪鉄ハ燒嵌メトナシ尚使用開始後三ケ年

間「セットスクリー」三本ヲ設備ス
担桿機ハ油中ニテ「テンパー」セル鑄鋼製ニシテ錬鉄製ト結帯ヲナシ充分ノ彈性ヲ
有ス
「クランクピン」ハ鋼製ニシテ「ケースハードニング」ヲナス
「コンネクチングロット」及「カップリングロット」ハ鋼製ニシテ砲金「ベヤリング」ヲ有
シ油壺ハ「ロット」ト一躰ニ鍊造ス
「クロスヘット」ハ鑄鋼ニシテ砲金「ライナー」ヲ備ヘ「スライドバー」ハ最上ノ軟
鋼製ニシテ「ケースハードニング」ヲナシ充分滑カニ支持ス
汽箱ハ鑄鉄ニシテ堅固ニ臺框ニ取付ケ底部ニ「ドレンコック」ヲ
具備シ「運轉手室」ニテ開閉スル装置トス汽箱ノ周圍ニハ不
導熱物ヲ捲キ鋼板ヲ以テ「ラッキング」ヲ施ス

国立公文書館 National Archives of Japan

「ピストン」ハ鋼製ニシテ鉄製ノ「リング」ヲ有ス
「バルブギャー」ハ「ホイジンゲル」式ニシテ「リーバー」ニ依テ自由ニ運転ノ手
室ヨリ働作シD式「スライドバルブ」ニ感働シテ「シリンダー」ニ向テ点
滊ヲ分配スル装置トス
「エキセントリック」ノ「ストラップ」ハ砲金製鋳ハ鋼鉄製ニシテ前進後
進ノ器具ナ運転手室ノ「リバースシャフト」ニ器具ニ取扱ヒ得ル装
置トス
運転手室ハ鋼板及L形鋼ヲ以テ構成シ開閉シ得ヘキ「ガラス」
窓ヲ設ケ前方ヲ視ルニ適当ナラシメ両側ニハ石炭庫ヲ設備シ
水槽ハ鋼板及L形鋼ヲ以テ台枠外部及汽罐両側ニ設備ス
制動機ハ「リバースロー」式ニシテ鋳鉄製「ブレーキブロック」ハ全車
輪ニ装置シ取扱ヒハ運転手室ヨリ迅速ニ動作シ得ルモノトス
前燈ハ凸レンズヲ嵌メ込ミタル洋燈ニシテ軌道上ヲ明カニ照スヘキハ
勿論遠方ヨリ明視シ得ヘキモノトス
救命器ハ車体中ト等シクL形ニ鉄桿ニテ枠ヲ造リ十六番鉄線
ニテ編ミタル金網ヲ張リ安全ニ救助シ得ル装置トス
「ペイント」塗ハ機関車各部削ケサル部分ニハ「ペイント」ヲ塗布シ運
転手室係ニ滊鑵及滊箱「ラッキング」ニハ美麗ナル「エナメル」ヲ以テ
仕上トナス

国立公文書館
National Archives of Japan

五噸四輪聯働「ボツトムタンク」機関車構造仕様書

一 重要寸法

軌間		参呎
汽筩直徑		五吋弐分ノ壱
喞子衝程		拾吋
固定輪軸距		四呎
機関車全長		拾四呎九吋八分ノ五
仝上最大幅		五呎四吋八分ノ七
仝上最大高		九呎
緩衝器及聯結器中心ノ高		拾七吋
働輪直徑		弐拾弐吋
働輪壱對上重量	運轉整備時	弐噸弐分ノ壱

機関車全重量	運轉整備時	五噸
實用最大汽壓	毎平方吋	百六拾封度
総傳熱面積		八拾平方呎
火構子面積		弐、六平方呎
牽引力		千四百五拾封度
水櫃容量		百参拾英「ガローン」
燃料筐容量		四百封度

二、車輪車軸及軸筐

車心ハ最上質ノ鑄鐵製ニシテ輪鐵ニ焼嵌メスルモノトス

輪鐵ハ米国製延鋼ニシテ張斷力毎平方吋四拾弐噸ヲ目安ト定メ車心ノ外徑ヲモ約九百分ノ壱丈ケ小ニシ輪鐵ヲ熱シ焼嵌法ニ依リ車心ニ固定シ且ツ「コツター」ヲ以テ緊締スルモノトス

車軸ハ張圍断力毎平方吋参拾噸以上ニシテ其伸張ハ八吋ノ長サニ於テ弐拾「パーセント」以上ニシテ車軸ニ於ケル捻断力ハ毎平方吋壱萬封度トシ車心ニ車軸ヲ押入スルニハ水壓機ヲ以テ軸徑毎壱吋拾噸ノ壓力ニテ推込ムモノトス

軸筐ハ「ボディー」及「キープ」ノ弐部分ヨリ成リ孰レモ上質ノ鋳鐵ニシテ軸頸ニハ砲金製「メタル」ヲ置キ其ノ投影面積ニ對シ充分ノ寸法ヲ與フルカ故ニ給油ノ缺乏セザル限リ発熱ノ惧ナキモノトス

給油装置ハ上方ニ取付アル大油壷ヨリ銅管ヲ以テ軸頸ニ導クモノトス

三、擔彈機

弓形成層彈條ニシテ材料ハ彈條用最良彈鋼ニシテ纖維内力毎平方吋六万封度トシ其中央ニアル「バツクル」ニ燒嵌メスルモノトス

四、臺框及排障器

臺框ハ最上質ノ軟鋼板ニシテ設計工作倶ニ充分ナル注意ヲ以テ加工ス

排障器ハ前後ニ置キ臺框ヨリ垂下セル隅鐵ニ取付ク

五、汽筩、啣子、仝桿、及揺動弁、仝桿

汽筩ハ當會社多年ノ經驗ニ依リ特種配合ニ成ル最上質ノ鋳鉄ニシテ汽筩蓋ハ汽筩縁ニ充分ナル揭合ハセヲ行フモノトス

啣子ハ單体トシ汽筩ト仝材ニシテ之レニ各弐個ノ「ピストンリング」ヲ加フ

揺動弁ハ汽筩ト同材ニシテ形式ハD型トス

啣子桿及弁桿ハ孰レモ極軟鋼ニシテ炭素燒ヲ施ス

六、揺動弁運動装置

「ワルシャルト」氏式ノ「ヴァルヴギーア」ニシテ各部上質ノ材料ヲ用ヒ充分安全ナル大サヲ取リ殊ニ或ル一局部ニノミ無理ノ力ガ負ハザル様設計シ各磨滅ノ虞アル部分ニハ炭素焼ヲ施シ之ニ接スル面ニハ砲金製ノ「メタル」又ハ「ブッシュ」ヲ置クモノトス

七、汽罐

形式ハ「ストレートトップバーレル」型ニシテ水壓試驗及壓力ハ鐵道院規定ニ據ルモノトス

罐胴ハ最上質ノ軟鋼板ニシテ其張断力ハ毎平方吋弐拾六噸以上其伸張ハ八吋ノ長サニ於テ弐拾五「パーセント」以上トス

前後両端板ヲ接續堅固ナラシメンガ為メ縦行支柱ヲ装置ス

此支柱ハ殊ニ上質ノ材料ヲ採用スベキノミナラズ両端捻子山部分ハ別々ニ製シタルモノヲ熔継セズシテ必ズ壹本ノ材料ヨリ工

作スルモノトス

此ノ支柱ノ取付方ハ後端板ヲ通シテ正確ナル女捻子ヲ設ケ蒸汽ノ漏洩セザル様充分注意ヲ以テ加工シ又煙筐側ニアル煙管板ヲ通シテ支柱ヲ取付クルニハ板孔ニ捻子ヲ立ツル事不可能ナルガ故ニ該煙管板ノ表裏両面ニ座板ヲ當テ女捻子ヲ以テ煙管板ヲ狭ミテ緊締スルモノトス

内外火筐ヲ連接スル「サイドステー」及冠板上部ニ在ル「ラヂアルステー」ハ汽罐中最モ緊要ナルヲ以テ加工大ニ注意ヲ要シ各支柱ノ位置ニ從ヒ孔ノ方向正確ナル事捻子山ノ正形ナル事支柱取付際無理ノ力ガ負ハザル事支柱両端ヲ鋲頭形ニ作ル時ハ萬一漏洩ヲ來スガ如キ場合ニハ直ニ水ノ滲出ニ依リ毀損ノ箇所ヲ発見シ得ルモノトス

「ラヂアルステー」ノ取付方ハ内外火筐ニ於ケル座板面正シク且ツ支柱ノ中心ト直角ヲ為サザルガ故ニ挿入ノ際注意ヲ要シ孔ヲ穿ツ時捻子ヲ立ツル時殊ニ支柱ノ両端ヲ鋲頭形ニ作ル時ノ如キハ一層ノ注意ヲ拂フモノトス

外火筐上部裏ニ當板ヲ置ク即チ「ラヂアルステー」ノ座板トナリ取付ノ際捻子山数ヲ倍加シテ支柱ヲシテ堅固ナラシム

喉板ノ喉部端ニ罐胴ト火筐煙管板トヲ連接堅固ナラシムル為メ「パームステー」ヲ置ク

以上ノ各支柱ハ総テ上質軟鋼トス

「スチームドーム」ハ罐胴ト仝材ニシテ下部ヲ壓出シテ罐胴ニ鋲ナス火管ハ外径壱吋弐分ノ壱厚サ「バーミングハム、ワイヤーゲージ」拾参番ノ實体引抜鋼管トス

八、罐板接手法

縦行継ハ重ネ複列トシ横継ハ喉板ト罐胴喉板ト火筐トニ用ヒ重ネ単列トス

九、汽罐附属品

「ゼーフチーヴアルヴ」	弐個
「インジエクター」	壱個
「インスピレーター」	壱個
「プレツシヤーゲージ」	壱個
「テストコツク」	弐個
「ウオターゲージ」	壱式
「ブローワー」	壱式
「ウオツシユアウトプラツグ」	拾壱個

「フユージブルプラツグ」 弐個

「ブローヲツフコツク」 壱個

「リユーブリケーター」 弐個

「ホイツスル」 壱個

「スパークアレスター」 壱式

十、制動装置及撒砂装置

「ウエート」式「ハンドブレーキ」 壱式

「サンデングギーア」 壱式

十一、備付道具類

一、拾弐吋「モンキーレンチ」 壱　一、「スクリユードライバー」 壱

一、「レンチ」 七　一、「ロングショベル」 壱

一、「コールショベル」 壱　一、「フレーキ」 壱

一、「ダート」 壱　一、「プリツカー」 壱

一、「ウオーターゲージランプ」 壱　一、「プレツシヤーゲージランプ」 壱

一、「ヘツドライト」 壱

国立公文書館 National Archives of Japan

六結 61

第三三五號 大正七年 三月七日受領 月 日達濟 淨書 校合

第一三〇七號 大正七年 二月 日受領 二月四日立案

總務課長 技術課長

監督局長

副總裁

總裁

内閣總理大臣

内閣書記官長

内務大臣

次官

局 技術課長

土木課長 道路課長

川上軌道側線敷設ノ件

回議用紙 鐵道院

案

番號

大正六年十二月二十一日附土第四五四四號佐賀縣知事稟伺川上軌道株式會社側線敷設ノ件

年 月 日

内閣總理大臣

内務大臣

439

七二芸 印 課長 課員

26/12

〃 川上軌道

二 惣座停留場位置変更並側線敷設ノ件

本件支障ナシト認ム

裏面白紙

国立公文書館 National Archives of Japan

軌1307

4791

土 第四五四〇號

大正六年十二月六日

佐賀縣知事岡田宇之助

内閣總理大臣伯爵寺内正毅殿
内務大臣男爵後藤新平殿

川上軌道貨車引込線敷設工事施行ノ件

川上軌道株式會社ヨリ首記ノ件別紙ノ通申請ニ付調査候處右ハ明治四十五年七月二十五日付監第一〇七二號ヲ以テ特許相成候路線ニ該當シ從來乘客昇降ノミニ止メシ停留場ヲ貨物積卸ヲ併セ企テムトスルモノニシテ工法其ノ他ニ於テ支障無之モノト被認候條認可致度關係圖書添付此段及稟伺候也

佐賀縣

土4540

貨物積卸引込線敷設許可願

佐賀縣[illegible]郡[illegible]村
川上軌道株式會社

国立公文書館
National Archives of Japan

第一五八號

貨物積卸引込線敷設許可願

弊社軌道中惣座停留場ハ乗客ノ昇降ノミニ有之候処同地方ハ貨物集散ノ要地ニシテ之レカ積卸場ノ必要有生シ候ニ付佐賀起点ヨリ四哩六拾六鎖ノ個所ニ貨物積卸引込線敷設仕度ニ付御許可下度別紙設計書及図面相添ヘ此段奉願候也

大正六年十二月七日

佐賀県佐賀郡神野村大字神野千百弐拾八番ノ六

川上軌道株式会社

取締役社長真崎辰五郎

佐賀県知事岡田宇之助殿

惣堅貨物引込線敷設工事設計書

一金壱千参百拾五円五拾九銭

是ハ貨物引込線延七鎖六拾五節敷設工費

内譯

種目	材料	長	巾厚径	員数	單價	代價	摘要
用地	田			二〇七三	一六〇〇	三三一五二〇	
盛土	土砂	五六〇	三七 〇三五	七三五	一〇〇〇	七三五〇〇	持込搗堅メ共
水路側石垣	割石	三五	〇三	一一	四五〇〇	四九五〇	水路片側石垣用道路側ハ在来ノ石垣使用 扣一尺八寸ヲ
仝裏詰	栗石			〇二	七〇〇〇	一四〇〇	石垣平一坪ニ割合ヲ 至三寸以上
仝蓋石	花崗石	二五	一〇 〇四	二〇〇	九〇〇	一八〇〇〇	合及切リ合セ石垣上部ヘ据付ケ据付手間共
	石工			一一	一二〇〇	一三二〇	石垣平一坪ニ一人掛リ
	人夫			一七	六〇〇	一〇二〇	石工一人ニ二人五分掛リ 床堀手間共
小計						四三〇七一〇	
軌條敷設ノ部							
参拾封度軌條	工字形鋼鉄	三〇〇		三四〇	一四二〇〇	四八二八〇〇	
轉轍器				四〇組	三二〇〇〇	一二八〇〇〇	
轉轍器用枕木	檜材	自五六 至九六	六吋 四吋四分	四〇	一七五二〇	七〇〇八〇	
枕木	栗材	五〇	七七	一九〇挺	四〇〇	七六〇〇〇	
道床	砂利	三五		七七	八〇〇〇	六一六〇〇	一坪ニ付 軌條試合ヲと
上敷砂利	仝	三九〇	二〇 〇三	一六	九〇〇〇	一四四〇〇	
敷設方	工夫			四〇人	七〇〇	二八〇〇〇	
手傳	人夫			四〇〇	六〇〇	二四〇〇〇	
小計						八四四八八〇	
合計						一三一五五九〇	

本工事ハ大正二年九月十六日付御認可ヲ得タル工事方法ニ依リ施工スルモノトス

軌1807 7.2.25

土
第四五四〇號
大正七年二月二十日
佐賀縣知事大芝惣吉

鐵道院監督局長中西清一殿
内務省土木局長小橋一太殿

川上軌道貨車引込線敷設ノ件
二月一日附監軌第一三〇七號ヲ以テ御照會相成候首記ノ件調査候處左記ノ通ニ有之此段及回答候也

記

一、惣座停留場ノ位置ハ本工事竣功後變更スル豫定ニ有之候
二、圖面別紙ノ通整理候ニ付便宜御取替相成度候

本件ニ付テ来局打合済

第一三〇七號　大正七年二月一日受領
日達濟

第　號　大正七年一月二十三日受領
日立案

淨書　校合

總務課長

監督局長
土木局長

道路課長

技術課長

案

番號

年　月　日

西局長　宛

鐵道院總裁

回議用紙　鐵道院

459

263

めくれず

課長

受附大正　年　月　日　調了大正　年　月　日　日数

軌道名　川上軌道

件名　一　惣座停留場側線敷設ノ件

廻附先　課長

擔任

取扱

13/12

左記照會ヲ要ス

一、惣座停留場ノ位置ハ在来ノ線路図ニ依レバ佐賀起点四哩五十三鎖（ニシテ本稟添付図面ニ依レバ佐賀起点四哩六十六鎖トナレリ）今回側線敷設ト同時ニ其位置ヲ変更スルモノナリヤ

二、横断面図ニ道路ノ有効幅員ヲ記入スルコト又全図ニ記入ノ（寸法ニ依レバ）軌道中心ヨリ右側線路端迄ノ距離ハ平面図ノ記入ト一致セズ

264

照会

客年十二月十六日附土第四五四〇號稟伺川上軌道佐賀車引込線敷設ノ件

左記事項再照會有之度

参考

照會事項

二、

差出

265

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan